KONICA MINOLTA



DiMAGE X1

ディマージュ X1

J 使用説明書

目次

お買い上げありがとうございます。
ディマージュX1は、軽量・コンパクトなボディに光学3倍ズームを搭載した、有効画素数約800万画素のデジタルカメラです。超薄型ボディやメインスイッチを入れるとすぐに撮影ができる快適さに加え、シーンセレクターモードや動画撮影、音声記録、手ぶれ補正機能等豊富な機能を備えています。
ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

動画撮影/ボイスレコード 81

動画の撮影方法とボイスレコード(音声記録)の方法について説明しています。動画撮影/ボイスレコードの前に一通りお読みください。

再生モード 91

再生時のいろいろな機能について説明しています。必要に応じてお読みください。

(次ページへ続く →)

セットアップモード........................ 122

液晶モニターの明るさやメニュー表示言語、操作音・シャッター音などカメラの細かな設定を変更できます。必要に応じてお読みください。

パソコンと接続する........................ 139

このカメラで撮影した画像をお持ちのパソコンに取り込んで保存する方法や、付属のソフトウェアについて説明しています。

その他……………………………………… 165

PictBridge対応プリンタで画像を印刷する手順や、その他一般的な注意事項、トラブル時の処置等を記載しています。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

⚠ 危険 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う危険性が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

⚠ 警告 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

⚠ 注意 この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。(左図の場合は発火注意)

充電式リチウムイオン電池 NP-1 について

⚠ 危険

電池は指定カメラ以外の用途に使用しないでください。また充電には専用のクレードルをご使用ください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

電池の分解、改造、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。特に端子部分は濡らさないでください。また落としたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。
危険防止用の安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。また異常に気づいたときはすぐに使用を中止し、火気から遠ざけてください。

表面が破損した電池は使用しないでください。
電池内部でショート状態となり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

⚠ 危険

電池のプラス（＋）とマイナス（－）を針金などの金属で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり保管したりしないでください。
ショート状態になり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

適切な温度・湿度条件下で使用や保管を行なってください。
使用時温度：0℃～40℃
充電時温度：10℃～45℃
火のそばや炎天下の車中など（60℃以上になるところ）での使用や充電、保管、放置はしないでください。
高温になると安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。10℃以下だと電池の使用可能時間が著しく短くなります。常温（20℃±5℃）でのご使用をおすすめします。
保管時温度：－20℃～50℃
湿度：45%～85%

⚠ 警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。
そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

カメラ・クレードル・ACアダプターについて

⚠ 警告

指定された電池以外を使わないでください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

クレードル CA-1のACコードは、100-120ボルト、50/60ヘルツ用です。
日本、アメリカ、カナダ、台湾で使用できます。それ以外の国や地域では使用しないでください。
火災や感電の原因となります。

ACアダプター（セット）をご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店にご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（クレードルやACアダプター（セット）の場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

⚠ 警告

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を取り出し（クレードルやACアダプター（セット）の場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。裏表紙記載の弊社お客様センターにご相談ください。

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

カメラ・クレードル・ACアダプターについて（続き）

⚠ 警告

クレードルやACアダプター（セット）をご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。
コードが傷むと火災や感電の原因となります。傷んだコードは使用しないでください。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（クレードルやACアダプター（セット）の場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。
使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店に修理をご依頼ください。

⚠ 注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。
電池やカードが熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

⚠ 注意

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

クレードルやACアダプター(セット)使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

クレードルやACアダプター(セット)を布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時に電源プラグが抜けなくなったりします。

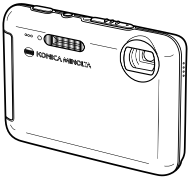
お手入れの際や長期間使用しないときは、クレードルやACアダプター(セット)の電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

クレードルやACアダプター(セット)を、電子式変圧器(海外旅行用の携帯型変圧器など)を介してコンセントに接続しないでください。
故障や火災の原因となります。

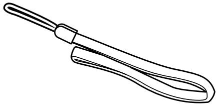
内容物の確認

お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

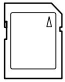
カメラ本体
（DiMAGE X1）



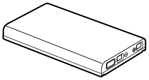
ハンドストラップ
HS-DG150



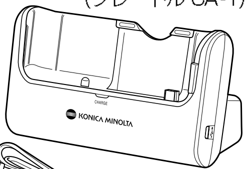
SDメモリーカード



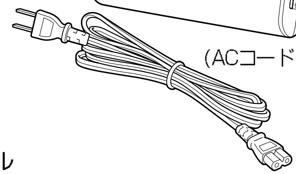
充電式リチウムイオン電池*
NP-1



クレードルセット CA-1
（クレードル CA-1）

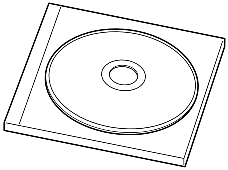


（ACコード APC-170）

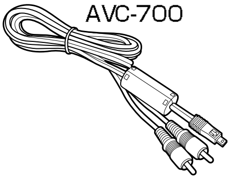


デジタルカメラソフトウェアCD-ROM

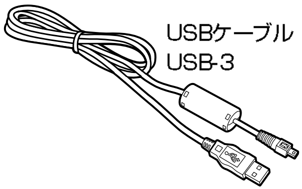
- Kodak EasyShare ソフトウェア
- DiMAGE Master Lite
- Windows98/98SE用USBドライバ
- QuickTime



AVケーブル
AVC-700



USBケーブル
USB-3



本使用説明書

アフターサービスのご案内

コニカミノルタからのお知らせ

保証書

*電池の模造品にご注意ください。模造品には危険防止用の安全機構が備えられていない場合があり、使用はたいへん危険です。弊社純正の充電式リチウムイオン電池をお使いください。

使用後は
リサイクルへ
Li-ion

この製品にはリチウムイオン電池を使用しています。不要になった電池は、お住まいの自治体、または、リサイクル協力店等の規則に従って、正しくリサイクルしてください。

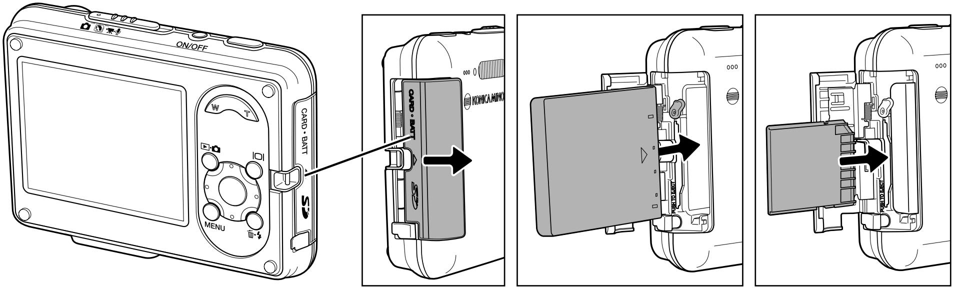
【リサイクル協力店お問い合わせ先】
社団法人　電池工業会
TEL　：03-3434-0261
ホームページ：http://www.baj.or.jp/

ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録をお済ませください。同梱されている「コニカミノルタからのお知らせ」に記載の弊社ホームページからオンラインユーザー登録を行っていただけます。

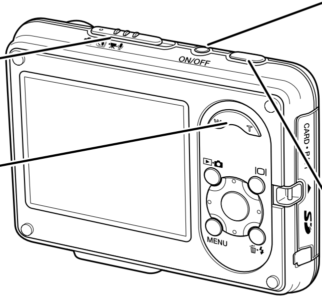
早分かり　詳しくは本文をご覧ください。

準備をする



1. 電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。→P.21
2. 充電済みの電池を入れます。→P.21
3. カードを入れます。→P.26

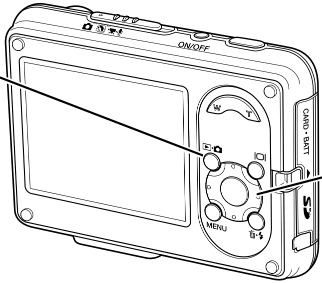
撮影する →P.32



1. メインスイッチを押して電源を入れます。
2. モード切り替えレバーを またはに合わせます。
3. ズームレバーで撮りたいものの大きさを決めます。
4. シャッターボタンを押して撮影します。

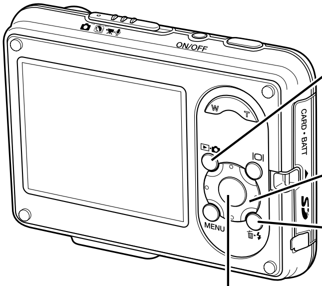
再生する →P.44、92

1. 再生/撮影切り替えボタンを押して、再生モード［▶］にします。



2. 十字キーの左右で見たい画像を選びます。

消去する →P.45、102



1. 再生/撮影切り替えボタンを押して、再生モード［▶］にします。

● 撮影された最新の画像が表示されます。

2. 十字キーの左右で消去したい画像を選びます。

3. 消去ボタンを押します。

● 右の確認画面が現れます。



4. 十字キーの左右で[はい]を選んで、十字キー中央の実行ボタンを押します。

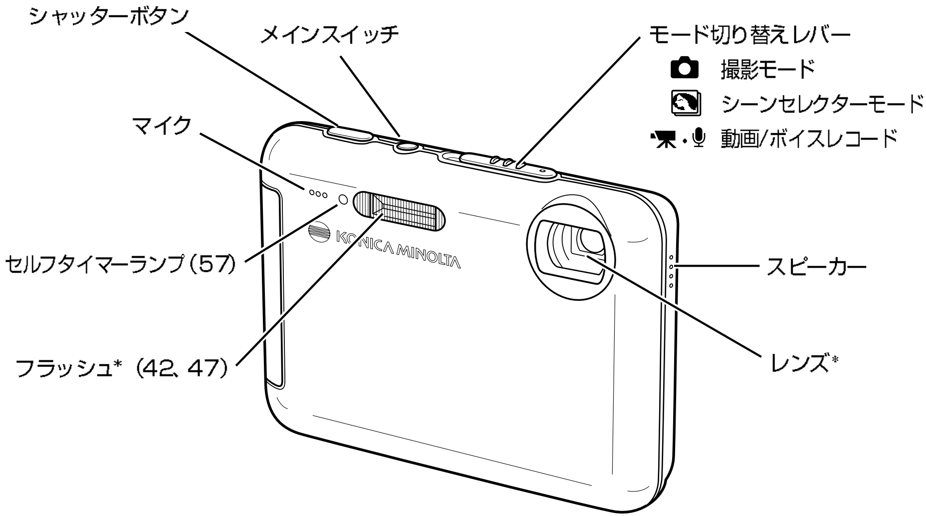
● 画像が消去されます。

● 消去しない場合は、十字キーの左右で［いいえ］を選択してください。

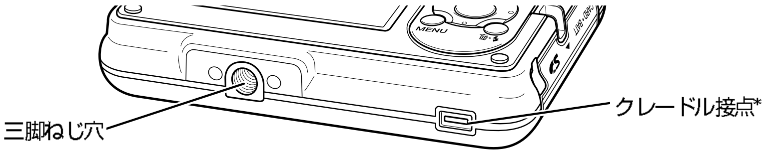
各部の名称

*の付いたところは、直接手で触れないでください。（ ）内は参照ページです。

ボディ前面

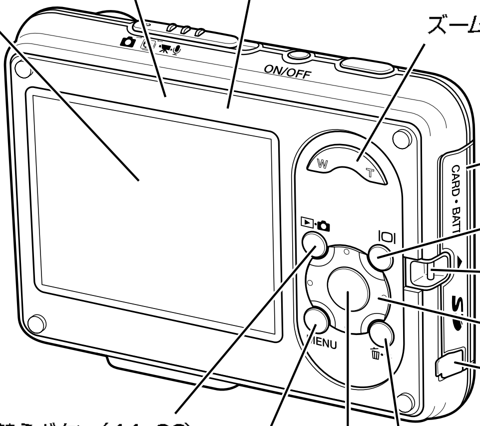


ボディ底面

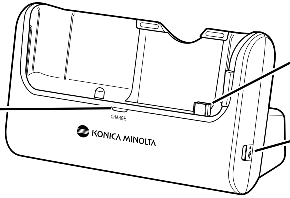


ボディ背面

＊＊の付いたところは、必要時のみ点灯します。

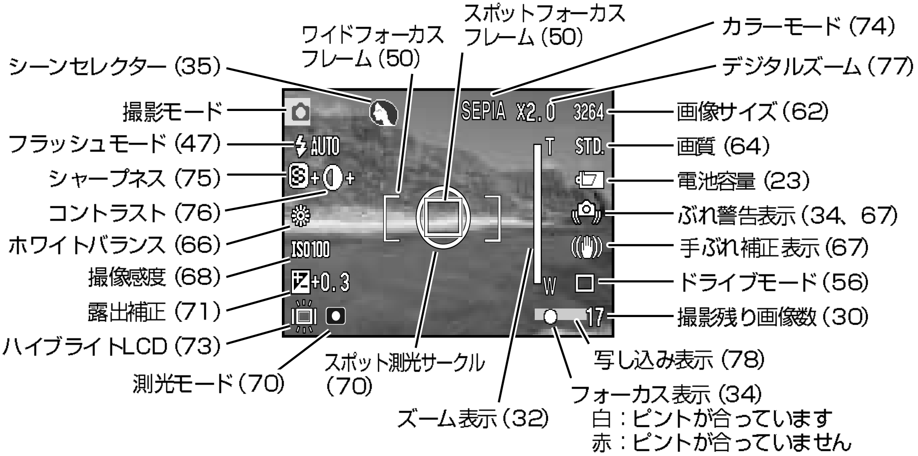


クレードル（付属品）

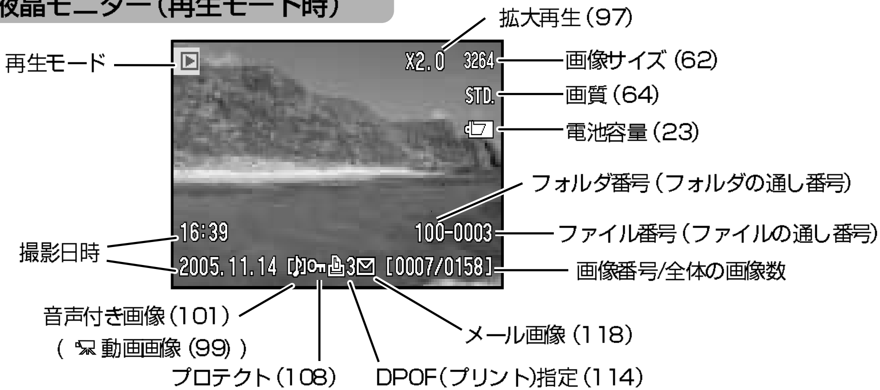


各部の名称（説明のためすべての表示を点灯させています。）

液晶モニター（撮影モード時）



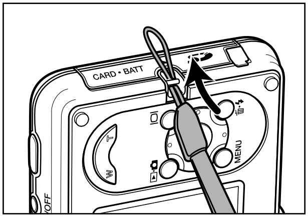
液晶モニター（再生モード時）



基本撮影

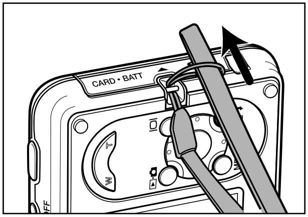
この章では、カメラの準備および最も基本的な撮影方法・再生方法を説明しています。

ストラップの取り付け方



1.ストラップ取り付け部に、ストラップの短い方を通します。

- 先端を細くして通してください。
- 取り付け部に対して垂直に押し込むようにすると通りやすくなります。通らない場合は、先の細い物で先端を引っ張り出してください。



2.通したストラップの輪に、もう一方の端を通して引っ張ります。

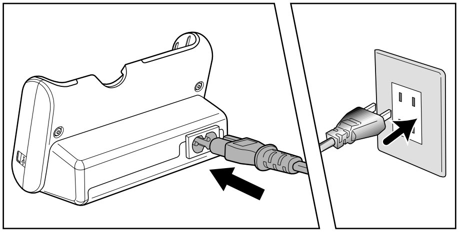
電池を入れる

このカメラでは、付属の専用電池（充電式リチウムイオン電池NP-1）を使用します。お買い上げの際には電池は充電されていません。付属のクレードルセット CA-1で完全に充電してからお使いください。

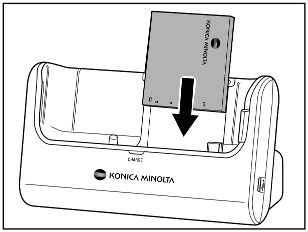
● クレードルに付属のACコードは日本国内用です。海外でのご使用については184ページをご覧ください。

電池（単体）を充電する

● 専用電池（NP-1）以外は充電しないでください。

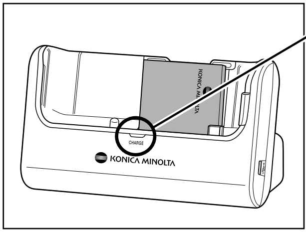


1. 付属のクレードルの電源コードを、クレードルの電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。



2. 電池をクレードルに取り付けます。

● 接点部分を下に、文字面を前に向けて入れてください。



● 充電が開始されます。充電中は充電ランプが点灯します。

● 充電時間は約120分です。

3. 充電ランプが消えたら充電完了です。

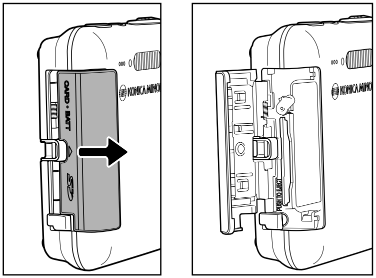
4. 先に電池をクレードルから取り出してから、コードをコンセントから抜いてください。

● 電池の充電は、ご使用の直前か前日ぐらいにされることをおすすめします。充電した状態で長時間放置すると、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。

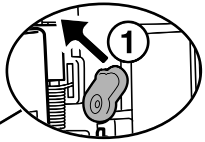
● 電池の状態によっては、クレードルに取り付けた後充電開始までに数秒かかることがあります。

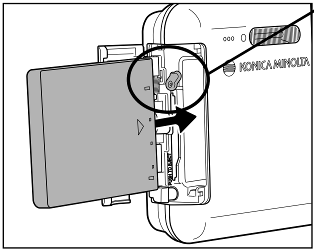
- 電池を保管するときは、ほぼ使い切った状態での保管をおすすめします。フル充電状態での保管は電池の寿命を縮めたり劣化の原因となりますので避けてください。
- 長期間使用しないときは、少なくとも半年に1回、5分程度の充電をし、カメラでほぼ使い切った状態にしてから再び保管してください。自然放電により完全に放電してしまうと、充電しても使えなくなることがあります。
- 充電しても著しく撮影枚数が少ない場合は、電池の寿命です。新しい電池をご購入ください。
- 所定の充電時間を越しても充電が完了しない場合には充電を止めてください。

電池を入れる



1. 電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。





2. 電池ロックレバーを図の方向に押しながら①、接点を先に、文字面をカメラ前面側にして電池を入れます。

- 電池ロックレバーは①の方向にのみ操作してください。反対方向に操作すると、レバーが折れることがあります。

3. 電池室/カードスロットふたを元通り閉めます。

- 最後まで確実に閉めてください。

電池の追加購入

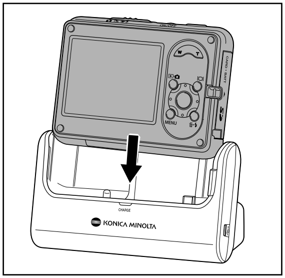
このカメラの専用電池(充電式リチウムイオン電池NP-1)を追加で購入される場合は、別紙「アフターサービスのご案内」に記載の弊社フォトスクエア、コニカミノルタネットショップ(弊社ホームページhttp://ca.konicaminolta.jp/よりアクセス可能)、お買い求めの販売店のいずれかにてご購入ください。

電池をカメラに入れたまま充電する

カメラに電池を入れたままでも、付属のクレードルセットで電池を充電できます。

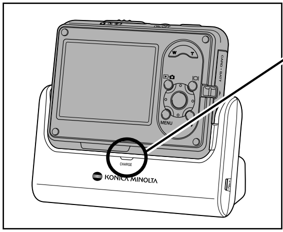
1. カメラに電池を入れます。詳しくは→21ページ

2. 電源コードを、クレードルの電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。



3. カメラの電源が切れていることを確認して、カメラをクレードルに取り付けます。

- 液晶モニターを前に向けて、スタンドに立ててください。
- 充電が開始されます。充電中は充電ランプが点灯します。充電時間は約120分です。
- カメラの電源が入っていると充電されません。
- カメラを取り付けても充電ランプが点灯しない場合は、カメラをいったん取り外して再度取り付け直してください。



4. 充電ランプが消えたら充電完了です。

5. 先にカメラをクレードルから取り外してから、コードをコンセントから抜いてください。

- カメラをクレードルに取り付けたままコードを抜くと、放電しやすくなります。

- クレードルは、テレビで画像を見るとき（→P.95）や、パソコンと接続する際（→P.142）やプリンタとのPictBridge接続時（→P.166）のカメラスタンドとしてもお使いいただけます（カメラの電源が入っているときは電池の充電は行われません）。
- カメラ底面のクレードル接点にほこり等がついていると、充電されない場合があります。乾いた先の細い綿棒などでときどきクレードル接点を拭いてください。

電池容量の確認

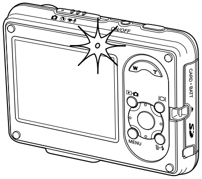
メインスイッチを押して電源を入れたり、撮影・再生モードを切り替えたりすると、電池の容量が液晶モニターに表示されます。



電池容量は十分です。（4秒間のみ表示）

電池容量が少なくなりました。

（赤色になった場合）電池の交換をおすすめします。
この状態でも撮影はできますが、動画撮影（P.83）、手ぶれ補正（P.67）、バラエティ連写（P.56）は使用できません。
これより電池容量が少なくなると節電のためフラッシュ充電中は液晶モニターが消灯します。

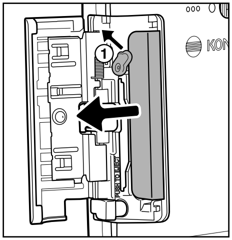


赤ランプが3秒間すばやく点滅（左図）、または「電池がなくなりました」というメッセージが現れるときは、電池を充電するか、新しい電池と交換してください。シャッターは切れません。

- 何も表示されないときは、電池が充電されているかどうか確認してください。
- 長時間の撮影時には、別売りのACアダプターセット AC-402の使用をおすすめします。

電池を取り出す

電池を取り出すときには、電源が入っていない（＝カメラがOFFになっている）のを確認してから取り出してください。



1. 電池室/カードスロットふたを開けます。

- ふたの開け方は → P.21

2. 電池ロックレバーを図の方向に押して①、電池を取り出します。

- 電池ロックレバーは①の方向にのみ操作してください。反対方向に操作すると、レバーが折れることがあります。

オートパワーオフ（操作しないでいると自動的に電源が切れます）

約3分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的にカメラの電源が切れます（オートパワーオフ）。撮影を再開する場合は、もう一度メインスイッチを押して電源を入れてください。

● オートパワーオフまでの時間（初期設定は3分）を変更することもできます。→ P.129

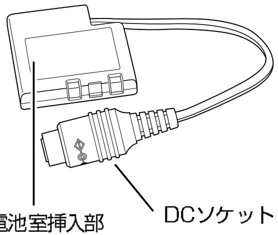


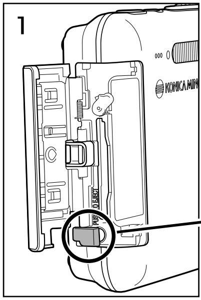
● 長時間電池を抜いたままにしておくと、日時の設定が失われ、起動時に液晶モニターに左のメッセージが現れます。十字キーの左右で［はい］を選んで十字キー中央の実行ボタンを押すと、日時設定画面になり、日付・時刻を設定できます（→ P.28）。
● ［いいえ］を選んで実行ボタンを押すと、左のメッセージは消えます。なるべく日付・時刻を設定されることをおすすめします（→ P.28）。

ACアダプターセット（別売り）

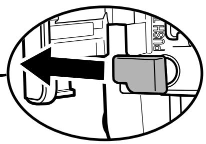
屋内などAC電源が使える場合は、別売りのACアダプターセット AC-402を使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。
ACアダプターセット AC-402は、ACアダプター AC-4とDCアダプター DA-200との組み合わせ商品です。

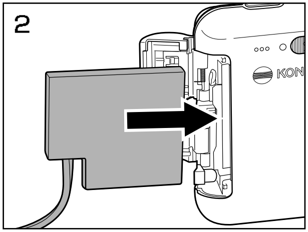
【DCアダプター DA-200】





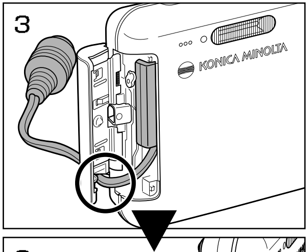
1. カメラの電源を切り、電池室/カードスロットふたを開け、電池室/カードスロットふた横にあるDCアダプターコード穴カバーを開けます（下図）。





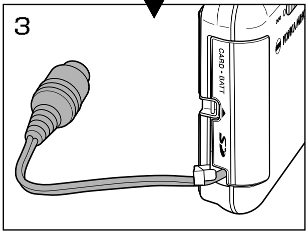
2. 21ページ［電池を入れる］と同じ要領で、DCアダプターDA-200の電池室挿入部を電池室に入れます。

● 接点を先に、文字面をカメラ前面側にして、電池室に奥まで入れてください。



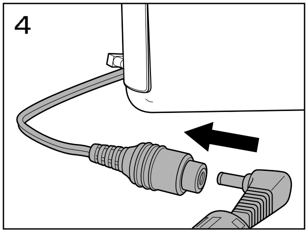
3. 操作1.で開けたコード穴にDCアダプターDA-200のコードを収めて、電池室/カードスロットふたを元通り閉めます。

● 左図のようにコードを穴に収めないと、ふたを元通り閉じることができません。



4. DCアダプターDA-200コード先端のDCソケットにACアダプターAC-4のDCプラグを差し込みます。

5. ACアダプターAC-4の電源プラグをコンセントに差し込みます。



※カメラにACアダプターセットを装着した状態でクレードルに取り付けないでください。故障の原因になります。

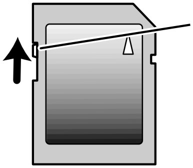
取り外し方

1. カメラの電源を切ります。
2. 電源プラグをコンセントから抜いて、ACアダプターのDCプラグをDCアダプターのDCソケットから取り外します。
3. 電池室/カードスロットふたを開け、23ページ［電池を取り出す］と同じ要領でDCアダプターの電池室挿入部を取り出した後、ふたを元通り閉めて、DCアダプターコード穴カバーを閉じます。

カードを入れる/取り出す

入れ方

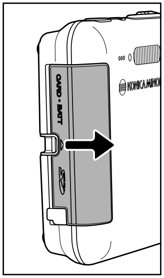
画像を記録するには、SDメモリーカードまたはマルチメディアカード（以下、カード）が必要です。付属のSDメモリーカードは、そのままこのカメラに入れてお使いになれます。



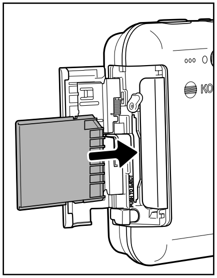
ライトプロテクトスイッチ

- SDメモリーカードには、ライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチがついています。このスイッチを下にスライドさせると、カードへのデータ書き込みが禁止され、カード内の画像等を保護することができます。書き込みする際には、スイッチを上に上げてください。

カードを入れるときには、電源が入っていない（＝カメラがOFFになっている）のを確認してから入れてください。



1. 電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。



2. カードのラベルをカメラの背面側、接点を前面側に向け、ラベル上の▼マークを挿入口に向けて、カチッと音がするまで押し込みます。

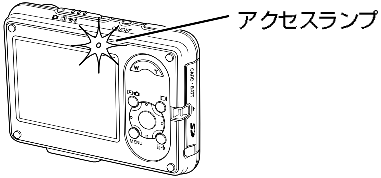
- まっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
- カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめて正しく入れ直してください。
- 奥まで入ると、カードはロックされます。

3. 電池室/カードスロットふたを閉めます。

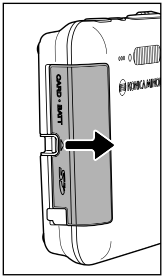
● 閉まらない場合は、下の要領でカードを一度押し込んでから取り出し、向きを確かめて正しく入れ直してください。

● カードが入ってないときは、「カードが入っていません」というメッセージが現れます。また、撮影モードでは撮影残り画像数が、動画・ボイスレコードモードでは時間表示が、赤色の－－－－になります。
● マルチメディアカードを使用した場合、SDメモリーカードと比べて撮影・再生時の動作応答時間がかなり長くなります。

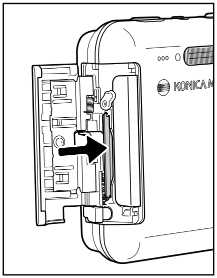
取り出し方



赤色のアクセスランプが点滅している間は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。



1. カメラがOFFになっているのを確認後、電池室/カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。



2. カードをカチッと音がするまで中に押し込みます。

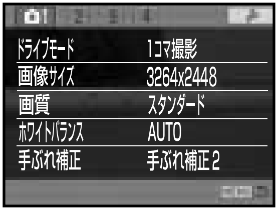
● ロックが外れ、カードが出てきます。

3. カードを取り出し、電池室/カードスロットふたを閉めます。

日時を設定する

カメラに電池を入れたあと、撮影を開始される前に日付・時刻の設定を確認してください。

メニューで日時設定画面を表示させる

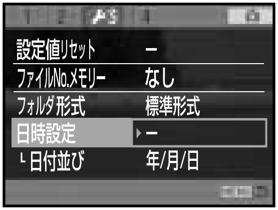


1. メニューボタンを押してメニュー画面を表示させます。モード切り替えレバーはどの位置でも構いません。

2. 十字キーの左右を押して画面右上の［🔧］を選んで反転させ、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● セットアップモードのメニュー画面になります。

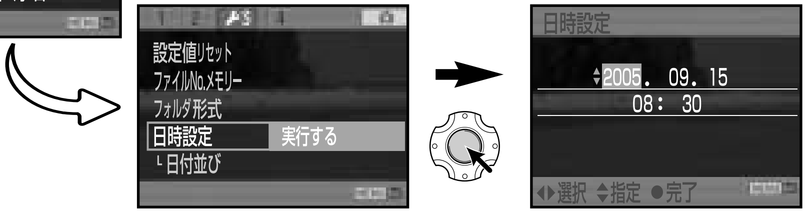




3. 十字キーの左右で［🔧3］を選び、上下で［日時設定］を選びます。

4. 十字キーの右を押して［実行する］が表示されたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 日時設定画面になります。



5. 日時設定を変更する場合は、右ページの2～5の手順で設定します。

● カメラの電池を入れると、日付・時刻記憶用の内蔵バックアップ電池の充電が開始されます。フル充電するには約24時間かかります（その間メインスイッチはOFFにできます）。フル充電後は、カメラの電池を抜いている間でも、内蔵バックアップ電池が約1ヶ月間設定を記憶しているので、この間に電池交換を行ってください。カメラの電池を長時間抜いて設定が消えてしまった場合は、左のページの要領で再設定してください。

● 日付の並び順を変えることができます。→P.137

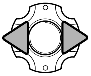
● 日時設定を行った後に電源を切ると、アクセスランプがしばらく（30秒前後）点滅した状態になることがあります。これは、CCD（撮像素子）の調整を行うためで、故障ではありません。アクセスランプが消灯するまでは、カメラの電池を抜かないでください。

日付・時刻設定を促すメッセージが現れた場合



電池を抜いたまま長時間放置した後でカメラを使うときなどは、左図のメッセージが現れます。

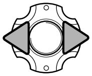
日時設定画面



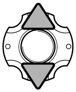
1. 十字キーの左右で［はい］を選んで、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 日時設定画面になります。





2. 十字キーの左右で修正したい項目を選びます。

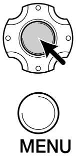


3. 十字キーの上下で数値を設定（変更）します。

● キーを押し続けると、数値が早送りされます。



4. 必要なだけ2.～3.の操作を繰り返します。



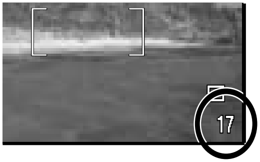
5. 修正が終わったら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 日付設定が完了し、時計がスタートします。

● 途中でメニューボタンを押すと、日時設定を行なわずに元の画面にもどります。

撮影の準備

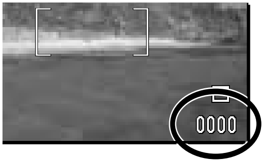
撮影残り画像数



カードを入れて、カメラの電源を入れ撮影モードにすると、液晶モニター右下に撮影残り画像数(現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか)が表示されます。

1枚のカードに記録できる画像数は、カードの容量、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。付属のカード(32MB)で初期設定(画像サイズ3264×2448、画質スタンダード)で撮影する場合、記録できる画像数は約13枚です。

● 異なる容量のカードを使用した場合や、画像サイズ・画質を変更した場合、また動画撮影を行なった場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。※詳細は → P.65

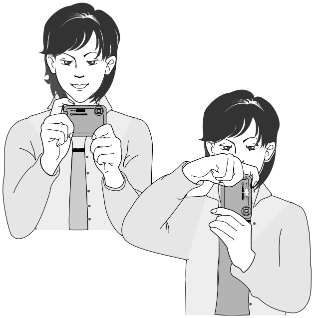


●「0000」が赤字で表示され、「カードに空きがありません」というメッセージが出たときは、カードがいっぱいです。画像サイズまたは画質を変更する、カード内の画像を消去する、カードを交換する、のいずれかを行なってください。

画像サイズの変更 → P.62
画質の変更 → P.64
画像の消去 → P.45、104

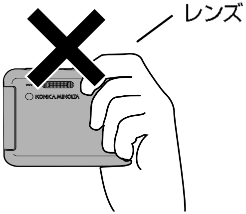
● ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては、撮影後に撮影残り画像数表示が変化しない場合もあります。

カメラの構え方



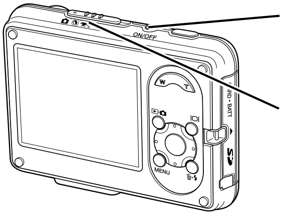
手ぶれが起こらないよう、脇を締め、両手でしっかりとカメラを構えて撮影してください。

- 縦位置で撮影するときは、フラッシュをレンズより上にしてください。
- レンズやフラッシュなど、カメラの前面に指や髪、ストラップがかからないようにしてください。
- 動画撮影時（→ P.83）やボイスレコード（→ P.90）、アフレコ（→P.107）で録音中は、カメラ前面にあるマイクを指などでふさがないようにしてください。



レンズやフラッシュに指をかけないように！
失敗の原因となるので注意してください。

撮影する



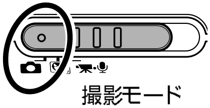
1. メインスイッチを押して電源を入れます。

● 電池やフラッシュの充電状態によっては、起動時間が若干長くなったり、操作を受け付けないことがあります。

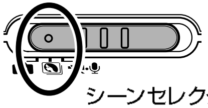
2. モード切り替えレバーを （シーンセレクターモード）または （撮影モード）に合わせます。

● シーンセレクターモードでは、自分で撮影シーンを選べます。シーンに合った画像を簡単に撮ることができます。

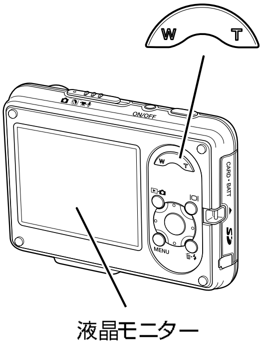
● 撮影モードでは、メニューで設定を変えて、シーンセレクターモードよりも多様な撮影ができます。



撮影モード

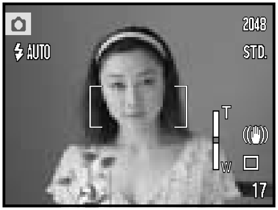


シーンセレクターモード



3. 液晶モニターを見ながら構図を決め、ズームレバーで大きさを決めます。

● ズームレバーの「T」側を押すと望遠に、「W」側を押すと広角になります。液晶モニターに表示されるズーム表示がズーム位置の目安をお知らせします（表示上側が望遠、下側が広角）。



撮影モード

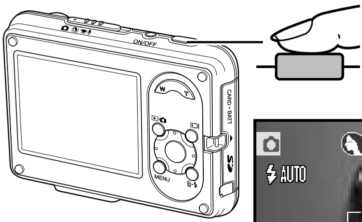


シーンセレクターモード

● 液晶モニター内の［　］中のものにピントが合います。

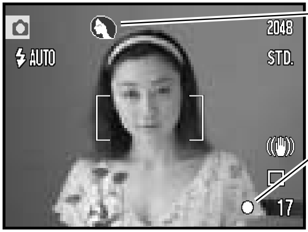
※ピントが合わないときは →P.41

● 撮りたいものから広角側は10㎝以上、望遠側は40㎝以上離れてください。



4. シャッターボタンを半押しします。

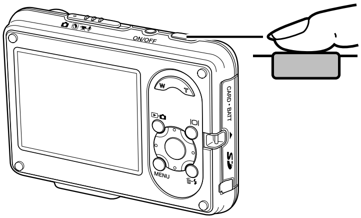
● シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼びます。



● シーンセレクターモードでは、自分で希望の撮影シーンを選択できます。→P.35

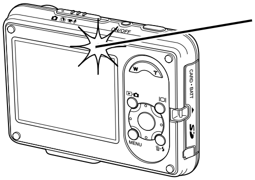
● シャッターボタンを半押しするとピントが合います。ピントが合うと、液晶モニター右下には白い○が点灯します。

※半押ししたときのその他の表示については →次ページ



5. シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

● 撮影後シャッターボタンを押し込んだままにしていると、撮影した画像が液晶モニターに表示され確認することができます。シャッターボタンを押し続けなくても、撮影した画像を約2秒間液晶モニターに表示させることができます（アフタービュー、P.72）。



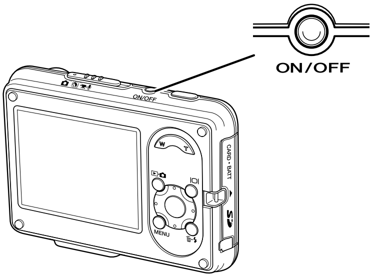
● 撮影された画像は自動的にカードに記録（書き込み）されます。書き込み中は赤色のアクセスランプが点滅します。その間はカードを取り出さないでください。

赤色のアクセスランプが点滅している間は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

撮影する（続き）

● シャッターボタンを半押しした時に現れる表示の意味は以下の通りです。

液晶モニターの表示	状況
白色の○点灯	ピントが合っています。撮影できます。
赤色の●点灯	ピントが合わない、または、撮りたいものに近づきすぎています（→ P.40）。
	シャッター速度が遅くなっています。手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。



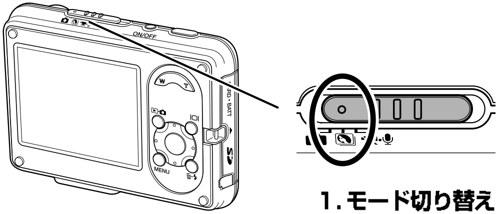
● 撮影終了後は、メインスイッチを押して電源を切ってください。

シーンセレクターモード

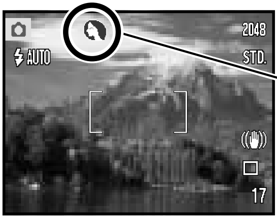
モード切り替えレバーをシーンセレクターモード（ ）の位置に合わせると、十字キーの左右を押すことで、自分で目的の撮影シーンを以下の中から選べます。



撮影シーンを設定する



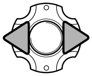
1. モード切り替えレバーを （シーンセレクターモード）に合わせます。



● 画面の上側に撮影シーンを表す絵表示が現れます。

（次ページへ続く →）

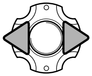




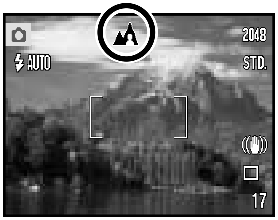
2. 十字キーの右または左を押します。

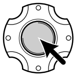
● 撮影シーンの選択画面が現れます。





3. 十字キーの左右を押して、希望の撮影シーンを選びます。





4. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

● 選択した撮影シーンを表す絵表示になります。

※各モードの説明は、37～39ページをご覧ください。

ポートレート

人物を美しく引き立たせ、人の肌をなめらかに再現します。

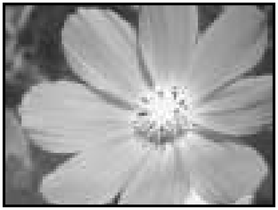
- 背景をよりぼかすには、レンズの望遠側の方が効果があります。



スーパーマクロ

5cmまで近づいて撮影できますので、小さいものをより大きく撮影できます。

- ズーム位置は自動的に固定されます。
- フラッシュでできる影が見苦しくなりますので、フラッシュ発光禁止（→P.49）で撮影することをおすすめします。
- 接写は暗くなる場合が多いので、照明を当てて十分に明るくできない場合は、三脚を使っての撮影をおすすめします。



風景

色は鮮やかに、輪郭はくっきりと描写します。全体的にピントが合って見えるように再現します。

- フラッシュ発光禁止（→P.49）で撮影することをおすすめします。
- 被写体が暗いときはシャッター速度が遅くなります。液晶モニターに が現れたときは、手ぶれに注意してください。三脚を使っての撮影をおすすめします。



（次ページへ続く →）

夕景

夕焼けの赤さを美しく描写することができます。夕景を背景とした人物撮影では、両者をバランスよく再現します。



- 人物のいない夕景のみの場合は、フラッシュ発光禁止（→ P.49）で撮影することをおすすめします。
- シャッター速度が遅くなります。液晶モニターに  が現れたときは、手ぶれに注意してください。三脚を使っての撮影をおすすめします。
- レンズを長時間太陽に向けたまま放置しないでください。CCD（撮像素子）を傷める原因となります。

夜景

黒をしっかりと再現し、明かりのない暗い部分は黒く、明るい部分は明るく写し出して、美しい夜景を描写します。



- フラッシュモードは発光禁止になります。
- シャッター速度が遅くなります。液晶モニターに  が現れたときは、手ぶれに注意してください。三脚を使っての撮影をおすすめします。

夜景ポートレート

夜景を背景に記念撮影する場合、両者をバランスよく再現します。



- フラッシュモードは、スローシンクロになります。
- シャッター速度が遅くなります。液晶モニターに が現れたときは、手ぶれに注意してください。三脚を使っての撮影をおすすめします。
- 撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してあげてください。

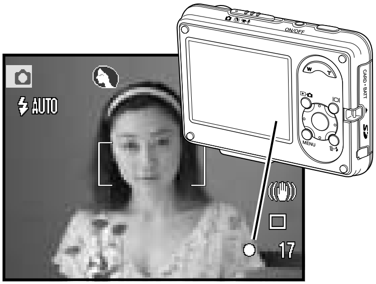
テキスト

書籍などの印刷物の文字が、背景が明るく仕上がり、文字がくっきりきれいに再現されるように設定されています。



- 撮影したい文字の背景が明るいほど、効果的に文字を撮影できます。
- 背景となる明るい部分が、撮影画面一杯になるように構図をとることをおすすめします。

ピント合わせ



シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、[　] の中のものにピントが合います。ピントが合うと、液晶モニターの白色のフォーカス表示○が点灯します。

赤い●が点灯したときは、ピントが合っていません。以下を確認してください。

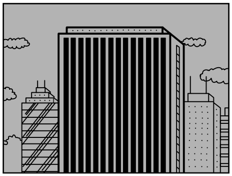
・撮りたいものから広角側は10cm以上、望遠側は40cm以上離れていますか？

・オートフォーカスの苦手な被写体（以下参照）を撮影しようとしていませんか？

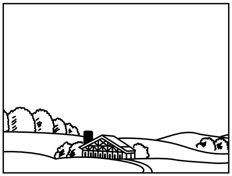
● 自分の意図する部分に、より厳密にピントを合わせたい場合は、スポットフォーカスフレームをお使いください（→ P.50）。

オートフォーカスの苦手な被写体

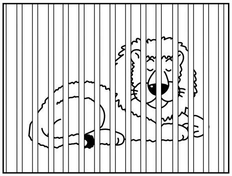
オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、次ページのフォーカスロック撮影で、被写体と同じ距離にあるものにピントを固定して撮影してください。



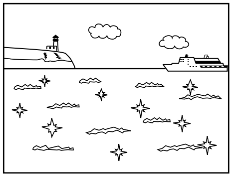
暗すぎるもの



青空や白壁など
コントラストのないもの

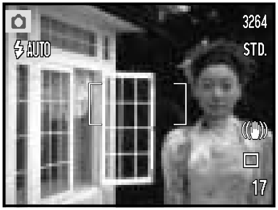


[　] の中に距離の異なるものが混じっているとき

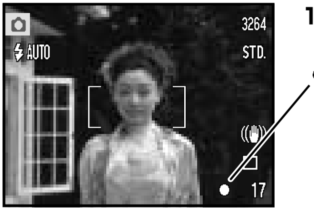


太陽のように明るいものや、車のボディ、水面などきらきら輝いているもの

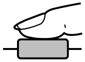
ピントを合わせたいものが画面中央にないとき



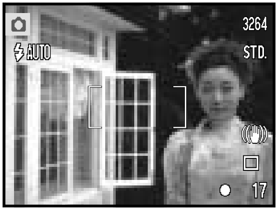
ピントを合わせたいものが画面中央にないときに、そのまま撮影すると、中心部の背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。



1. ピントを合わせたいものに[　]を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

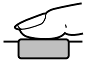


● ピントが合っていること（液晶モニター右下の白い○が点灯）を確認します。



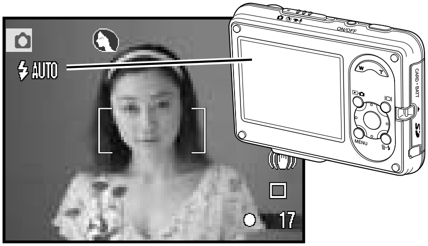
2. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

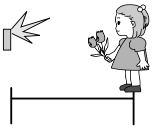


フラッシュ撮影

フラッシュが自動発光⚡AUTO の場合、必要なときには自動的に発光します。
※フラッシュの光り方を変更するには → P.47



● 液晶モニター右上の赤ランプが点滅したら、フラッシュが充電中です。赤ランプ点滅が終わると充電が完了しシャッターボタンを操作することができます。
● オートリセットが「あり」の場合は、電源を入れるたびに、フラッシュは自動発光⚡AUTO（ただし赤目軽減自動発光を設定していた場合のみ赤目軽減自動発光◉AUTO）になります。(→ P.126)





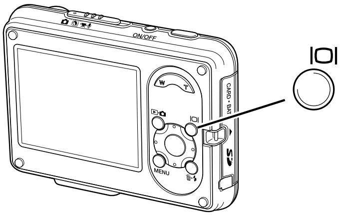
フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では2.2ﾒｰﾄﾙ、最望遠側では2.1ﾒｰﾄﾙを目安に撮影してください。(撮像感度AUTO時)

広角側：0.3～2.2ﾒｰﾄﾙ
望遠側：0.4～2.1ﾒｰﾄﾙ

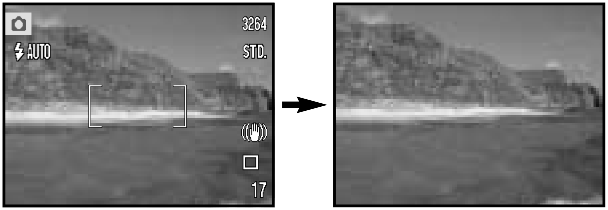
夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

● 撮像感度を変更すると、フラッシュ光の届く距離が変わります。(→ P.69)

画面表示の切り替え（撮影モード）



シーンセレクターモード（モード切り替えレバー 位置）または、撮影モード（モード切り替えレバー 位置）で液晶モニターボタンを押すと、以下の通り表示を切り替えることができます。



液晶モニター：表示あり　　液晶モニター：表示なし

- この使用説明書では、「表示あり」（左側）の状態で説明しています。

※各表示については →P.18

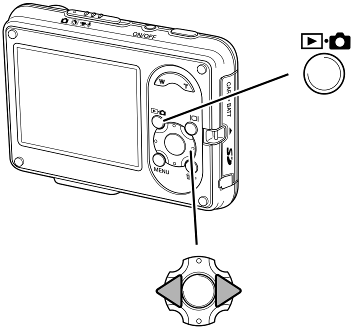
- 液晶モニターを「表示なし」にした場合でも、電池容量（P.23）、フォーカス表示、写し込み表示（P.78）は表示されます。
- 液晶モニターボタンを押し続けることで、モニターの輝度を上げることができます。

※ハイブライトLCD→ P.73

- オートリセットを「あり」にしている場合は、電源を入れ直すと「表示あり」（左側）の状態になります。

※設定を保持したいときは → P.126

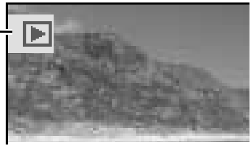
撮影した画像を見る



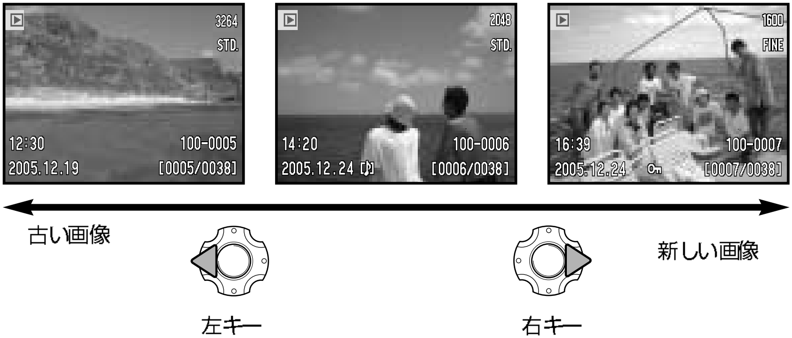
1. 再生/撮影切り替えボタンを押して、再生モード▶にします。

● 撮影された最新の画像が表示されます。

● 液晶モニターに再生モードが表示されます。



2. 十字キーの左右で見たい画像を選びます。



● 再生/撮影切り替えボタンをもう一度押すと、撮影モードにもどります。

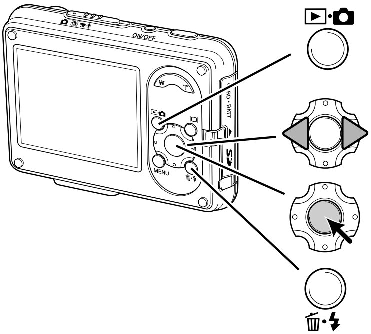
● 画像が記録されていない場合は、「画像がありません」と表示されます。

※再生モードの詳細については → P.92～

画像を手早く消去する

画像を1コマずつ簡単に消去することができます。

いったん消去した画像を復活させることはできません。



再生/撮影切り替えボタン

十字キー

実行ボタン（十字キーの中央部）

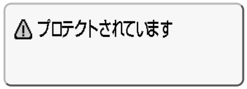
消去ボタン

1. 再生/撮影切り替えボタンを押して、再生モード ▶ にします。

2. 十字キーの左右で消去したい画像を選びます。

3. 消去ボタンを押します。





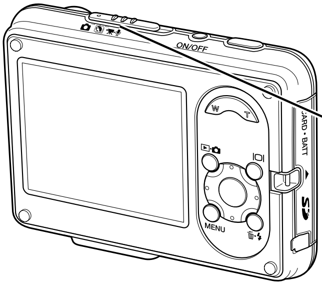
- 右（上側）の画面が現れます。
- 消去しない場合は、十字キーの左右で［いいえ］を選ぶか、メニューボタンを押してください。
- 画像がプロテクト（→ P.108）されていて、消去できない場合は右（下側）の画面が現われます。

4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

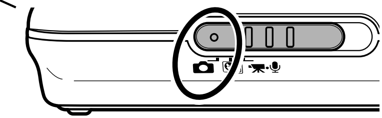
- 画像が消去されます。
- 消去後は次の画像が表示（再生）されます。他に消去したい画像があるときは、**2.**〜**4.**の操作を繰り返します。
- 再生/撮影切り替えボタンを押すと、撮影モードにもどります。

※複数の画像をまとめて消去するときは →P.104

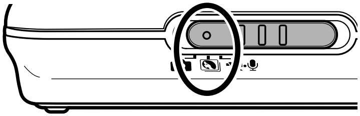
撮影モード（詳細）



モード切り替えレバーが 位置または 位置でのカメラの詳細な使い方について説明しています。



撮影モード



シーンセレクターモード

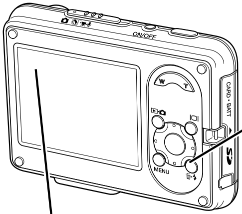
フラッシュの光り方を設定する



フラッシュの光り方を、自動発光、赤目軽減自動発光、強制発光、発光禁止、スローシンクロのうちから選んで設定することができます。

- 液晶モニター右上の赤ランプが点滅したら、フラッシュが充電中です。赤ランプ点滅が終わると充電が完了しシャッターボタンを操作することができます。
- オートリセットが「あり」の場合は、電源を入れるたびに、フラッシュは自動発光 AUTO（ただし赤目軽減自動発光を設定していた場合のみ赤目軽減自動発光 AUTO）になります。

※それ以外の設定を保持したいときは → P.126



フラッシュモードボタンを押すたびに、下の順序でフラッシュの光り方が切り替わります。

- 設定されるフラッシュの光り方が液晶モニター中央に大きく表示されます。ボタン操作をやめてしばらくすると、そのフラッシュの光り方に設定されて撮影画面にもどります。

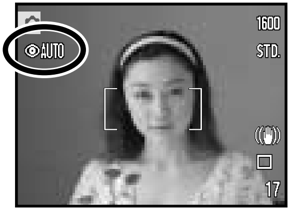
AUTO	自動発光	必要時にはフラッシュが自動的に発光します。→ P.48
AUTO	赤目軽減自動発光	フラッシュで人物の目が赤く写るのをやわらげます。 フラッシュは必要時には自動的に発光します。→ P.48
	強制発光	フラッシュは必ず発光します。→ P.48
	発光禁止	フラッシュは発光しません。→ P.49
SLOW	スローシンクロ	夜景を背景に人物を撮影するときに使います。→ P.49

自動発光



暗い場所や逆光など必要時には自動的にフラッシュが発光します。

赤目軽減自動発光

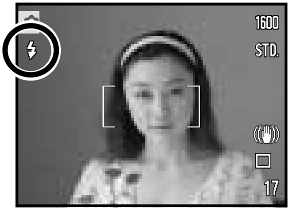


暗いところで人物を撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。このモードでは撮影の直前に小光量のフラッシュが発光し、目が赤く写るのをやわらげることができます。フラッシュは必要時には自動的に発光します。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに ◎AUTO を表示させます。

- シャッターボタンを押すと、数回小光量のフラッシュが発光し、その後本発光とともに撮影されます。
- シャッターボタンを押してから撮影までの間、カメラを動かしたり写される人が動いたりしないよう注意してください。

強制発光



フラッシュは必ず発光します。屋外の人物撮影で顔の影をやわらげたい時などにお使いください。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに ⚡ を表示させます。

発光禁止



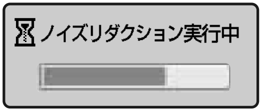
フラッシュは発光しません。美術館などフラッシュの使用が禁止されている場所や、風景・夜景などフラッシュ光が届かない被写体を撮影するときにお使いください。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに を表示させます。

- 暗いところでは手ぶれしやすいので、三脚などにカメラを固定して撮影されることをおすすめします（液晶モニター右下に が現れてお知らせします）。

ノイズリダクションについて

シャッター速度が遅い、使用温度が高いなどの状況によりノイズが発生しやすくなると、撮影後自動的にノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行なわれます。液晶モニターに「ノイズリダクション実行中」のメッセージが現れ、実行中は次の撮影はできません。



スローシンクロ



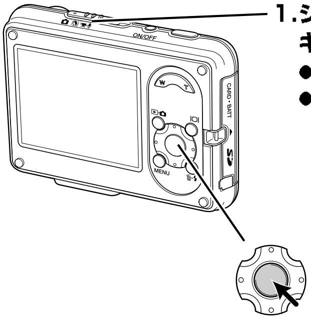
夜景を背景とした人物を撮影するときにお使いください。目が赤く写るのをやわらげるため、撮影の直前に小光量のフラッシュが発光します。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに SLOW を表示させます。

- 暗いところでは手ぶれしやすいので、三脚などにカメラを固定して撮影されることをおすすめします（液晶モニター右下に が現れてお知らせします）。
- 撮影される人物が動くと写真もぶれますので、動かないように注意してあげてください。

ねらいの部分にピントを合わせる（スポットAF）

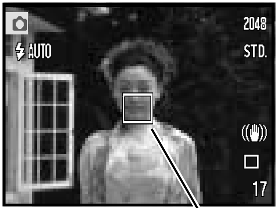
通常はワイドフォーカスフレームでカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。自分の意図する部分により厳密にピントを合わせたいときは、画面中心部のスポットフォーカスフレームでピントを合わせることもできます。



実行ボタン

1.シーンセレクターモード（）、または、撮影モード（）で、十字キー中央の実行ボタンを 数秒間押し続けます。

- 液晶モニターにスポットフォーカスフレームが現われます。
- もう一度十字キー中央の実行ボタンを数秒間押し続けるとワイドフォーカスフレームにもどります。

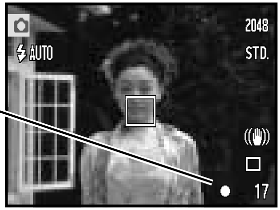


スポットフォーカスフレーム

- フォーカスフレームの切り替えは液晶モニターを表示ありにして行なってください。
- 液晶モニターボタンを押して液晶モニターを表示なしにした場合、フォーカスフレームの表示は消えますが、実際のピント合わせは表示ありで設定したフォーカスフレームで行われます。

2. ピントを合わせたいものにスポットフォーカスフレームを合わせ、シャッターボタンを半押しします。

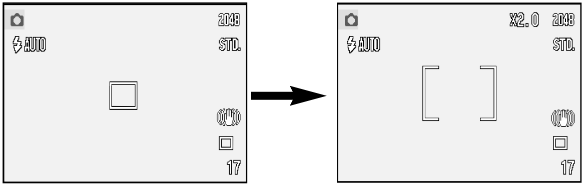
● ピントが合うと、液晶モニターの右下の白い○が点灯します。



3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

● オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、ワイドフォーカスフレームになります。スポットフォーカスフレームの設定を保持したいときは → P.126

● デジタルズーム時（→ P.77）のスポットフォーカスフレームは下図のように変わります。



デジタルズーム時

スポットAF

撮影モード時のメニュー設定

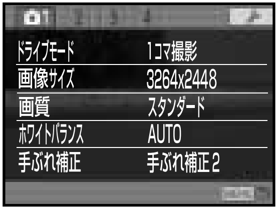
モード切り替えレバーが、シーンセレクターモード位置（）、または、撮影モード位置（）にあるときにメニューボタンを押すと、54〜55ページに示す設定が可能です。

メニュー設定のしかた

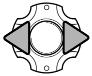
メニューの設定は、十字キーの上下左右と、十字キー中央の実行ボタンで行ないます。

1. モード切り替えレバーが、シーンセレクターモード位置（）、または、撮影モード位置（）にあるときにメニューボタンを押します。



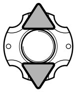


2. 十字キーの左右で、設定したい項目のあるタブ（1〜4）を選びます。



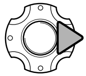


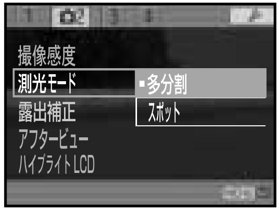
3. 十字キーの上下で、項目（メニュー画面の左側に表示されているもの）の中から設定したいものを選びます。



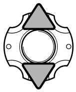


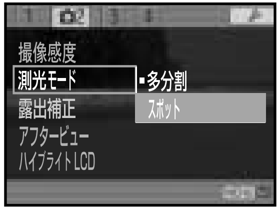
4. 右を押します。選ぶことのできる内容一覧が現れます。



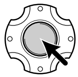


5. 上下で、内容一覧から設定したいものを選びます。





6. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。





この説明書では、以後、メニュー画面に対しての操作を以下のように表記します。

MENU →[2]→[測光モード]→【右側へ】→[スポット]→【実行】

この表記は、52ページ、53ページの操作手順1.~6.に対応しています。

①メニューボタンを押す。	*(→ 52ページ 操作 **1.**)。*
②十字キーの左右で[2]を選ぶ	*(→ 52ページ 操作 **2.**)。*
③上下で[測光モード]を選ぶ	*(→ 52ページ 操作 **3.**)。*
④右で右側の項目に移動(選べる設定の一覧が現れる)	*(→ 53ページ 操作 **4.**)。*
⑤上下で[スポット]を選ぶ	*(→ 53ページ 操作 **5.**)。*
⑥十字キー中央の実行ボタンを押して決定	*(→ 53ページ 操作 **6.**)。*

撮影モード時のメニュー設定（続き）

📷 1	
ドライブモード (→P.56)	[1コマ撮影]
	セルフタイマー
	連続撮影
	バラエティ連写
画像サイズ (→P.62)	[3264×2448]
	2560×1920
	2048×1536
	1600×1200
	640×480
画質 (→P.64)	ファイン
	[スタンダード]
	エコノミー
ホワイトバランス※ *(→P.66)*	[AUTO]
	昼光
	曇天
	白熱灯
	蛍光灯
手ぶれ補正 (→P.67)	手ぶれ補正1
	[手ぶれ補正2]
	なし

📷 2	
撮像感度※ *(→P.68)*	ISO 200
	ISO 100
	ISO 50
	[AUTO]
測光モード※ *(→P.70)*	[多分割]
	スポット
露出補正 (→P.71)	±2.0(1/3ステップ) [±0.0]
アフタービュー (→P.72)	あり
	[なし]
ハイブライトLCD (→P.73)	ON
	[OFF]

[ ]で囲んだものは初期設定です。

※シーンセレクターモード時は設定できません。

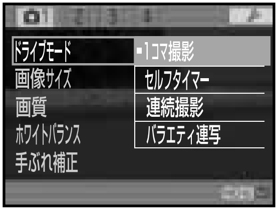
3	
カラーモード※（→ P.74）	[カラー]
	モノクロ
	セピア
シャープネス※（→ P.75）	ハード（＋）
	[標準]
	ソフト（—）
コントラスト※（→ P.76）	強い（＋）
	[標準]
	弱い（—）
デジタルズーム（→ P.77）	あり
	[なし]
日付写し込み（→ P.78）	年月日
	月日時刻
	[なし]

4	
上下キーカスタマイズ※（→P.79）	ドライブモード
	[露出補正]
	ホワイトバランス
	撮像感度
	なし
左右キーカスタマイズ※（→P.79）	ドライブモード
	露出補正
	ホワイトバランス
	撮像感度
	[なし]

[　　　　] で囲んだものは初期設定です。

※シーンセレクターモード時は設定できません。

ドライブモード



連続撮影やセルフタイマーなど、いろいろな撮影ができます。

1コマ撮影：　シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。

セルフタイマー：セルフタイマー撮影ができます。→ P.57

連続撮影：　シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影できます。→ P.58

バラエティ連写：

UHS連続撮影：シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約10コマの速度で連続撮影され、最高15枚まで撮影できます。→ P.58

シャッターチャンス連写：シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されますが、シャッターボタンを離す直前の数コマだけが記録されます。→ P.59

シャッターチャンスUHS連写：シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約10コマの速度で撮影され、シャッターボタンを離す直前の約15コマを記録できます。→P.59

マルチフレームショット：9回の連続したコマを、9分割した1枚の画像に撮影することができます。→P.61

＊UHS ＝ Ultra High Speed（ウルトラハイスピード）の略

● オートリセットが「あり」に設定されている場合は、電源を入れ直すと、ドライブモードの設定は1コマ撮影になります。　※それ以外の設定を保持したいときは → P.126

● 上下キーカスタマイズ、または、左右キーカスタマイズでドライブモードを設定すると、十字キーを押すだけでドライブモード（の設定）を切り替えることができます。　※詳しくは → P.79

1コマ撮影

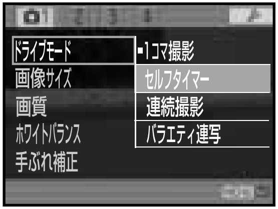
シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。初期設定は1コマ撮影です。

MENU → [1] → [ドライブモード] → 【右側へ】 → [1コマ撮影] → 【実行】 → MENU

セルフタイマー

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

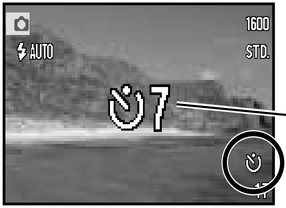
MENU →［📷1］→［ドライブモード］→【右側へ】→［セルフタイマー］→【実行】→ **MENU**



1. 上記の手順で、セルフタイマーを選びます。

- セルフタイマー設定時は液晶モニター右下に🕓が表示されます。

2. シャッターボタンを半押しし、被写体にピントが合っていることを確認します。



3. シャッターボタンを押し込みます。

- セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前にはランプが素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。
- セルフタイマー作動中は液晶モニター中央に撮影までの残り秒数が表示されます。
- セルフタイマー作動中はランプと同様に音でもお知らせします。音を消すこともできます（→P.128）。

- 作動中のセルフタイマーを止めるには、メニューボタンを押すか、ズームレバーを押してください。
- 撮影後、セルフタイマーは解除されます。

連続撮影

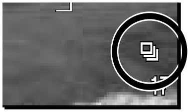
シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。毎秒約0.5コマで約3枚の連続撮影ができます（画像サイズ3264×2448、画質スタンダード、日付写し込み「なし」設定時）。

MENU →［📷1］→［ドライブモード］→【右側へ】→［連続撮影］→【実行】→ **MENU**

（次ページへ続く →）

1. 前ページの手順で、連続撮影を選びます。

● 連続撮影設定時は液晶モニター右下に が表示されます。

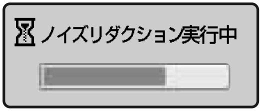


2. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

● ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。
● フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
● 日付写し込みを「あり」に設定している場合は、連続撮影の速度は遅くなります。
● 連続撮影できる枚数には、カメラのメモリ容量による上限があり、画像サイズや画質、被写体によって枚数が異なります（画像サイズ1600x1200、画質エコノミーのときは、約20枚）。デジタルズームを使用時は、枚数が少なくなります。

ノイズリダクションについて

シャッター速度が遅い、使用温度が高いなどの状況によりノイズが発生しやすくなると、撮影後自動的にノイズ軽減処理（ノイズリダクション）が行なわれます。液晶モニターに「ノイズリダクション実行中」のメッセージが現れ、実行中は次の撮影はできません。



UHS連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、毎秒約10コマの速度で連続撮影され、最高15コマまで撮影できます。

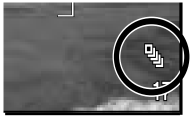
MENU →［ 1］→［ドライブモード］→【右側へ】→［バラエティ連写→【実行】

1. 上記の手順で、右の画面を表示させます。



2. 十字キーの左右で、UHS連続撮影 を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● UHS 連続撮影設定時は液晶モニター右下に が表示されます。



3. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

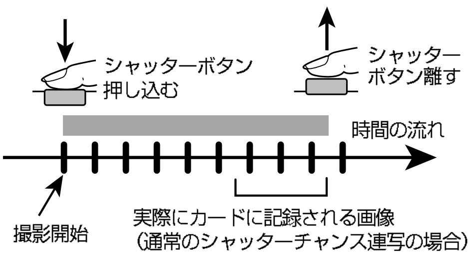
UHS連続撮影では、すべての画像データをいったんカメラ内部のメモリーに蓄積し、撮影完了後にデータをまとめてカードに書き込み（記録）します。よって、

● 撮影後、カードに書き込む時間が必要です。書き込み中は次の撮影はできません。
● カメラ内部のメモリ容量の関係上、連続で撮影できる最大コマ数は15コマです。

● 画像サイズは640×480画素に固定されます。
● フラッシュ撮影はできません。。自動的に発光禁止になります。
● ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。
● デジタルズーム（P.77）での撮影はできません。デジタルズーム時に後からUHS連続撮影に設定すると、デジタルズームは解除されます。
● 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の が点灯している場合）は、UHS連続撮影はできません（シャッターは切れません）。
● UHS連続撮影の場合、他の撮影画像と比べると画質がやや劣化することがあります。
● 強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。

シャッターチャンス連写　シャッターチャンスUHS連写

シャッターボタンを押し続けている間連続して撮影が行われますが、すべての画像が記録されるのではなく、シャッターボタンを離す直前の数コマだけが記録されます。テニスやゴルフのフォームのチェックなど、過去にさかのぼって動きを追いかける連続したシーンの撮影に効果的です。
通常のシャッターチャンス連写（毎秒約0.5コマ）では、画像サイズ 3264×2448、画質 スタンダードで約3コマ 約4秒前まで記録できます。また、シャッターチャンスUHS連写（毎秒約10コマ）では約15コマ、約1.5秒前までさかのぼって記録できます。



（次ページへ続く →）

ドライブモード

MENU →[📷1]→[ドライブモード]→【右側へ】→[バラエティ連写→【実行】

1. 上記の手順で右の画面を表示させます。

2. 十字キーの左右で、シャッターチャンス連写またはシャッターチャンスUHS連写を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 設定時は液晶モニター右下に選択したモードが表示されます。



通常のシャッターチャンス連写





シャッターチャンスUHS連写



3. シャッターボタンを押し続け、記録を終了したいタイミングで離します。

● ピント位置と露出は1コマ目で固定されます。
● フラッシュ撮影はできません.。自動的に発光禁止になります。
● デジタルズーム（P. 77）での撮影はできません。デジタルズーム時に後からシャッターチャンス連写またはシャッターチャンスUHS連写に設定すると、デジタルズームは解除されます。
● 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の が点灯している場合）は、シャッターチャンス連写およびシャッターチャンスUHS連写はできません（シャッターは切れません）。
● 手ぶれの少ない、適正な露出の撮影をするには、明るいところでの撮影をおすすめします。

通常のシャッターチャンス連写の場合

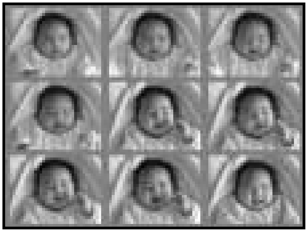
● 撮影残り画像数が少ない場合は、シャッターチャンス連写はできません（シャッターは切れません）。画像サイズによって枚数が異なります。

シャッターチャンスUHS連写の場合

● 画像サイズは640×480画素に固定されます。
● 撮影残り画像数が15枚以下の場合は、シャッターチャンスUHS連写はできません（シャッターは切れません）。
● 他の撮影画像と比べると画質がやや劣化することがあります。
● 強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。

田 マルチフレームショット

9回の連続したコマを、9分割した1枚の画像に撮影することができます。人の表情の変化などを撮影して楽しむことができます。



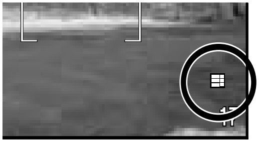
MENU → [📷1] → [ドライブモード] → 【右側へ】 → [バラエティ連写 → 【実行】

1. 上記の手順で右の画面を表示させます。



2. 十字キーの左右で、マルチフレームショットを選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

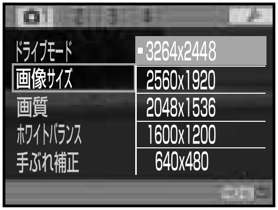
- マルチフレームショット設定時は液晶モニター右下に 田 が表示されます。



3. シャッターボタンを押して撮影します。

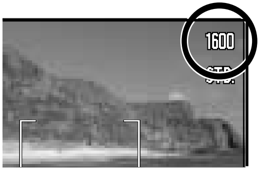
- 毎秒約3コマの速度で、計9コマ撮影されます。
- フラッシュ撮影はできません。。自動的に発光禁止になります。
- 画像サイズは2048×1536画素に固定されます。
- 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の ▭ が点灯している場合）は、マルチフレームショットはできません（シャッターは切れません）。
- 手ぶれの少ない、適正な露出のマルチフレームショットを撮影するには、明るいところでの撮影をおすすめします。
- 強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。

画像サイズ



画像の大きさを指定することができます。左図の5通りの中から選ぶことができます。

MENU →［1］→［画像サイズ］→【右側へ】→［希望のサイズ］→【実行】→ MENU



● 液晶モニター右上に、選んだ画像サイズが、大きい方の数値で表示されます。

デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ3264×2448画素の場合、画像は横に3264、縦に2448に分割され、その1点1点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数（記録画素数）を表し、画素 または ピクセル、ドットといった単位で表されます。

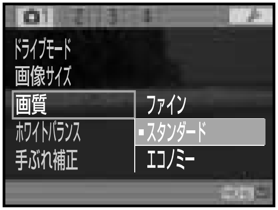
画像をプリント（印刷）する場合は、大きなサイズで撮影しておくほどきれいにプリント（印刷）できますが、1枚当たりのファイルサイズ（データ量）が大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。ご使用のカード容量や用途に合わせてお選びください。

このカメラでは、画像サイズを以下の5通りから選ぶことができます。

3264 × 2448	このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、大きくプリントする(*1) 場合におすすめします。約800万画素の画像が撮影できます。 (*1) A4（297㎜×210㎜）程度以上
2560 × 1920	パソコンに取り込んで編集するときや、大きめにプリントする(*2) 場合におすすめします。約490万画素の画像が撮影できます。 (*2) 2L版（178㎜×127㎜）～ A4（297㎜×210㎜）程度
2048 × 1536	パソコンに取り込んで編集するときや、やや大きめにプリントする場合におすすめします。約310万画素の画像が撮影できます。
1600 × 1200	パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする(*3) 場合におすすめします。約190万画素の画像が撮影できます。 (*3) L版（127㎜×89㎜）～ A5（210㎜×148㎜）程度
640 × 480	1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、Eメールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。

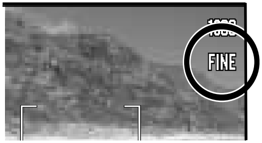
ここでいうプリントとは、印刷解像度150dpi ～300dpi の場合を指しています。

画質



画像の圧縮率を指定することができます。左図の3通りの中から選ぶことができます。

MENU →［📷1］→［画質］→【右側へ】→［*希望の画質*］→【実行】→ **MENU**



● 液晶モニター右上に、現在設定している画質が表示されます。
ファイン → FINE、スタンダード → STD.、エコノミー → ECON.と表示されます。

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとファイルサイズ（次ページ）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。
エコノミー → スタンダード → ファイン の順に高画質になりますが、高画質になるほど1枚当たりのファイルサイズが大きくなりますので、カードに記録できる（撮影できる）枚数は少なくなります。

表示	ファイル形式	説明
ファイン（FINE）	JPEG（圧縮率 小）	画像がJPEG（ジェイペグ）形式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えます。 JPEG形式で保存すると、圧縮率が大きいほど画質は劣化します。いったん劣化した画像を撮影後にパソコン等で復元することはできませんので、特に後で画像の加工や編集を行う場合、画質の設定は慎重に行ってください。一般的な目安は以下のとおりです。 プリント（印刷）する場合 → スタンダード、ファイン 画像を加工する場合 → ファイン Eメールに添付する場合など → エコノミー
スタンダード（STD.）	JPEG（圧縮率 中）	
エコノミー（ECON.）	JPEG（圧縮率 大）	

ファイルサイズと撮影画像数について

画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と付属のSDメモリーカード使用時の撮影画像数は以下の通りです。

- 下記の値は被写体やカードによって異なるため、あくまで目安とお考えください。
- 同じ容量のカードでも、メーカーや種類、撮影条件が異なると、撮影枚数など数値が異なることがあります。

画質

ファイルサイズ

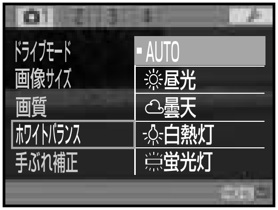
	3264×2448	2560×1920	2048×1536	1600×1200	640×480
エコノミー	約1.0MB	約600KB	約400KB	約240KB	約40KB
スタンダード	約2.0MB	約1.2MB	約800KB	約480KB	約80KB
ファイン	約4.0MB	約2.5MB	約1.6MB	約960KB	約150KB
動画	約1020KB/秒 (640×480) / 約420KB/秒 (320×240)				
音声*	約16KB/秒				

*ボイスレコード、アフレコ

32MB SDメモリーカード使用時の撮影画像数

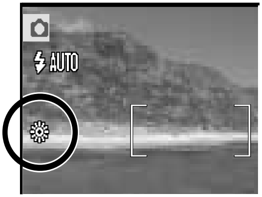
	3264×2448	2560×1920	2048×1536	1600×1200	640×480
エコノミー	約27枚	約44枚	約67枚	約102枚	約326枚
スタンダード	約13枚	約22枚	約35枚	約56枚	約231枚
ファイン	約9枚	約15枚	約24枚	約39枚	約183枚
動画	約29秒 (640×480) / 約1分10秒 (320×240)				
ボイスレコード	約31分47秒				

ホワイトバランス（シーンセレクターモードでは設定できません）



光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽくなったりします。これが白くなるように調整するのがホワイトバランスです。AUTO（オート）にすると自動的に調整されますが、意図的に選択することもできます。

MENU →［1］→［ホワイトバランス］→【右側へ】→［希望のホワイトバランス］→【実行】→ MENU



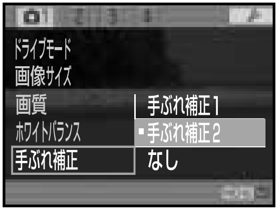
● AUTO（オート）以外を選択すると、液晶モニターに該当するマークが以下の通り表示されます。
  昼光（晴れた明るい屋外）
  曇天（曇った屋外）
  白熱灯（タングステン光）
  蛍光灯

● 複数の光源がある場合や、水銀灯など特殊な光源下では、正確なホワイトバランスが得られないことがあります。フラッシュの使用をおすすめします。

● オートリセットが「あり」に設定されている場合は、電源を入れ直すと、ホワイトバランスの設定はAUTOになります。　※それ以外の設定を保持したいときは → P.126

● 上下キーカスタマイズ、または、左右キーカスタマイズでホワイトバランスを設定すると、十字キーを押すだけでホワイトバランスの設定を切り替えることができます。　※詳しくは → P.79

手ぶれ補正

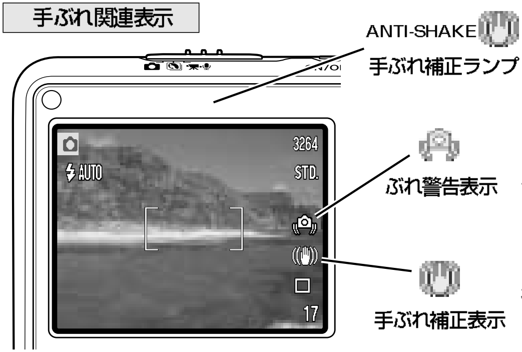


初期設定「手ぶれ補正2」では、露光中のみ手ぶれ補正機能が作動します。これを「手ぶれ補正1」に設定すると、シャッターボタン半押し中でも手ぶれ補正機能が作動するようにできます。また、手ぶれ補正機能そのものをなしにすることもできます。

- 静止画撮影時に手ぶれ補正機能が作動しているときは、補正動作が手に感じられることがあります。

MENU →［1］→［手ぶれ補正］→【右側へ】→［希望の設定］→【実行】→ MENU

手ぶれ関連表示



手ぶれ補正ランプ：「手ぶれ補正」を「手ぶれ補正1」または「手ぶれ補正2」に設定し、シャッターボタンを半押しすると、液晶モニター上のランプが点灯します。

ぶれ警告表示：手ぶれまたは被写体ぶれの可能性があります。しっかりカメラを構えるか、フラッシュまたは三脚の使用をおすすめします。暗い時や望遠での撮影時は、手ぶれ補正が作動中でも表示されることがあります。

手ぶれ補正表示：「手ぶれ補正」を「手ぶれ補正 1」または「手ぶれ補正2」に設定すると常時表示されます。赤くなったときは、手ぶれ補正は作動しません。

- 撮影時には両手でカメラをしっかり構え、まずシャッターボタンを1秒間程度半押しした後、ゆっくりシャッターボタンを押して撮影してください。
- 三脚使用時には、手ぶれ補正機能を解除されることをおすすめします。
- カメラを構えた直後や被写体を追いながら撮影する場合、夜景撮影などシャッター速度が遅いときには、手ぶれ補正の効果が現れにくいことがあります。
- 電池の容量が少ないとき（液晶モニターに赤色の が点灯している場合）や手ぶれ補正表示 が赤くなった時は、手ぶれ補正は作動しません。撮影はできます。
- オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すと手ぶれ補正は［手ぶれ補正2］になります。

※それ以外の設定を保持したいときは → P.126

撮像感度（シーンセレクターモードでは設定できません）



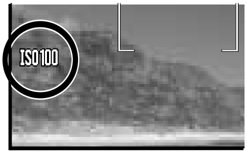
撮影時の感度を選択することができます。感度はISO（写真フィルムの感度の単位）の数値に換算して表されます。AUTO（オート）に設定すると、明るさや状況（フラッシュ発光の有無など）に応じて自動的に感度が調整されます。暗い場所での撮影やフラッシュ光の到達距離を伸ばしたいときには感度を上げる（＝数値を大きくする）と有効ですが、その分画像は粗くなります。

MENU →［2］→［撮像感度］→【右側へ】→［*希望の撮像感度*］→【実行】→ MENU

- 感度は以下の範囲から選ぶことができます。初期設定はオート（AUTO）です。
  オート（AUTO）、ISO 200、ISO 100、ISO 50

- オート（AUTO）の場合、感度はISO50〜160の範囲で自動設定されます。撮影中の表示はありません。
- オート（AUTO）の場合でもカメラの温度が上がった時は、ISO50〜100の範囲に制限されることがあります。

- オート（AUTO）以外の撮像感度を設定すると、液晶モニターの画面左側にISOと選んだ値が表示されます（下図）。



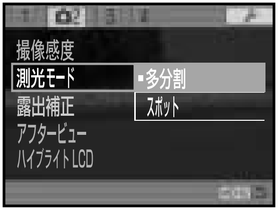
- オートリセットが「あり」に設定されている場合は、電源を入れ直すと、撮像感度の設定はAUTOになります。 ※それ以外の設定を保持したいときは → P.126
- 上下キーカスタマイズ、または、左右キーカスタマイズで撮像感度を設定すると、十字キーを押すだけで撮像感度の設定を切り替えることができます。 ※詳しくは → P.79

撮像感度変更時のフラッシュ調光距離

撮像感度を変更すると、フラッシュ調光距離(フラッシュ光の届く距離)は以下の通りになります。感度をあげるとフラッシュ調光距離は長くなりますが、画像が粗くなります。

撮像感度	フラッシュ調光距離	
	広角側	望遠側
オート(AUTO)	0.3～2.2メートル	0.4～2.1メートル
ISO 50	0.3～1.2メートル	0.4～1.1メートル
ISO 100	0.4～1.8メートル	0.4～1.6メートル
ISO 200	0.6～2.5メートル	0.6～2.3メートル

測光モード（シーンセレクターモードでは設定できません）

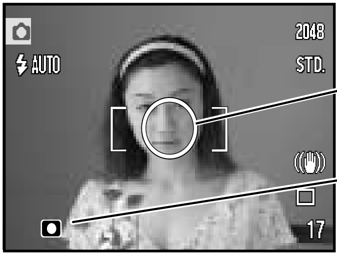


測光モード（画面のどの部分の明るさを測るか）を、多分割測光とスポット測光とで切り替えることができます。

多分割測光：画面を細かく分割して測光します。被写体までの距離情報やホワイトバランスからの色情報とも連動して、被写体の明るさを正確にとらえます。人の目で見た感じに一番近く撮れる測光モードで、逆光撮影を含む一般撮影に適しています。初期設定は多分割測光です。

スポット測光：画面中央にスポット測光サークルが現れ、このサークル内のみの明るさを測ります。コントラスト（明暗差）の大きい被写体や、画面のある特定部分だけを測光するのに適しています。

MENU →［📷2］→［測光モード］→【右側へ】→［*希望の測光モード*］→【実行】→ **MENU**



スポット測光サークル

● スポット測光を選んだときは、液晶モニターの画面左下に ◘ が表示されます。

● オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、測光モードは多分割になります。

※設定を保持したいときは → P. 126

画像を明るくする/暗くする（露出補正）

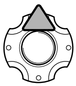
画像全体を明るくしたり暗くしたりします。±2.0段の範囲内で1/3段刻みで補正することができます。
＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
－側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

十字キーの上下で設定する

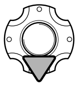
初期設定では、十字キーの上下で露出補正を設定することができます。

● 上下キーカスタマイズが露出補正以外の機能に設定されている場合は設定できません。詳しくは → P.79

上で、＋側に補正



下で、－側に補正



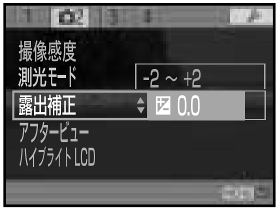
● 設定される状態が液晶モニター中央にしばらく表示された後、撮影画面にもどります。

● 液晶モニター左側に、設定した露出補正値が表示されます。



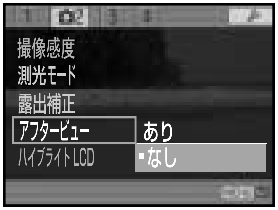
メニュー画面で設定する

MENU → [📷2] → [露出補正] → 【右側へ】 → [十字キーの上下で数値設定] → 【実行】 → MENU



● 露出補正を解除するときは、上記のどちらかの操作で 0 を設定してください。
● オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すと、露出補正値は 0になります。
※設定を保持したいときは → P.126
● 左右キーカスタマイズで露出補正を設定すると、十字キーの左右を押すだけで露出補正値を設定することができます。
※詳しくは → P.79

アフタービュー



撮影直後に、撮影した画像を約2秒間液晶モニターに表示させることができます（アフタービュー［あり］）。

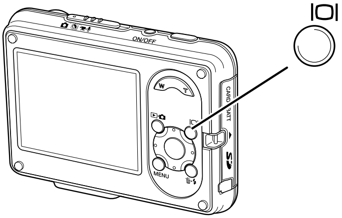
MENU →［2］→［アフタービュー］→【右側へ】→［あり または なし］→【実行】→ MENU

- 連続撮影の場合は、最後のコマのみが表示されます。
- アフタービューで画像表示中にシャッターボタンを半押しすると、アフタービューはキャンセルされます。
- アフタービュー[なし]でも、撮影後シャッターボタンを押し込んだままにすると、押し込んでいる間 撮影した画像が表示されます。

ハイブライトLCD

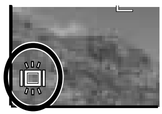
このカメラでは、日中の野外等で液晶モニターが見えにくいとき、液晶モニターボタンを押し続けることで、モニターの輝度を上げることができます。初期設定は「OFF」です。

操作方法



液晶モニターボタンを押し続け、ハイブライトLCDの設定を[ON]にします。

- ハイブライトLCDをONに設定したときは、液晶モニターの画面左下に が表示されます。



- もう一度液晶モニターボタンを押し続けると、OFFになります。
- 動画撮影時でも設定できます。

下記の手順で、撮影モードメニューからも ハイブライトLCDを設定できます。

MENU → [2] → [ハイブライトLCD] → 【右側へ】 → [ON または OFF] → 【実行】 → MENU

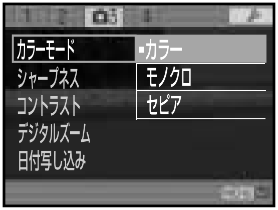


- オートリセットを「あり」に設定している場合は、電源を入れ直すと、ハイブライトLCDはOFFになります。

※設定を保持したいときは → P.126

- ハイブライトLCDをONに設定しているときは、電池の消耗が早くなります。

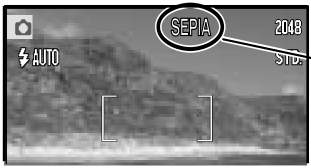
カラーモード（シーンセレクターモードでは設定できません）



モノクロ（白黒）やセピア調の画像を撮影することができます。

カラー　：通常の標準カラー画像が撮影できます。
モノクロ　：白黒画像が撮影できます。
セピア　：やや色あせた、全体に黒茶色（セピア調）の画像が撮影できます。

MENU →［📷3］→［カラーモード］→【右側へ】→［希望のカラーモード］→【実行】→ MENU



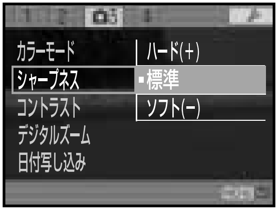
- ［カラー］は、メニュー画面には表示されますが、撮影中の表示はありません。
- ［モノクロ］［セピア］を選んだときは、液晶モニターの画面上部にそれぞれの絵記号が表示されます。

- 選んだカラーモードに応じて、背景の画像の色調も変わります。
- モノクロやセピアを選んでも、画像ファイルサイズはカラーと同じです。

- オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すとカラーモードは［カラー］になります。

※それ以外の設定を保持したいときは → P.126

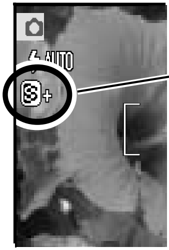
シャープネス（シーンセレクターモードでは設定できません）



撮影する画像のシャープネス（鮮鋭度）を調整することができます。3段階から選択することができます。

ハード（+）：輪郭が明確に表現され、くっきりとした鮮明な画像になります。
標準　　　：標準的な鮮明さの画像になります。初期設定は標準です。
ソフト（−）：輪郭のやわらかな画像になります。

MENU →［3］→［シャープネス］→【右側へ】→［希望の設定］→【実行】→ MENU



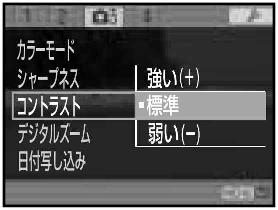
● 標準以外に設定すると、液晶モニターには選んだ設定が表示されます。

● JPEG圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

● オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すとシャープネスは［標準］になります。

※それ以外の設定を保持したいときは → P.126

コントラスト（シーンセレクターモードでは設定できません）



撮影する画像のコントラスト（明暗差）を調整することができます。3段階から選択することができます。

強い（＋）：コントラストが強くなります。メリハリの効いたくっきりした画像になります。

標準：標準的なコントラストの画像になります。初期設定は標準です。

弱い（−）：コントラストが弱くなります。白い部分が飛んだり黒い部分がつぶれたりすることが少なくなります。

MENU →［3］→［コントラスト］→【右側へ】→［希望の設定］→【実行】→ MENU



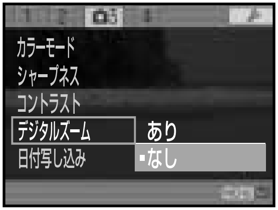
● 標準以外に設定すると、液晶モニターには選んだ設定が表示されます。

● JPEG圧縮される前に調整が行われるので、後でパソコンで加工するのと比べるとより画像の劣化を押さえることができます。

● オートリセットを「あり」に設定しているときは、電源を入れ直すとコントラストは［標準］になります。

※それ以外の設定を保持したいときは → P.126

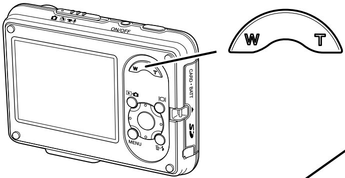
デジタルズーム



通常のズーム（光学ズーム）で最望遠側にした後、デジタルズームにより、さらに4倍まで画像を拡大することができます。

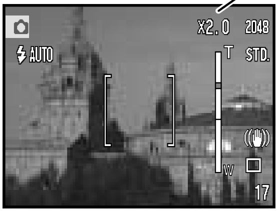
MENU →［◘3］→［デジタルズーム］→【右側へ】→［あり または なし］→【実行】→ MENU

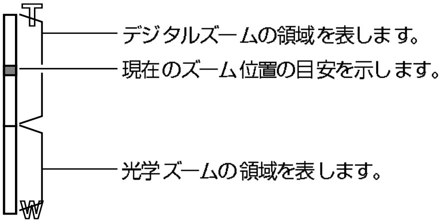
操作方法



1. 上記の手順で、デジタルズーム［あり］を設定します。
2. ズームレバーの右側「T」で望遠側にズームさせます。
3. そのままズームを続けると自動的にデジタルズームになり、画像がさらに4倍まで拡大されます。

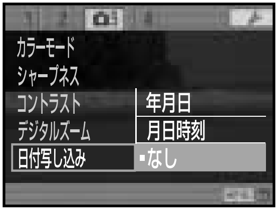
●液晶モニター右上に、現在のデジタルズームでの倍率が表示されます。4.0倍まで拡大することができます。また、ズーム表示がズーム位置の目安をお知らせします。





● デジタルズームは、拡大すればするほど画質は劣化します。ただしこのカメラでは画像補間が行われますので、画像サイズは変わりません。
● 動画撮影の場合は、デジタルズームの設定は別途行います（→ P.87）。

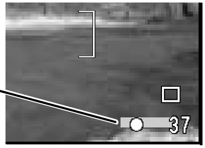
日付写し込み



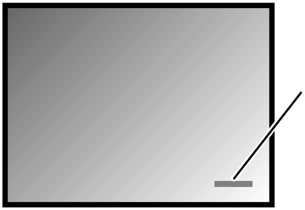
撮影の「年月日」または「月日時刻」を、画像の右下に入れることができます。一度入れた日付を消すことはできません。初期設定では写し込みはされません。

MENU →［📷3］→［日付写し込み］→【右側へ】→［*希望の設定*］→【実行】→ MENU

日付写し込みを「年月日」または「月日時刻」に設定したときは、液晶モニター画面右下に黄色のバーが表示されます。



● 実際の写し込み位置は右のようになります。

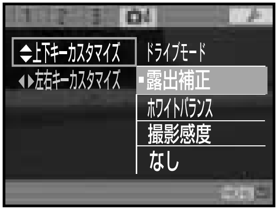


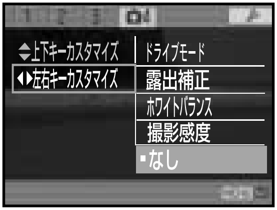
● 日付写し込みを「なし」に設定していても、撮影時の年月日・時刻は、画像とは別情報として記録されており、再生時には液晶モニター画面左下に表示されます。

※年月日の並びを変更するときは → P. 137

● 日付写し込みを「年月日」「月日時刻」に設定していると、連続撮影の速度が遅くなります。

上下／左右キーカスタマイズ（シーンセレクターモードでは設定できません）





撮影時によく使う4つの機能の内、いずれかの設定変更を十字キーの上下および左右に割り当てることができます。十字キーの上下左右を押すだけで設定を変更できますので、メニュー画面で設定する手間が省けます。初期設定は、上下キーカスタマイズは「露出補正」、左右キーカスタマイズは「なし」です。

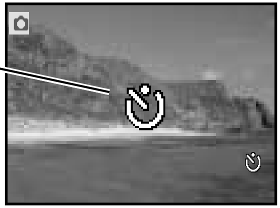
MENU →［4］→［上下キーカスタマイズ または 左右キーカスタマイズ］→【右側へ】→［設定変更を割り当てたい機能］→【実行】→ MENU

機能	説明	ページ
ドライブモード	上下キー、または、左右キーを押すたびにドライブモードの設定が切り替わります。	56
露出補正	上または右キーを押すたびに「＋」側に補正され、下または左キーを押すたびに「－」側に補正されます。（±2.0、1/3ステップ）	71
ホワイトバランス	上下キー、または、左右キーを押すたびにホワイトバランスの設定が切り替わります。	66
撮像感度	上下キー、または、左右キーを押すたびに撮像感度の設定が切り替わります。	68
なし	十字キーには機能は割り当てられていません。	ー

（次ページへ続く →）

上下／左右キーカスタマイズ（続き）

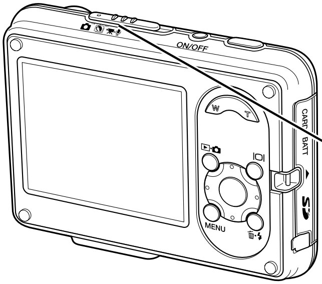
● 上下キーまたは左右キーで各項目の設定を行うと、設定される状態が液晶モニター中央にしばらく表示された後、撮影画面にもどります。

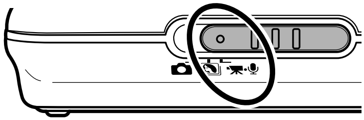


● 露出補正の設定を行うと、シーンセレクターモードおよび動画撮影モードでも有効になります。
● ホワイトバランスの設定を行うと、動画撮影モードでも有効になります。
● オートリセットを「あり」に設定している場合は、上下／左右キーカスタマイズで設定した項目は、電源を入れ直すと以下の状態にリセットされます。

ドライブモード：□（1コマ撮影）
露出補正：0.0
ホワイトバランス：AUTO
撮像感度：AUTO

動画撮影 / ボイスレコード



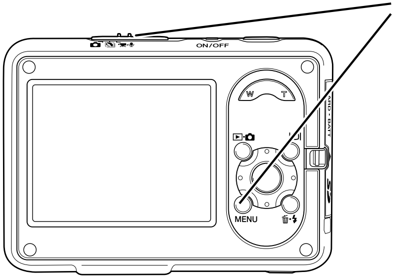


カメラのモード切り替えレバーを ・ 位置にすると、動画撮影/ボイスレコード(音声記録)モードになります。この章では、この動画撮影とボイスレコードについて説明しています。

このカメラは、動画はカードの容量、または、電池の容量がなくなるまで連続しての撮影が可能です。ボイスレコード(音声記録)は最長連続180分の記録ができます。長時間連続して動画撮影/音声記録される場合は、別売りのACアダプターセットAC-402のご使用をおすすめします。

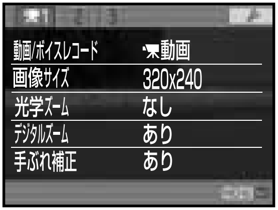
動画/ボイスレコード

動画とボイスレコードの切り替え



1. モード切り替えレバーが動画撮影/ボイスレコードモード位置（・）で、メニューボタンを押します。

● 液晶モニターに動画/ボイスレコードモードメニュー画面が表示されます。





2. 十字キーの上下で［動画/ボイスレコード］を選びます。

3. 右キーで右側に移動します。

4. 上下で［動画］か［ボイスレコード］かを選びます。

5. 十字キー中央の実行ボタンを押して決定します。

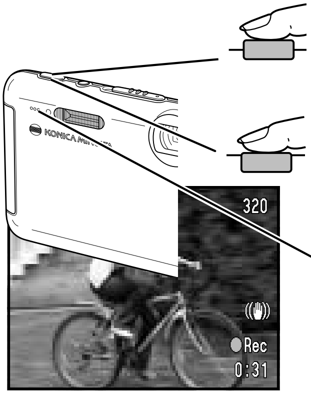
動画

カードの容量がなくなるまで、連続して動画撮影を行なうことができます。音声も同時に記録されます。



1. 前ページに記載の手順で、動画を選びます。

● メニューボタンを押してメニュー画面を消すと、液晶モニター左上には動画の、右上には動画の画像サイズ、右下には動画の(撮影可能な)残り秒数が表示されます。



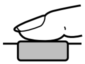
2. シャッターボタンを半押しします。

● ピントが合うと、液晶モニター画面右下に○（フォーカス表示）が点灯します。

3. そのままシャッターボタンを押し込んで、動画撮影を開始します。

● 撮影中は●Rec が表示され、右下には撮影可能な残り時間が表示されます。カードの容量が残り少なくなるなど撮影可能時間が10秒以下になると、赤色の残り秒数表示に変わります。

● カメラ前面のマイクを指やストラップ等でふさがないよう、カメラの持ち方にご注意ください。



4. 撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

● 残り秒数が0になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

(次ページへ続く →)

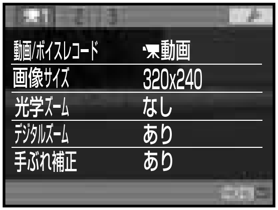
動画撮影時の設定について

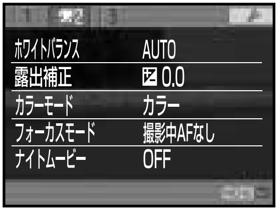
撮影中の操作が可能	光学ズーム、デジタルズーム
撮影前に設定可能、撮影中の操作は不可	画面表示の切り替え、画像サイズ、手ぶれ補正、ホワイトバランス、露出補正、カラーモード、フォーカスモード、ナイトムービー、音声、ハイブライトLCD
動画での設定は固定	フォーカスエリア (ワイドフォーカスフレーム)、撮像感度 (AUTO)、測光モード (多分割)、ファイル形式 (Motion JPEG / MOV)
動画での設定は不可	フラッシュ、シーンセレクター、シャープネス、コントラスト、日付写し込み

- 撮影された動画は、SDメモリーカード内にMotion JPEG (MOV) ファイルとして保存されます。
- 付属の32MBのカードには、合計約1分10秒間（画像サイズ320x240）の動画を記録することができます。
- カードの性能および撮影条件によっては、カード容量に残りがあっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。データ転送速度の速いSDメモリーカードのご使用をおすすめします。
- 電池の容量が少ないとき (液晶モニターに赤色の が点灯している場合) は、動画撮影はできません。(『電池が少ないので動画撮影できません』というメッセージが表示されます。)
- 暗い場所で撮影する場合に、画面を見やすくすることができます (ナイトムービー機能→ P.89)。
- 強い逆光下で撮影した場合、スミア（縦に伸びる光の帯）が発生したり、画面の一部が黒くつぶれたりすることがあります。
- 動画撮影時は電子式手ぶれ補正を採用しているため、画角が若干狭くなります。

動画モード時のメニュー（ボイスレコードモード時はメニューは表示されません）

動画モード時にメニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。操作方法は撮影モード時のメニュー設定と同じです。→P.52







1	
動画/ボイスレコード（→P.82）	[動画]
	ボイスレコード
画像サイズ（→P.86）	640×480
	[320×240]
光学ズーム（→P.87）	あり
	[なし]
デジタルズーム（→P.87）	[あり]
	なし
手ぶれ補正（→P.87）	[あり]
	なし

3	
音声（→P.89）	[あり]
	なし

2	
ホワイトバランス（→P.88）	[AUTO]
	昼光
	曇天
	白熱灯
	蛍光灯
露出補正（→P.88）	±2.0（1/3ステップ）[±0.0]
カラーモード（→P.88）	[カラー]
	モノクロ
	セピア
フォーカスモード（→P.89）	撮影中AFあり
	[撮影中AFなし]
ナイトムービー（→P.89）	ON
	[OFF]

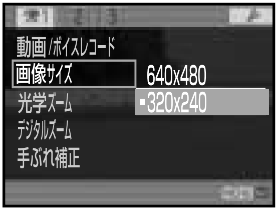
※[　　　]で囲んだものは初期設定です。

（次ページへ続く →）

画像サイズ

動画の大きさを指定することができます。2通りの中から選ぶことができます。

MENU →［🎥1］→［画像サイズ］→【右側へ】→［希望のサイズ］→【実行】→ **MENU**



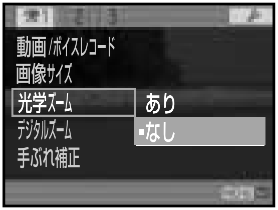


● 画面右上に、選んだ画像サイズが、大きい方の数値で表示されます。たとえば、320×240を選んだ場合は、320と表示されます。

カードへの記録速度の関係上、カードによっては、カード容量に残りがあっても途中で撮影が終了してしまうことがあります。特に、画像サイズ 640×480の設定で動画撮影する場合は、データ転送速度10MB/秒以上のSDメモリーカードのご使用をおすすめします。

光学ズーム

動画撮影中の光学ズームが設定できます。
「なし」に設定時も、撮影開始前の光学ズームは可能です。

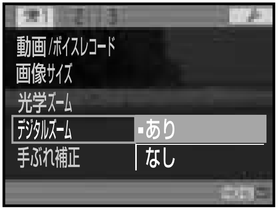


MENU →[🎥1]→[光学ズーム]→【右側へ】→[ありまたは なし]
→【実行】→ **MENU**

● 撮影中に光学ズームを行うと、ズーミングの動作音が録音されます。
気になる場合は、光学ズームなしにして撮影してください。

デジタルズーム

動画撮影の撮影開始前および撮影中のデジタルズームが設定できます。
静止画のデジタルズームの設定とは非共通です。→P.77

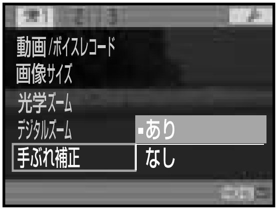


MENU →[🎥1]→[デジタルズーム]→【右側へ】
→[ありまたは なし]→【実行】→ **MENU**

● 画像サイズで、640×480を選んだ場合は、設定できません。

手ぶれ補正

初期設定では、シャッターボタンを半押しすると、手ぶれ補正機能が作動し始めます。シャッターボタン半押し中の画像の動きが不自然に感じる場合、手ぶれ補正機能を解除することができます。

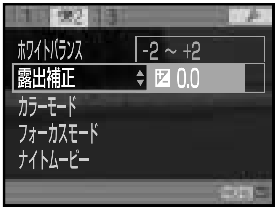


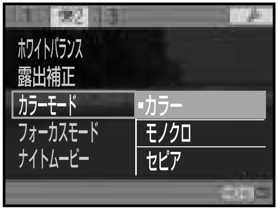
MENU →[🎥1]→[手ぶれ補正]→【右側へ】→[ありまたは なし]
→【実行】→ **MENU**

(次ページへ続く →)

ホワイトバランス	露出補正	カラーモード







MENU →[🎥2]→[ホワイトバランス]→【右側へ】→[希望のホワイトバランス]→【実行】→ **MENU**

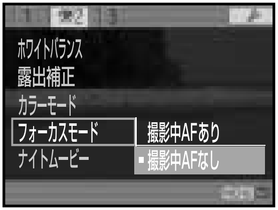
MENU →[🎥2]→[露出補正]→【右側へ】→[上下キーで数値設定]→【実行】→ **MENU**

MENU →[🎥2]→[カラーモード]→【右側へ】→[希望のカラーモード]→【実行】→ **MENU**

動画のホワイトバランス、露出補正値、カラーモードを設定できます。
設定方法や各設定での選択肢は、撮影モード時のメニューと同じです。
（ホワイトバランス → P.66　露出補正 → P.71　カラーモード → P.74 ）

- ホワイトバランス、露出補正(値)、カラーモードの各設定は、撮影モード（📷）時のメニュー設定と共通です。どちらかのメニュー画面での設定と同じ設定が、もう一方のメニュー画面に現れます。

フォーカスモード



動画撮影中のフォーカスモードを選ぶことができます。

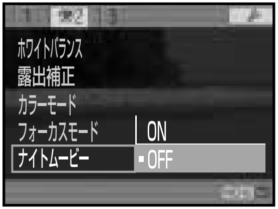
撮影中AFあり：動画撮影中も常にオートフォーカスが作動し、ピントを合わせ続けます。

撮影中AFなし：ピントは動画撮影開始時の位置で固定されます。撮影中はオートフォーカスは働きません。初期設定は撮影中AFなしです。

MENU →［🎥2］→［フォーカスモード］→【右側へ】→
［*撮影中AFありまたは 撮影中AFなし*］→【実行】→ **MENU**

● 撮影中AFありを選ぶと、オートフォーカスの動作音が録音される場合があります。気になる場合は、撮影中AFなしにしてください。

ナイトムービー



暗い場所で動画撮影を行なうと、被写体が暗く見にくくなります。ナイトムービーを［ON］にして感度を上げると、暗い場所でもモニター画面や撮影画像が見やすくなります。

MENU →［🎥2］→［ナイトムービー］→【右側へ】→
［*ON または OFF*］→【実行】→ **MENU**

● ナイトムービーをONにすると、暗い場面ではノイズが増加し、多少ざらついた感じになることがあります。

音声

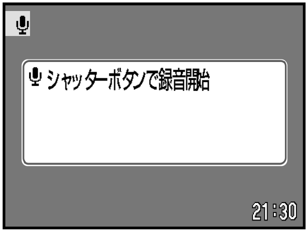


動画撮影に音声を入れるかを選ぶことができます。

MENU →［🎥3］→［音声］→【右側へ】→［*ありまたは なし*］
→【実行】→ **MENU**

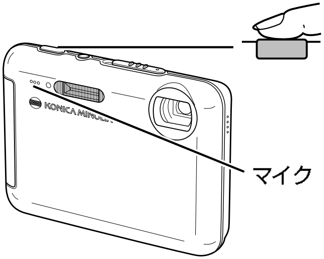
ボイスレコード

連続最長180分までの、音声のみの録音ができます。



1．82ページに記載の手順で、ボイスレコードを選びます。

- メニューボタンを押してメニュー画面を消すと、液晶モニターには左の「録音開始画面」が表示されます。液晶モニター左上には🎙が、右下には録音可能な残り時間（"時：分：秒"、60分未満の場合は"分：秒"）が表示されます。



2．シャッターボタンを押して録音を開始します。

- 録音を開始すると、左下図のようなバーグラフが表示され、画面右下には録音開始からの経過時間が表示されます。連続録音時間が180分に近づくなどで録音可能な残り時間が10秒以下になると、赤色の残り秒数表示に変わります。
- 声を録音するときは、マイクから20㎝くらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。
- マイクの部分を指などでふさがないよう、カメラの持ち方にご注意ください。



3．録音を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

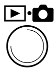
- 付属の32MBのカードには、合計約31分47秒間の音声を記録することができます。

※音声の再生について →P.100

- 録音された音声は、SDメモリーカード内にWAVファイルとして保存されます。

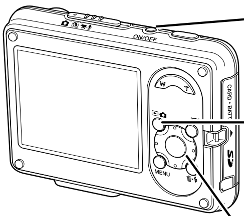
再生モード



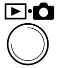


カメラの再生/撮影切り替えボタンを押すと、再生モード ▶ になり、撮影した静止画や動画を見ることができます。
この章では、この再生モードについて説明しています。

再生する

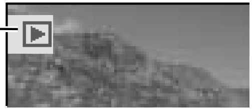


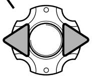
1. メインスイッチを押して電源を入れます。



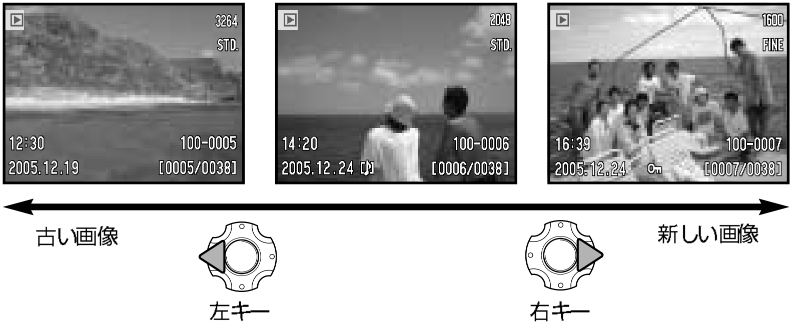
2. 再生/撮影切り替えボタンを押して再生モード▶にします。

- 撮影された最新の画像が表示されます。
- 液晶モニターに再生モードが表示されます。





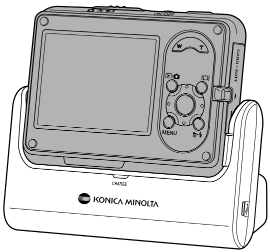
3. 十字キーの左右で見たい画像を選びます。



- 左右キーを押し続けると、画像が早送りされます。
- 最新画像を表示中に左右キーの右を押すと、最も古い画像に戻ります。
- 画像が記録されていない場合は、「画像がありません」というメッセージが現れます。
- 動画の場合は動画撮影開始時の画像が、ボイスレコードの場合は青い画面が表示されます。

クレードルで再生する

付属のクレードルセットCA-1にカメラを取り付けて撮影した画像を見ることができます。



1.カメラの電源を切ります。

● 電源を切った後、充電式リチウムイオン電池を抜いても構いません。

2.付属のクレードルの電源コードを、クレードルの電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。

3.カメラをクレードルに取り付けます。

● 液晶モニターを前に向けて、スタンドに立ててください。

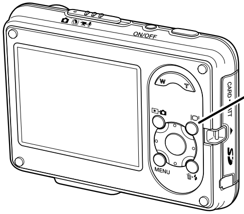
4.カメラのメインスイッチを押して電源を入れます。

● 自動的に再生モードになり、撮影された最新の画像が液晶モニターに表示されます。
● 再生を終了してカメラをクレードルから取り外す場合は、カメラの電源を切ってから取り外してください。

● カメラをクレードルに取り付けているときは、撮影はできません。
● カメラに充電式リチウムイオン電池が入っている場合は、クレードルに電源コードが接続されていなくても取り付けて再生表示することができます。

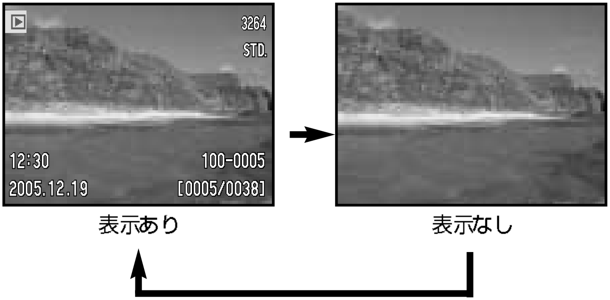
※カメラにACアダプターセットを装着した状態でクレードルに取り付けないでください。故障の原因になります。

画面表示の切り替え





再生モードで液晶モニターボタンを押すと、以下の通り表示を切り替えることができます。



● この使用説明書では、表示あり（左側）の状態で説明しています。

※各表示については → P.18



● 液晶モニターボタンを押し続けることで、モニターの輝度を上げることができます。

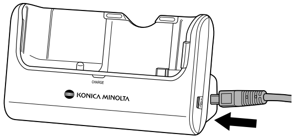
※ハイブライトLCD→ P.73

テレビで画像を見る

付属のクレードルセットにカメラを取り付け、AVケーブルAVC-700でクレードルとテレビを接続し、撮影した画像をテレビに映して見ることができます。

1. テレビとカメラの電源を切ります。

2. 付属のクレードルの電源コードを、電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。



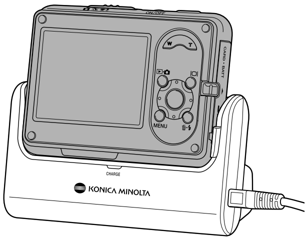
3. AVケーブルのミニプラグ側を、クレードルのAV出力端子に差し込みます。

● ミニプラグ上の ⬅ マークが、クレードルの背面側を向くようにして差し込んでください。

4. AVケーブルのもう一方の、黄色のプラグをテレビのビデオ入力端子（通常は黄色）に、白色のプラグを音声入力端子（通常は白色）に差し込みます。

5. テレビの電源を入れ、テレビの［入力切り替え］などで、ビデオ入力端子からの入力に切り替えます。

● 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。



6. カメラをクレードルに取り付けます。

● 液晶モニターを前に向けて、スタンドに立ててください。

7. カメラのメインスイッチを入れます。

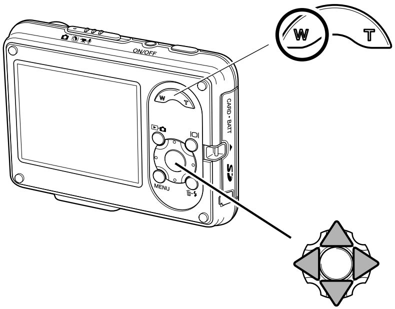
● 自動的に再生モードになり、撮影した画像がテレビに映しだされます。
● 終了するときは、カメラの電源を切ってからクレードルから取り外してください。

● 画面表示の切り替えを行なうことができます。
● カメラ背面の液晶モニターは点灯しません。
● 上記の操作で万一画像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。→P.137

※カメラにACアダプターセットを装着した状態でクレードルに取り付けないでください。故障の原因になります。

インデックス再生

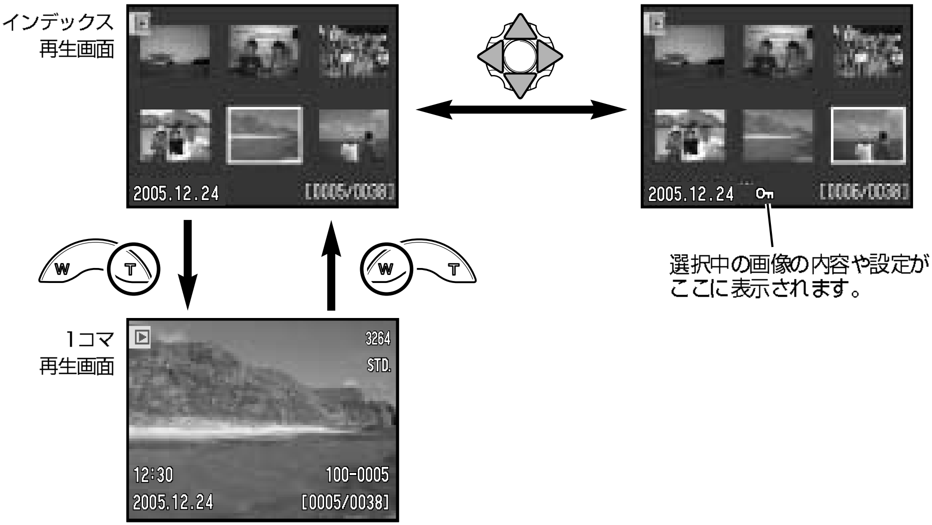
撮影した画像を6画像ずつまとめて表示することができます。画像を探すときに便利です。



再生モードで、ズームレバーの「W」側を押します。

- インデックス再生画面が現れます。
- ズームレバーの「T」側、または十字キー中央の実行ボタンを押すと、1コマ再生画面に戻ります。
- 拡大再生中は、ズームレバーの「W」側を押して等倍表示にもどしてから、再度「W」側を押してください。

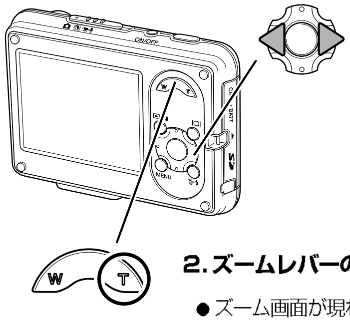
- 十字キーの上下左右を押して、見たい画像を選択します。



拡大再生

再生画像を、最大6倍にまで拡大することができます。

● 動画の拡大再生はできません。



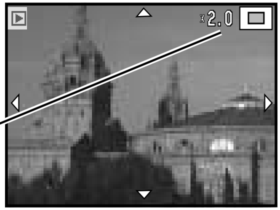
1. 再生モードで、十字キーの左右で見たい画像を選びます。



2. ズームレバーの「T」側を押します。

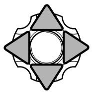
● ズーム画面が現れ、ズームレバーの「T」側を押すたびに画像が拡大されます。「W」側を押すと縮小されます。

● 現在の拡大倍率が画面右上に表示されます。その右に、元画像のどの部分を拡大表示しているかを示すインジケータ(グレーは元画像全体、黄色は拡大再生されている部分)が現れます。

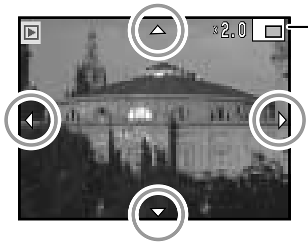




● メニューボタンを押すと拡大前の画像に戻ります。



拡大再生中に十字キーの上下左右を押すと、表示エリアの移動ができます。

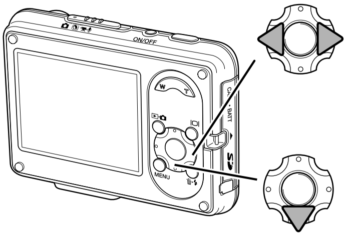


移動に合わせてグレーのインジケータ内にある黄色いインジケータも移動します。

画像の回転

再生モードでは、十字キーの下キーを押して、撮影した画像を回転させて液晶モニターで見ることができます。縦位置で撮影した画像を見るときに、いちいち液晶モニターを縦にして見る必要がないので、スライドショーやテレビで見る場合にもスムーズに見ることができます。

● 回転できる画像は静止画で、動画は回転させることができません。



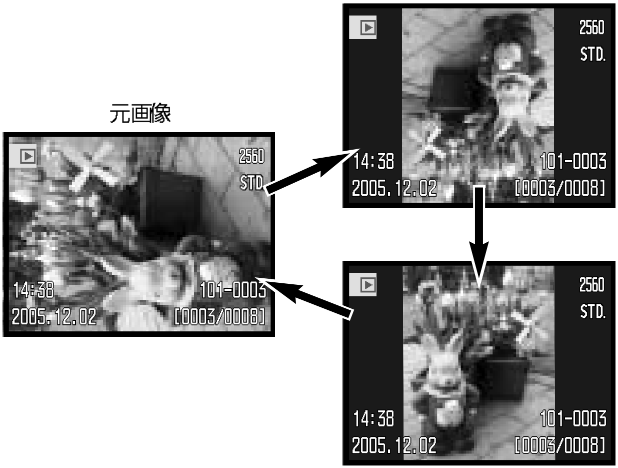
1. 再生モードで1コマ再生を表示させ、十字キーの左右を押して、画像を回転させたい画像を選びます。

● 画面表示を消したい場合は、液晶モニターボタンを押して切り替えてください。

2. 希望の回転画像が表示されるまで、十字キーの下を押します。

● 十字キーの下を押すたびに、下図のように画像が回転します。

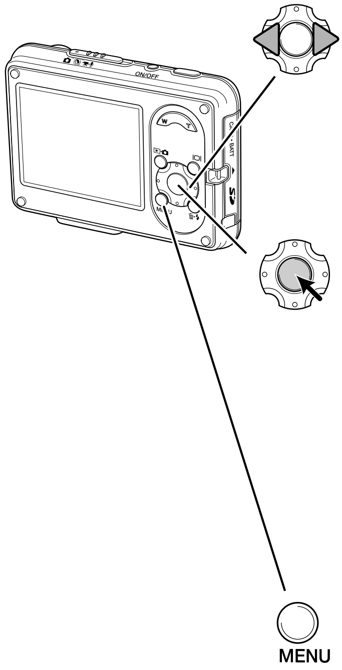
元画像



動画や音声付き画像の再生

動画やアフレコ（→P.107）といった音声付き画像、ボイスレコードの再生方法は以下の通りです。1コマ再生またはインデックス再生で、該当する画像またはファイルを選択している状態にします。

動画の再生



1. 1コマ再生、または、インデックス再生で、動画が撮影されたコマを選択します。

- 動画撮影開始時の画像が静止画として現れます。



2. 十字キー中央の実行ボタンを押すと、動画の再生が開始されます。

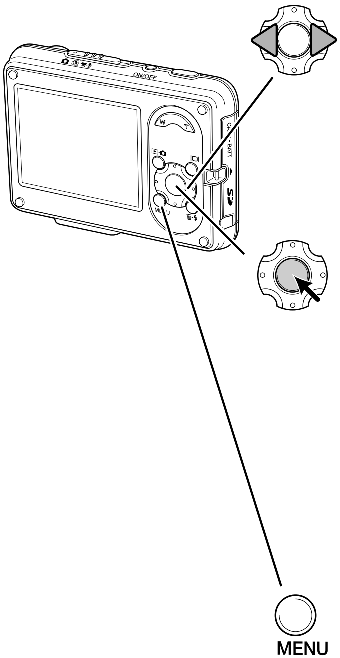
- 右上の数値は経過秒数です。
- 再生中に実行ボタンを押すと、一時停止・再スタートを繰り返します。十字キーの左右で再生の巻戻し、早送りができます(右が早送り、左が巻戻し)。
- カメラのスピーカーから音声も同時に再生されます。再生中に十字キーの上下で音量の調節ができます（上で音量アップ、下で音量ダウン）。



3. 再生を終えるときは、メニューボタンを押します。

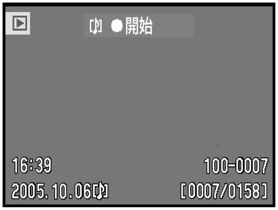
- 最後まで再生が終了すると、自動的に再生開始前の画面に戻ります。
- 動画の拡大再生はできません。

ボイスレコードの再生



1. 1コマ再生、または、インデックス再生で、ボイスレコードしたコマを選択します。

● 画面が青色になります。



2. 十字キー中央の実行ボタンを押すと、ボイスレコードの再生が開始されます。

● 右上の数値は経過時間です。

● 再生中に実行ボタンを押すと、一時停止・再スタートを繰り返します。また十字キーの左右で再生の巻戻し、早送りができます(右が早送り、左が巻戻し)。

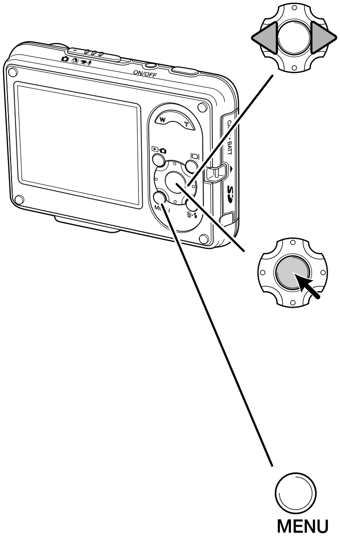


● 再生中は、十字キーの上下で再生音量の調節ができます（上で音量アップ、下で音量ダウン）。

3. 再生を終えるときは、メニューボタンを押します。

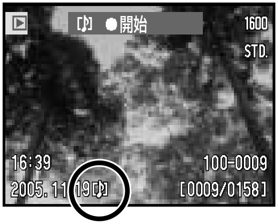
● 最後まで再生が終了すると、自動的に開始前の画面に戻ります。

音声（アフレコ）付き画像の再生



1. 1コマ再生、または、インデックス再生で、アフレコ付き画像を選択します。

- 画面下に が表示されます。



2. 十字キー中央の実行ボタンを押すと、音声が再生されます。

- 右上の数値は経過秒数です。
- 再生中は、十字キーの上下で再生音量の調節ができます（上で音量アップ、下で音量ダウン）。

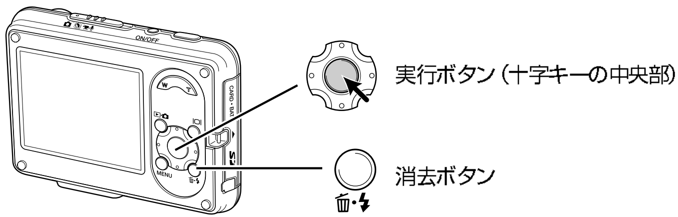


- 途中で再生を終えるときは、メニューボタンを押してください。

画像を手早く消去する

再生モード位置で、画像を1コマずつ簡単に消去することができます。

いったん消去した画像を復活させることはできません。

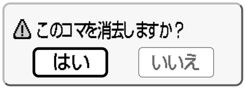


1. 再生モードで、消去したい画像を表示させます。

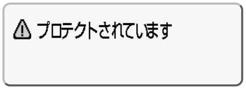


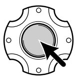
2. 消去ボタンを押します。

- 右の画面が現れます。
- 消去しない場合は、十字キーの左右で［いいえ］を選んでください。



- 画像がプロテクト（→ P.108）されていて、消去できない場合は右の画面が現われます。



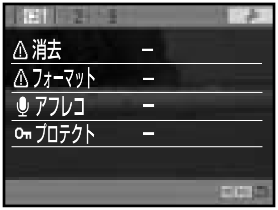


3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 画像が消去されます。

※複数の画像をまとめて消去するときは →P.104

再生モード時のメニュー



再生モードのときにメニューボタンを押すと、以下のメニュー設定が可能です。操作方法は撮影モードメニューと同じです。→ P.52

※SDメモリーカードのライトプロテクトスイッチが「書き込み禁止」位置になっているとき(→ P.26)は、設定できない項目があります。

▶1	
消去 (→ P.104)	このコマ
	└ このアフレコ
	全コマ
	コマを指定
フォーマット (→ P.106)	実行する
アフレコ (→ P.107)	実行する
プロテクト (→ P.108)	このコマ
	全コマ
	コマを指定
	全コマ取り消し

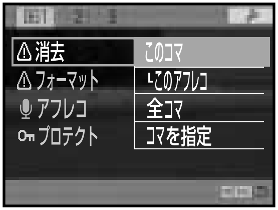
▶2	
スライドショー (→ P.110)	実行する
コマ送り効果 (→ P.111)	[ランダム]
	なし
トリミング (→ P.112)	実行する

※[　　　]で囲んだものは初期設定です。

▶3	
DPOF指定 (→ P.114)	このコマ
	全コマ
	コマを指定
	全コマ取り消し
日付プリント (→ P.117)	あり
	[なし]

▶3	
インデックスプリント (→ P.117)	作成する
	作成しない
メール画像作成 (→ P.118)	このコマ
	コマを指定

画像の消去



画像を消去します。以下の4通りの消去方法があります。

このコマ(1コマ消去)：	再生中の画像を1コマだけ消去します。
└このアフレコ：	再生中の画像が音声付き（アフレコ）の場合、その音声だけを消去します。
全コマ：	カード内の画像すべてを消去します。
コマを指定：	指定した画像だけを消去します。

- 動画やボイスレコードも同様に消去できます。
- 音声付き画像の場合、画像を消去すると音声も同時に消去されます。音声だけ消去するには上記［このアフレコ］を選択してください。
- ［このアフレコ］は、音声の付いていない画像や動画、ボイスレコードのときは選択できません。

※1コマずつ手早く消去する方法もあります。→P.102

いったん消去した画像を復活させることはできません。

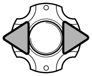
MENU →［▶1］→［消去］→【右側へ】→［消去方法を選択］→【実行】

1．上記の手順で希望の消去方法を選択します。

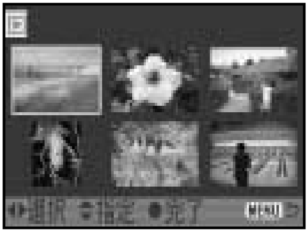
「このコマ」「このアフレコ」「全コマ」の場合
4.の確認画面へ

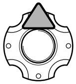
「コマを指定」の場合
2. 3.でコマを指定後、**4.**の確認画面へ

2.「コマを指定」の場合、十字キーの左右で消去するコマを選び、上を押して指定します。

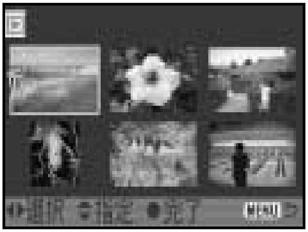


左右で
画像を選択し、





上を押して
画像を指定します。

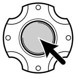


消去を指定したコマには 🗑 が表示されます。必要なだけ左の操作を繰り返します。

- 十字キーの下を押すと、画像の指定を取り消します。
- 🔑 が表示されている画像を指定すると下のメッセージが現れます。画像がプロテクト(→P.108)されていて、その画像は消去できません。



- 全コマ消去の場合、右のメッセージは現れませんが、プロテクト(誤消去防止)された画像は消去されずに残ります。



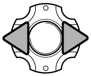
実行ボタンで
指定を完了



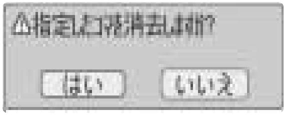
3. 十字キー中央の実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

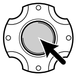
- **4.**の確認画面に進みます。
- 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされ、メニュー画面に戻ります。

4. 確認後、消去を実行します。(下図は[コマを指定]の場合の表示)

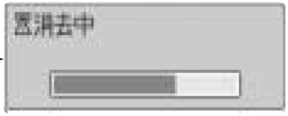


左右で
[はい]を選択





実行ボタン
で実行



消去完了
メニューボタン
で元の画面へ



MENU

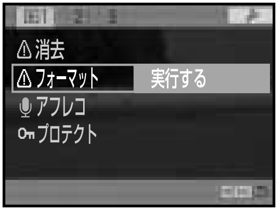
カードのフォーマット(初期化)

カード内の画像やフォルダ(→ P.132〜)をすべて消去するときには、SDメモリーカードのフォーマットが便利です。

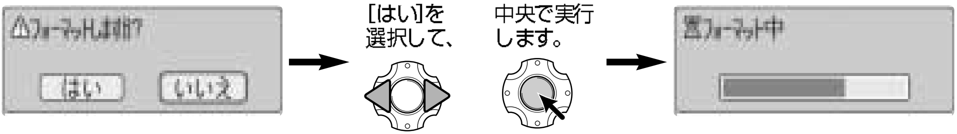
フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

MENU →[▶1]→[フォーマット]→【右側へ】→[(実行する)]→【実行】

1. フォーマットするカードをカメラに入れ、上記の手順でフォーマットを選択します。

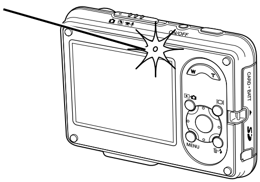


2. 十字キーの左右と中央の実行ボタンでカードのフォーマットを実行します。





● フォーマット中は赤色のアクセスランプが点滅します。点滅中はカードを取り出さないでください。

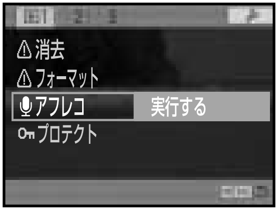


● カードのフォーマットは、このページの要領でカメラ側で行なってください。パソコンでカードをフォーマットすると、カメラがカードを認識できないことがあります。カメラ以外でフォーマットした場合は、撮影する前にカメラで再フォーマットしてください。

アフレコ

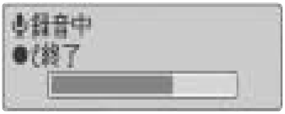
画像に音声を付けることができます。最長15秒間の録音が可能です。
※アフレコ　＝　アフターレコーディング（After recording）の略

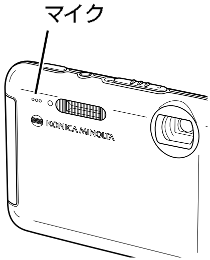
1.再生モードで、音声を付けたい画像を選びます。



MENU →［▶1］→［アフレコ］→【右側】→［（実行する）］→【実行】

2.上記の手順でアフレコを開始します。





マイクに向かって話します。録音中は左図のメッセージが表示されます。

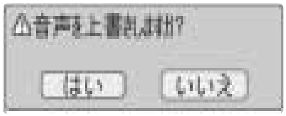
● 声を録音するときは、マイクから20㎝くらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

3.録音を終了するときは実行ボタンを押します。

● アフレコは最長15秒間可能です。15秒経過すると、自動的に録音は終了します。
● メニューボタンを押すと元の画面にもどります。

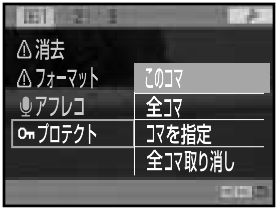


● アフレコを付けた画像には、液晶モニターに 🔊 が表示されます。
● アフレコを再生するには → P.101



● すでに音声（アフレコ）が付いている場合、右のメッセージが表示されます。上書きする場合は「はい」を選択し、実行ボタンを押すと、前の音声を上書きして新たな音声が録音されます。
● 動画とボイスレコード、およびプロテクト（→ P.108）をかけた画像にはアフレコを付けることはできません。

プロテクト（誤消去防止）



撮影した画像をロックし、間違って消去しないようにすることができます。以下の3通りのプロテクト方法と、プロテクトの取り消しがあります。

このコマ(1コマプロテクト)：
　再生中の画像1コマだけにプロテクトをかけます。
　1コマだけプロテクトを取り消す場合にも使用します。

全コマ(全コマプロテクト)：
　カード内の画像すべてにプロテクトをかけます。

コマを指定：
　指定した画像だけにプロテクトをかけます。

全コマ取り消し：
　カード内の画像すべてのプロテクトを取り消します。

MENU →［▶1］→［プロテクト］→【右側へ】→［*プロテクト方法を選択*］→【実行】

1. 上記の手順で希望のプロテクト方法を選択します。

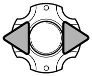
「このコマ」「全コマ」「全コマ取り消し」の場合
メニューボタンで元の画面へ

「コマを指定」の場合
2. 3.でコマを指定

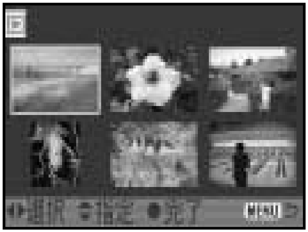
- 再生時、プロテクトのかかった画像には、液晶モニターに⊶が表示されます。
- カードをフォーマット(初期化 → P.106)すると、プロテクトのかかった画像も消去されます。

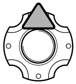


2.「コマを指定」の場合、十字キーの左右でプロテクトするコマを選び、上を押して指定します。

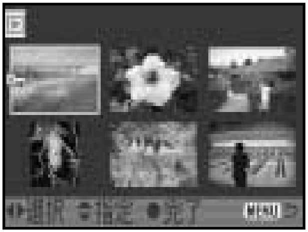


左右で
画像を選択し、



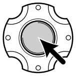


上を押して
画像を指定します。

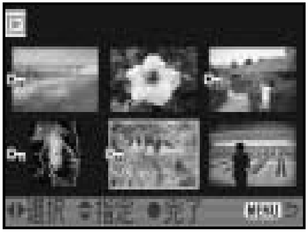


プロテクトを指定したコマには ⊙ₘ が表示されます。
必要なだけ左の操作を繰り返します。

● 十字キーの下を押すと、画像の指定を取り消します。



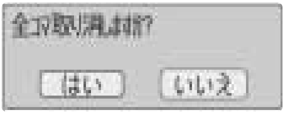
実行ボタンで
指定を完了



3. 十字キー中央の実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

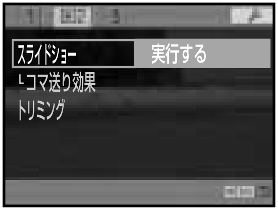
● 十字キー中央の実行ボタンを押すと、プロテクト（コマ指定）が完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。

● 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされ、メニュー画面に戻ります。



● 全コマ取り消しの場合は左の確認画面が現れます。十字キーの左右で選択後、実行ボタンを押して実行してください。

スライドショー（画像の自動再生）



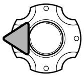
カードに記録した画像を自動的に順番に表示させることができます。すべての画像が最初から順番に5秒ずつ表示されます。

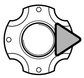
MENU →[▶2]→[スライドショー]→【右側へ】→[(実行する)]→【実行】

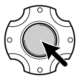
1. 上記の手順で［スライドショー］を選択し、実行します。

- コマ送り効果の設定に従って、スライドショーが始まります。→P.111
- 動画もスライドショーされます。

スライドショー再生中の操作


十字キーの左で巻き戻し


十字キーの右で早送り

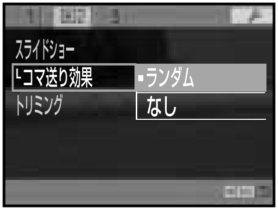

十字キー中央の実行ボタンで一時停止・再生開始の繰り返し


MENU

2. スライドショーを途中で終える時は、メニューボタンを押します。

- スライドショー開始前の再生モードのメニュー画面に戻ります。メニュー画面から通常の再生画面に戻るときは、メニューボタンを押します。
- スライドショーが全て終わると、スライドショー開始前の再生モードのメニュー画面に戻ります。

スライドショーのコマ送り効果の設定変更



スライドショーでのコマ送り効果（＝次のコマを表示するときの切り替わりの表現方法）を選ぶことができます。

ランダム（初期設定）：

　上から下へ、下から上へ、左から右へ、右から左へ、中央から左右へ、中央から上下へ、フェードアウト、フェードインなどの効果が不規則に選択され、演出されます。

なし：

　コマ送り効果なしで、単純に次の画像に切り替わります。

MENU → [▶2] → [コマ送り効果] → 【右側へ】 → [ランダム*または*なし] → 【実行】

1. 上記の手順で希望のコマ送り方法を選択します。

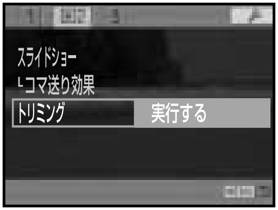
2. 前ページの手順に従ってスライドショーを実行し、スライドショーを開始します。

トリミング（画像の切り取り）

静止画の一部を切り取って新たな画像を作成します。

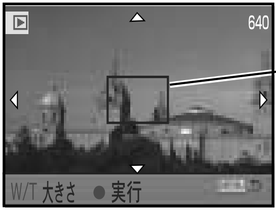
- すでに撮影した画像の一部を切り取って新たな画像を作成します。切り取り元の画像はそのまま残ります。
- 動画やボイスレコードはトリミングできません（動画、ボイスレコードを再生時はメニュー画面でトリミングを選択できません）。

1. 再生モードで、切り取り元となる画像（静止画）を再生させます。



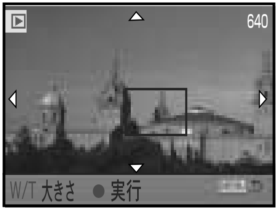
MENU →［▶2］→［トリミング］→【右側へ】→［(実行する)］→【実行】

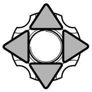
2. 上記操作でメニューから［トリミング］を選び、実行します。

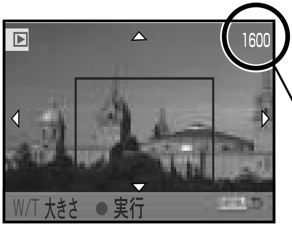


- 切り取る画像範囲を選ぶ画面が表示されます。
- 赤枠内が切り取る画像範囲です。
- メニューボタンを押すと、メニュー画面にもどります。

3. 切り取りたい画像範囲の中心を移動したいときは、十字キーの上下左右を押して赤枠を移動させます。



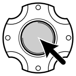




4. 切り取りたい画像範囲の大きさを変えるときは、ズームレバーを押して赤枠を拡大/縮小します。

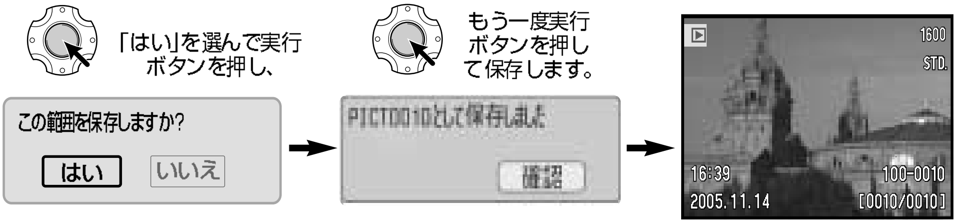


● 右上に表示されている画像サイズで保存されます。



5. 切り取りたい画像範囲が決まったら、十字キー中央の実行ボタンを押して切り取りを実行します。

● 確認画面が表示されます。



● 切り取られた画像の画質は、元画像と同じ画質になります。たとえば元画像の画質がスタンダードなら、切り取られた画像の画質もスタンダードになります。
● 切り取られる画像の縦横比は4：3で変更できません。
● 640画素×480画素より小さい画像を切り取ることはできません。
● 「カードに空きがありません」のメッセージが表示されたときは、不要な画像を消去するなどでカードの空き容量を増やすか、切り取る画像のサイズを小さくしてください（この機能を使いたい場合は、カードに空き容量を（十分に）残しておいてください）。

DPOF（プリント）指定

撮影した画像を、ご自分のプリンタでプリントする場合やプリント店にプリントを依頼する際に、あらかじめどの画像を何枚プリントするかをカメラで指定しておくことができます。

● プリンタやプリント店がDPOF*に対応している必要があります。

*DPOF=ディーポフ、Ditigal Print Order Formatの略。SDメモリーカード等のメディアに入っている画像のうち、どれを何枚印刷するのかを指定する方法。

デジカメで撮影した画像のプリント方法

①ご自分のプリンタで印刷する

画像をパソコンに取り込んで（→P.144）、そこから印刷する方法が一般的です。PictBridge対応のプリンタをお使いの場合は、カメラとプリンタを付属のクレードルセットとUSBケーブルで接続するだけでプリントすることができます。→ P.166

②ネットプリントを利用する

インターネット経由でプリントの依頼ができます。コニカミノルタオンラインラボ http://onlinelab.jp/ では、画像のプリントの他に、「オンラインアルバム」「オンラインDVDサービス」などさまざまなサービスをご用意しております。ぜひご利用ください。

③ご購入店やコンビニなどにプリントを依頼する

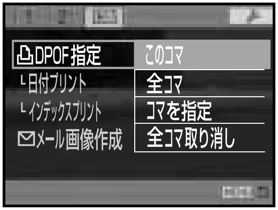
メモリーカードをご購入店やカメラ店、コンビニ等にお持ちになると、普通のフィルムと同様にプリントすることができます。

プリントする画像を指定する

どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。以下の3通りの指定方法と、全コマ取り消しがあります。

このコマ（1コマプリント）：	再生中の画像を1コマだけDPOF（プリント）指定します。
全コマ：	カード内の画像すべてをDPOF（プリント）指定します。
コマを指定：	指定した画像だけをDPOF（プリント）指定します。
全コマ取り消し：	カード内の画像すべてのDPOF（プリント）指定を取り消します。

● 動画、ボイスレコードのDPOF（プリント）指定はできません。



MENU →［▶3］→［DPOF指定］→【右側へ】→［*指定方法を選択*］→【実行】

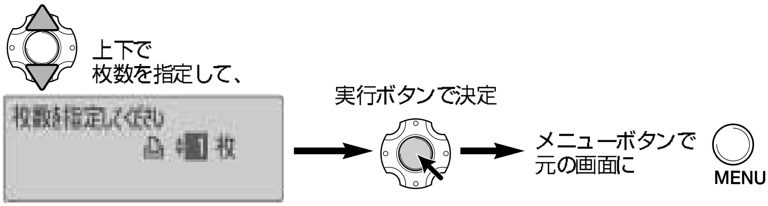
1. 上記の手順で希望のプリント指定方法を選択します。

「このコマ」「全コマ」の場合
2. に進んで枚数を指定

「コマを指定」の場合
3. 4. でコマと枚数を指定

2. 「このコマ」「全コマ」の場合、十字キーの上下で希望の枚数を選んで実行します。

- 1コマプリントの場合、指定した1コマのプリント枚数を選ぶことができます（0～9枚）。
- 全コマプリントの場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0～9枚）。

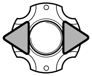




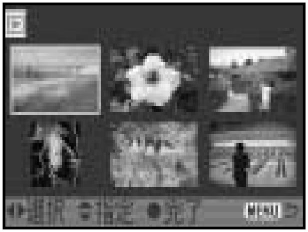
- 再生時、DPOF（プリント）指定された画像には、液晶モニターに🖶と枚数が表示されます。🖶のみで数字がなければ、DPOF（プリント）指定枚数は1枚です。
- 全コマ指定後に撮影した画像は、DPOF（プリント）指定されません。

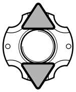
（次ページへ続く →）

3.「コマを指定」の場合、十字キーの左右でDPOF(プリント)設定するコマを選び、上下を押して印刷枚数を指定します。

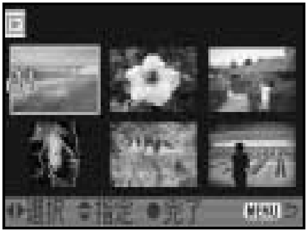


左右で
画像を選択し、

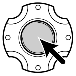




上下で
枚数を指定します。



プリント指定したコマには と枚数が表示されます。必要なだけ左の操作を繰り返します。



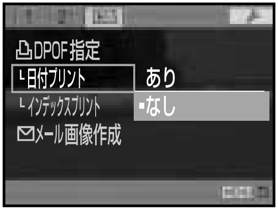
実行ボタンで
指定を完了



4. 実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

- 十字キー中央の実行ボタンを押すと、DPOF（プリント）指定が完了します。その後メニューボタンで元の画面にもどります。
- 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされメニュー画面にもどります。

日付プリント

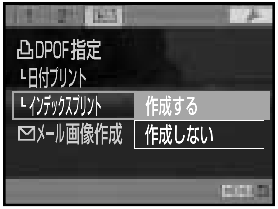


プリントする際に、プリンタ側で日付を印字するかどうかを選べます。日付の印字される場所(画面内/画面外)や印字される文字のサイズ等は、お使いのプリンタによって異なります。初期設定は[なし]です

- 印字されるのは「年月日」だけです。時刻は印字されません。
- プリンタによっては、この機能に対応していない機種もあります。
- 画面内右下への日付写し込み(→ P.78)とは別の機能ですので、重なって印字されないようお気をつけください。

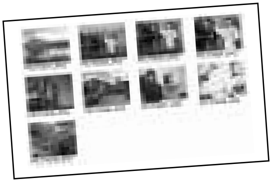
MENU →[▶3]→[日付プリント]→【右側へ】→[*あり* または *なし*]→【実行】

インデックスプリント



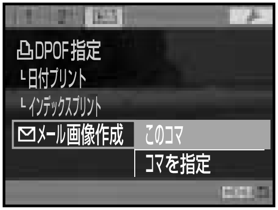
カードに記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます(インデックスプリント)。このカメラでは、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントを作成するかしないかを選べます。

- 1枚のプリントに印刷される画像の数や印刷内容は、プリンタによって異なります。
- インデックスプリント[作成する]に設定後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。プリントの直前に作成されることをおすすめします。



MENU →[▶3]→[インデックスプリント]→【右側へ】→[*作成する* または *作成しない*]→【実行】

メール画像作成



カードに記録された画像から、Eメール添付に適したメール画像（画像サイズ640×480）を作成することができます。元の画像はそのまま残ります。

このコマ（1コマのみ作成）：　再生中の画像を1コマだけメール用に新たに作成します。

コマを指定：　指定した画像をすべてメール用に新たに作成します。

MENU →［▶3］→［メール画像作成］→【右側へ】→［*指定方法を選択*］→【実行】

1.上記の手順で希望のコマ指定方法を選択します。

「このコマ」の場合
4.の確認画面へ

「コマを指定」の場合
2. 3.でコマを指定後、**4.**の確認画面へ

2.「コマを指定」の場合、十字キーの左右でメール画像作成するコマを選び、上を押して指定します。





画像作成を指定したコマには☑が表示されます。必要なだけ左の操作を繰り返します。

● 十字キーの下を押すと、画像の指定を取り消します。



3. 十字キー中央の実行ボタンを押して、コマ指定を完了します。

● **4.**の確認画面に進みます。

● 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、コマ指定はキャンセルされメニュー画面にもどります。

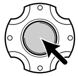
(次ページへ続く →)

4. メール画像作成が完了すると、以下の確認画面が現れます。



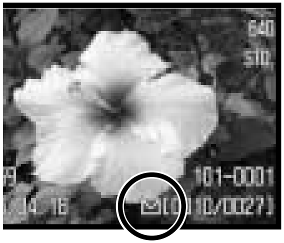
保存先のフォルダ名が表示されます。

実行ボタンで確認



メニューボタンで元の画面に





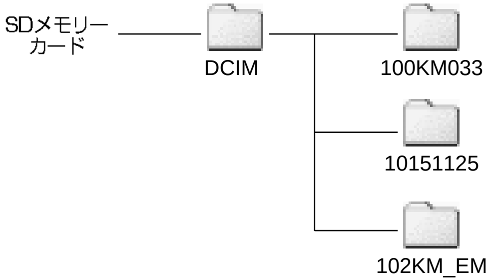
● 再生時、メール画像として作成された画像には、液晶モニターに✉が表示されます。

メール画像を作成すると、

- ● カード内に "3桁の数字"＋"KM_EM" という名称のフォルダが自動的に作成され、作成されたメール画像はその中に保存されています。先頭の数字3桁はフォルダの通し番号です。
（KM＝Konica Minolta、EM＝E-mail の意味）

- ● プロテクトされた画像からメール画像を作成した場合、作成された画像にはプロテクトがかかっていません。
- ● アフレコで音声を付けた画像から作成されたメール画像には、元画像と同じ音声が付けられています。
- ● 元画像とメール用に作成された画像とはそれぞれ別のファイルとして扱われ、ファイル番号も変わります。たとえば、ある元画像を消去しても、それから作成されたメール画像は消去されずに残っています。

作成されたメール画像は、カード内に作られる“KM_EM”という名前のフォルダにまとめて保存されます（KM=Konica Minolta、EM=E-mail の意味）。詳しくは →P.132



← 撮影した画像が保存されているフォルダ①（標準形式のフォルダ）

← 撮影した画像が保存されているフォルダ②（日付形式のフォルダ）

← **フォルダ①、フォルダ②内の画像から作成したメール画像が保存されるフォルダ**

● 9999枚までこのフォルダに保存されます。ファイル番号が9999を超えると新しいKM_EMフォルダに次の9999枚までが保存されます。



● 左のメッセージが現れた場合は、指定した画像全体のファイルサイズが大きくてカードの容量を超えています。画像の数を減らして指定し直してください。

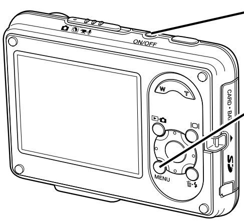


● 左のメッセージが現れた場合は、指定した画像がカードの容量を超えているか、動画、ボイスレコードあるいは すでに作成済みのメール画像で、メール画像を作成できません。

セットアップモード

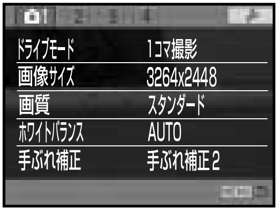
セットアップモードでは、カメラの細かな設定を変更することができます。この章では、このセットアップモードについて説明しています。

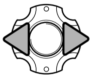
セットアップモードにするには



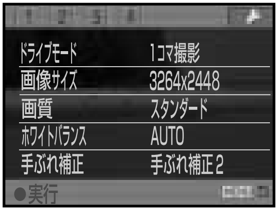
1. メインスイッチを押して電源を入れます。モード切り替えレバーはどの位置でも構いません。

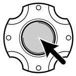
2. メニューボタンを押してメニュー画面を表示させます。





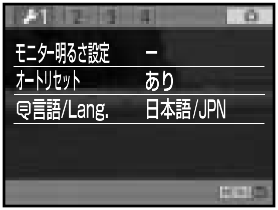
3. 十字キーの左右を押して画面右上の を選んで反転させます。





4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。

● セットアップ画面（右図）になります。



● セットアップモードメニューでの設定は、カメラの電源を切ったりモード切り替えレバーでモードを切り替えても、保存されています。

セットアップモードメニュー

セットアップモードでは以下の設定が可能です。操作方法は撮影モードメニューと同じです（→ P.52）。

※[　　]で囲んだものは初期設定です。

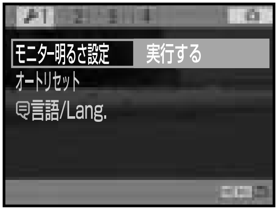
1	
モニター明るさ設定 (P.125)	実行する
オートリセット (P.126)	[あり]
	なし
言語/Lang. (P.127)	[日本語/JPN]
	English
	Deutsch
	Français
	Español
	Italiano
	Svenska
	Русский
	中文/CHN
	繁體中文
	한 국 어

3	
設定値リセット (P.130)	実行する
ファイルNo.メモリー (P.135)	あり
	[なし]
フォルダ形式 (P.136)	[標準形式]
	日付形式
日時設定(P.29)	実行する
日付並び(P.137)	[年/月/日]
	月/日/年
	日/月/年

2	
操作音 (P.128)	[音1]
	音2
	なし
AF音 (P.128)	[音1]
	音2
	なし
シャッター音(P.128)	[音1]
	音2
	なし
音量(P.128)	3 (大きい)
	[2]
	1 (小さい)
	なし
オートパワーオフ (P.129)	30分
	10分
	5分
	[3分]
	1分

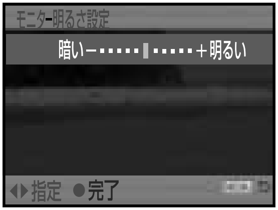
4	
ビデオ出力 (P.137)	[NTSC]
	PAL
USB接続 (P.138)	[カードリーダー]
	PictBridge
バージョン表示 (P.138)	実行する

液晶モニターの明るさ調整



液晶モニターの明るさを調整することができます。

SETUP →[1]→[モニター明るさ設定]→【右側へ】→[(実行する)]→【実行】



1. 上記の手順で、モニター明るさ設定画面を表示させます。
- 左図の画面が現れます。

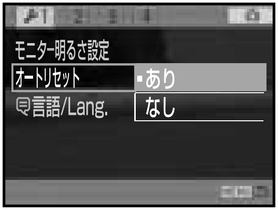
2. 十字キーの左右でモニターの明るさを調整します。

3. 十字キー中央の実行ボタンを押します。
- メニュー画面にもどります。

- 液晶モニターの明るさを変えても、撮影される画像の明るさは変わりません。画像そのものの明るさを変える場合は、露出補正をお使いください。→ P.71

- 日中の野外等で液晶モニターが見えにくいとき、液晶モニターボタンを押し続けることで、モニターの輝度を上げることができます。→ P.73

オートリセット



オートリセットを「あり」にすると、メインスイッチを入れ直すたびに下記の設定項目が初期設定に自動的にもどります。「なし」にすると、メインスイッチを入れ直しても前回に使用した設定が保持されます。

MENU →［ 1］→［オートリセット］→【右側へ】→［あり または なし］→【実行】→ MENU

状態の変わる項目	初期設定（この状態にもどります）
画面表示の切り替え（P.43）	情報表示あり
フラッシュモード*1（P.47）	自動発光 または 赤目軽減自動発光
フォーカスフレーム（P.50）	ワイドフォーカスフレーム
ドライブモード（P.56）	1コマ撮影
ホワイトバランス*3（P.66）	AUTO
手ぶれ補正（P.67）	手ぶれ補正2
撮像感度（P.68）	AUTO
測光モード（P.70）	多分割
露出補正*2*3（P.71）	±0.0
ハイブライトLCD（P.73）	OFF
カラーモード*3（P.74）	カラー
シャープネス（P.75）	標準
コントラスト（P.76）	標準

*1 フラッシュモードを前回 赤目軽減自動発光 で撮影したときは、オートリセット「あり」で電源を入れ直すと、自動発光ではなく赤目軽減自動発光になります。その他のフラッシュモードの場合は自動発光になります。

*2 オートリセット「あり」に設定すると、「なし」のときに設定した露出補正値は解除されます。

*3 ホワイトバランス、露出補正、カラーモードは、動画モードでの設定もリセットされます。

- お買い上げ時は、オートリセット「あり」に設定されています。電源を入れ直したときに前回設定した状態でそのまま撮影したい場合は、オートリセットを「なし」にしてください。

言語設定



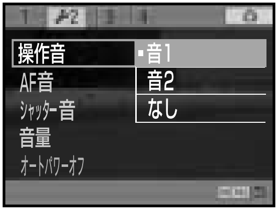
画面に表示される言語を、11カ国語の中から選ぶことができます。
初期設定は [日本語] です。

SETUP →[1]→[言語/Lang.]→【右側へ】→[十字キーの上下で希望の表示言語]→【実行】→ **MENU**

● 選べる言語は以下の通りです。

- 日本語/JPN
- 英語（**English**）
- ドイツ語（**Deutsch**）
- フランス語（**Français**）
- スペイン語（**Español**）
- イタリア語（**Italiano**）
- スウェーデン語（**Svenska**）
- ロシア語（Русский）
- 簡体中国語（中文/CHN）
- 繁体中国語（繁體中文）
- 韓国語（한 국 어）

操作音と音量の設定



カメラを操作したり撮影のためシャッターを切ると、操作音/AF音/シャッター音が鳴ります。その音の種類や音量を変えたり、音が鳴らないようにすることができます。操作音/AF音/シャッター音は［音1］［音2］［なし］の3つから選べます。音量は4段階から選ぶことができ、操作音/AF音/シャッター音に反映されます。
初期設定は、操作音/AF音/シャッター音は［音1］、音量は［2］です。

操作音	メインスイッチを入れる、レバーを動かす、ボタンを押すなど、カメラを操作したときに鳴る音	音1
		音2
		なし（操作音は鳴りません）

SETUP →［🔧2］→［操作音］→【右側へ】→［音1 または 音2 または なし］→【実行】

AF音	ピントが合ったときに鳴る音	音1
		音2
		なし（AF音は鳴りません）

SETUP →［🔧2］→［AF音］→【右側へ】→［音1 または 音2 または なし］→【実行】

シャッター音	シャッターを切ったときに鳴る音	音1
		音2
		なし（シャッター音は鳴りません）

SETUP →［🔧2］→［シャッター音］→【右側へ】→［音1 または 音2 または なし］→【実行】

音量	操作音/AF音/シャッター音の音の大きさを調整します	3（大きい）
		2
		1（小さい）
		なし（音は全て鳴りません）

SETUP →［🔧2］→［音量］→【右側へ】→［*3 または 2 または 1または なし*］→【実行】

オートパワーオフ

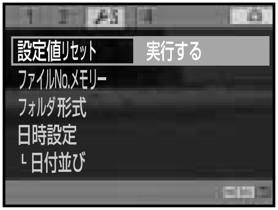


初期設定では、約3分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に電源が切れ、液晶モニターの表示が消灯します（オートパワーオフ）。このオートパワーオフまでの時間を、1分、3分、5分、10分、30分のいずれかに変更することができます。

SETUP →［🔧2］→［オートパワーオフ］→【右側へ】→［*希望の時間*］→【実行】

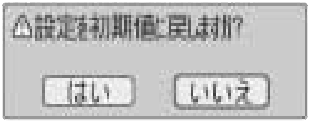
● オートパワーオフ後に操作を再開したいときは、メインスイッチを押してカメラの電源を入れてください。

設定値リセット



カメラのほとんどの設定を、初期設定(お買い上げ時の設定)にもどすことができます。

SETUP →[🔧3]→[設定値リセット]→【右側へ】→[(実行する)]→【実行】





1. 上記の手順で、設定値リセットを実行します。

● 左図の確認画面が現れます。

2. 十字キーの左右で［はい］を選び、十字キー中央の実行ボタンを押します。

● 設定値リセットが完了すると、左下図の画面が現れます。メニューボタンを押すと元の画面にもどります。

リセットされる内容は右ページの通りです。

リセットされる項目

ボタンで設定するもの

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
フラッシュモード	自動発光	47
フォーカスエリア	ワイドフォーカスエリア	50
液晶モニター表示(撮影時)	表示あり	43
液晶モニター表示(再生時)	1コマ再生(表示あり)	94

撮影モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
ドライブモード	1コマ撮影	56
画像サイズ	3264×2448	62
画質	スタンダード	64
ホワイトバランス	AUTO	66
手ぶれ補正	手ぶれ補正2	67
撮像感度	AUTO	68
測光モード	多分割	70
露出補正	±0.0	71
アフタービュー	なし	72
ハイブライトLCD	OFF	73
カラーモード	カラー	74
シャープネス	標準	75
コントラスト	標準	76
デジタルズーム	なし	77
日付写し込み	なし	78
上下キーカスタマイズ	露出補正	79
左右キーカスタマイズ	なし	79

動画モード時のメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
動画/ボイスレコード	動画	82
画像サイズ	320×240	86
光学ズーム	なし	87
デジタルズーム	あり	87
手ぶれ補正	あり	87
ホワイトバランス	AUTO	88
露出補正	±0.0	88
カラーモード	カラー	88
フォーカスモード	撮影中AFなし	89
ナイトムービー	OFF	89
音声	あり	89

再生モードメニュー

項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
日付プリント	なし	117
コマ送り効果(ｽﾗｲﾄﾞｼｮｰ)	ランダム	111

セットアップモードメニュー

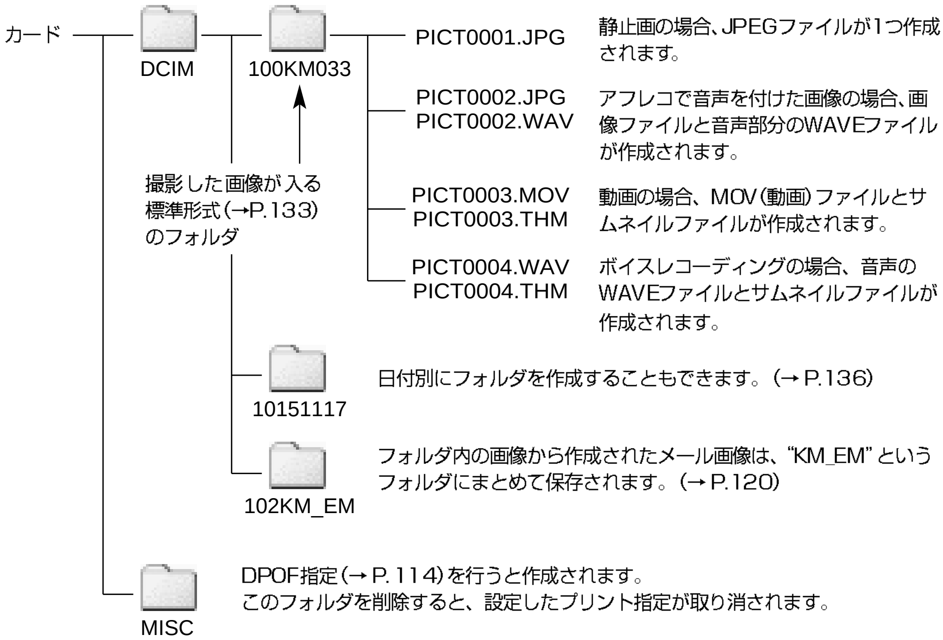
項目	設定	ﾍﾟｰｼﾞ
モニター明るさ	標準	125
オートリセット	あり	126
操作音	音1	128
AF音	音1	128
シャッター音	音1	128
音量	2	128
オートパワーオフ	3分	129
ファイルNo.メモリー	なし	135
フォルダ形式	標準形式	136
USB接続	カードリーダー	138

ファイルとフォルダ

フォルダ構成

ある画像を撮影すると、画像1つにつき1つまたは2つのファイルが作成され、カード内のフォルダに入れられます。カード内のファイルとフォルダの構成は以下の通りです。

● 以下は、カードの内容をパソコンで表示させたときのフォルダ構成です。



フォルダ名について

標準形式の例：

100 KM033

フォルダの通し番号（100～）　識別文字

日付形式の例：

101 51117

フォルダの通し番号（100～）　年(西暦の下1桁)月日

フォルダ名は、**標準形式**の場合“フォルダの通し番号3桁”＋“識別文字5文字”、
日付形式の場合“フォルダの通し番号3桁”＋“年(西暦の下1桁)月日”となります。

通し番号は“100”から始まり、フォルダが作成されるたびに1つずつ増えて行きます。
標準形式のフォルダの場合、識別文字は“KM033”です。“KM”はコニカミノルタを、“033”はこのカメラ（DiMAGE X1）を表します。
標準形式/日付形式いずれのフォルダの場合も、メール画像の入るフォルダの識別文字は“KM_EM”です。

- 標準形式フォルダの識別文字5文字、および、日付形式フォルダの年月日5文字は、カメラをパソコンに接続してカード（の内容）を表示させたときに確認できます。
- フォルダの削除は、カメラをパソコンに接続してパソコン側で行なうか（→P. 144～）、カメラ側でカードをフォーマットしてください（→P. 106）。

ファイル名について

例：　PICT 0001 .JPG

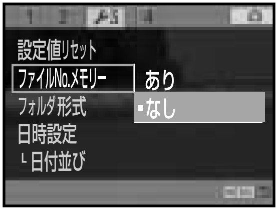
ファイル番号（0001～）　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）

PICTの後の4桁の通し番号（ファイルの通し番号）は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。

- カメラでフォルダ内の最新画像以外を消去すると、消去した画像のファイル番号は欠番となります。
- フォルダ内の画像をすべて消去すると、ファイル番号は再び0001から始まります（ファイルNo.メモリーを「なし」に設定している場合。→P. 135）。
- “PICT9999”まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（132ページの例だと“103KM033”）、その中で再び“PICT0001”から画像の記録が開始されます。
- 各フォルダ内では、常にファイル名は“PICT0001”から（すでにファイルが存在する場合はその次の番号から）始まります（ファイルNo.メモリーを「なし」に設定している場合。→P. 135）。

  ※続き番号にするには → ファイルNo.メモリーを「あり」にする、P.135
- お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。

ファイルNo.メモリー



初期設定のファイルNo.メモリー[なし]では、フォルダが変わるたびにファイル名は再び“PICT0001”から始まります。これを続き番号にすることができます。

なし： ファイルNo.メモリーは機能しません。メール画像の作成、日付形式フォルダで日付が変わる等でフォルダが変わると、ファイル番号は0001に戻ります。同一フォルダ内にすでにファイルが存在する場合は、その続き番号から始まります。

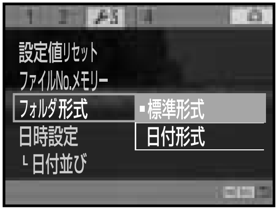
あり： ファイルNo.メモリーが機能します。フォルダの変更、全画像の消去、カードの交換やフォーマットを行なっても、ファイル番号はそのまま続きます。

SETUP →[🔧3]→[ファイルNo.メモリー]→【右側へ】→[ありまたはなし]→【実行】

イメージ図

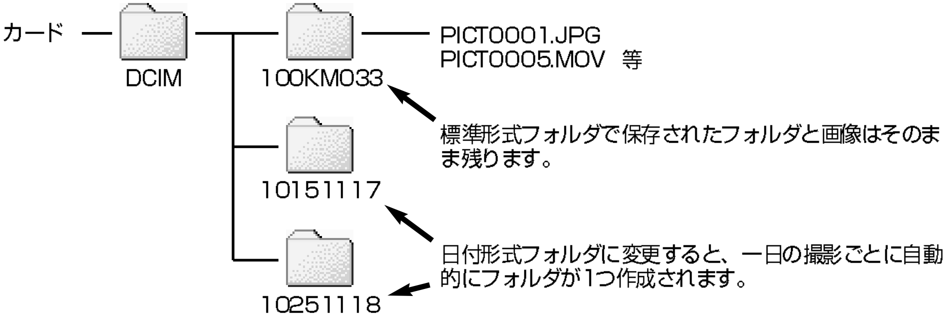


フォルダを日付別に分ける（日付形式フォルダ）



初期設定の標準形式フォルダ（100KM033など）を日付形式フォルダに変更し、日付別のフォルダに分けて保存することができます。

SETUP →［🔧3］→［フォルダ形式］→【右側へ】→［*標準* または *日付*］→【実行】

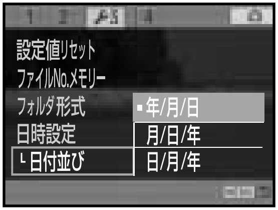


● 初期設定では、日付が変わってフォルダが変わるたびに、中のファイル番号は PICT0001 にもどります。

※続き番号にするには → ファイルNo.メモリーを「あり」にする、P.135

● 日付形式フォルダは、カメラの日付・時刻を正確に合わせた状態でお使いください。

日付並び

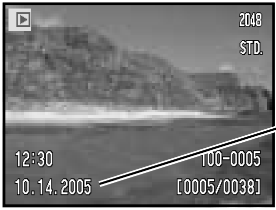


日付の並び順を変えることができます。

SETUP →[🔧3]→[日付並び]→【右側へ】→
[*希望の並び順*]→【実行】

上記の手順で、日付並び順を選びます。

● ここでの設定は、再生画面に表示される撮影日や、日付写し込み［あり］で写し込まれる日付の並び順にも反映されます。



撮影日の並び順が変わっています
（左の例では月日年の順）

※日付・時刻の設定（修正）のしかたは → P.29

ビデオ出力形式



ビデオの信号形式にはいくつかの方式があり、国や地域によって異なります。日本やアメリカ、韓国等ではNTSC方式、ヨーロッパの多くの国々（フランスを除く）やオーストラリア、中国等ではPAL方式が採用されており、両者の間には互換性がありません。このカメラの画像を日本国外のテレビで見る際には、その国に合わせた信号形式に設定してください。
このカメラでは、NTSCとPALの2つの設定が可能です。

SETUP →[🔧4]→[ビデオ出力]→【右側へ】→[*希望の設定*]→【実行】

上記の手順で、希望の出力形式を選びます。

USB接続

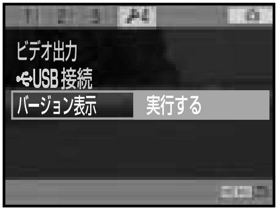


USB接続時のカメラの動作モードを設定します。
カードリーダー：カメラとパソコンを接続してカード内の画像をパソコンに取り込む場合は「カードリーダー」にします。→P.142
PictBridge：PictBridge対応プリンターと接続してカード内の画像を印刷する場合は「PictBridge」を選びます。→P.166〜

SETUP →[4]→[USB接続]→【右側へ】→[*希望の設定*]→【実行】

上記の手順で、希望の動作モードを選びます。

バージョン表示



カメラに搭載しているソフトウェアのバージョンを確認することができます。

SETUP →[4]→[バージョン表示]→【右側へ】→[(*実行する*)]→【実行】



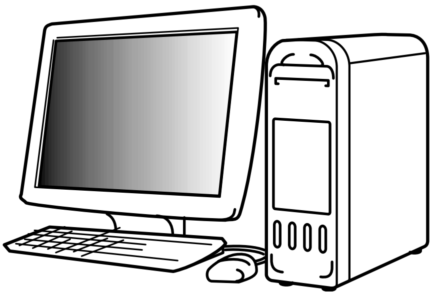
1. 上記の手順で、バージョン表示を実行します。
- 左図の確認画面が現れます。

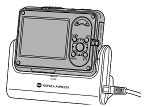
2. 確認後、十字キー中央の実行ボタンを押してメニュー画面にもどります。

パソコンと接続する

パソコンをお持ちの場合、撮影した画像をパソコンに取り込み、保存や整理を行なうことができます。

- カメラ（クレードル）とパソコンを接続して画像をパソコンに取り込む場合は、セットアップモードの［ 4］タブの［ USB接続］の設定を「**カードリーダー**」にしてください。→ 138ページ参照





動作環境

以下のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、付属のクレードルとUSBケーブルでカメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です。接続には付属のクレードルセット CA-1とUSBケーブル USB-3をお使いください（USBマスストレージ対応）。

コンピュータ	IBM-PC/AT互換機	Apple Macintosh
OS	Windows® XP（Home, Professional）、 Windows® 2000 Professional、 Windows® Me、Windows® 98/98 Second Edition がインストール済み	Mac OS 9.0〜9.2.2、 Mac OS X v10.1.3〜v10.1.5、 v10.2.1〜v10.2.8、 v10.3 〜v. 10.3.9、 v10.4 〜v. 10.4.1 がインストール済み
その他	USBポート標準装備	

- ご使用のOSの環境において、USBポートがパソコンメーカーに動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- 同時に使われるUSB機器によっては、正常に動作しない場合があります。
- USBポートはパソコン本体に標準装備されたポートのみサポートします。ハブ経由で接続した場合は正常に動作しない場合があります。
- 自作機、ショップブランドなどの各種ボード類を含めて組み立てられた機種は除きます。
- 上記環境のすべてのパソコンについて動作を保証するものではありません。
- USB 2.0対応パソコンに接続した場合は、フルスピードモード（12Mbps）でのデータ転送となります。ハイスピードモード（480Mbps）には対応していません。

最新の動作環境情報（互換性情報）については、下記の弊社カメラ統合ポータルサイトをご覧いただくか、裏表紙記載の弊社お客様センターにお問い合わせください。

http://ca.konicaminolta.jp/

お持ちのパソコンにより、画像を表示させる方法は異なります。

Windows®XP、Me、2000 Professional の場合

USBケーブルで、そのままカメラ(クレードル)とパソコンを接続してお使いになれます。→P.142～
動画の再生にはQuickTimeが必要です。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMよりインストールしてください。→P.160

Windows®98/98 Second Edition の場合

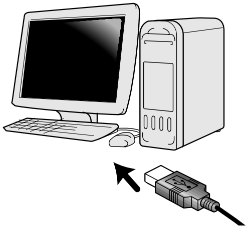
付属のデジタルカメラソフトウェアCD-ROMから、USBドライバをパソコンにインストールする必要があります。→P.152
その後USBケーブルでカメラ(クレードル)とパソコンを接続してお使いください。→P.142～
動画の再生にはQuickTimeが必要です。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMよりインストールしてください。→P.160

Macintoshの場合

USBケーブルで、そのままカメラ(クレードル)とパソコンを接続してお使いになれます。→P.142～

パソコンに接続する（USB接続）

カメラとパソコンの接続は、付属のクレードルセットとUSBケーブルを使って行ないます。

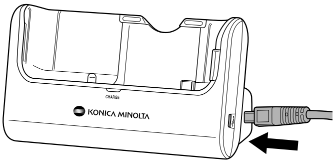


1. パソコンの電源を入れます。

2. 付属のクレードルの電源コードを、クレードルの電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。

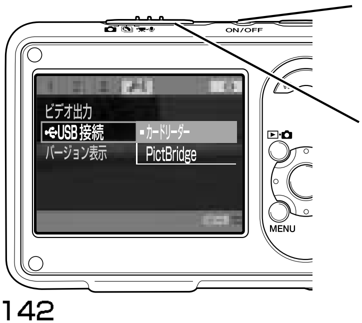
3. 付属のUSBケーブルの大きいほうのコネクタを、パソコン本体のUSBポートに差し込みます。

● 奥まで確実に差し込んでください。



4. 付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタを、クレードルのUSB端子に差し込みます。

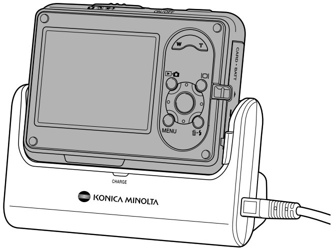
● 奥まで確実に差し込んでください。
● USBケーブルのコネクタがUSB端子に入らないときは、コネクタと端子の形状が合っているか、また、コネクタ上の⬅マークがクレードルの背面側に向いているかを確認して再度差し込み直してください。無理に差し込むと故障の原因になります。



5. カメラにカードを入れ、メインスイッチを押して電源を入れ、セットアップメニューの「USB接続」の設定が「カードリーダー」になっていることを確認します。→P.138

● モード切り替えレバーはどの位置でも構いません。

6. カメラのメインスイッチを押して、電源を切ります。



7.カメラをクレードルに取り付けます。

● 液晶モニターを前に向けて、スタンドに立ててください。

※カメラにACアダプターセットを装着した状態でクレードルに取り付けないでください。故障の原因になります。

8.カメラのメインスイッチを押して、電源を入れます。

● USB接続が確立されると、液晶モニターに  が現れます。

● "USB接続中"のメッセージがいつまでも消えない場合は、USBケーブルが確実に差し込まれているか確認してください。

● USB接続を解除する際には 149ページ、150ページの指示にしたがってください。

● USB接続中は、カメラを約10分間程度操作しないでいると自動的にカメラがOFFになります(OSによっては「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが現れます)。接続後はすみやかに画像のコピー等の操作を行なってください。コピー等データの交信中は自動的にカメラがOFFになることはありません。また必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、USB接続を解除されることをおすすめします。→ P. 149、150

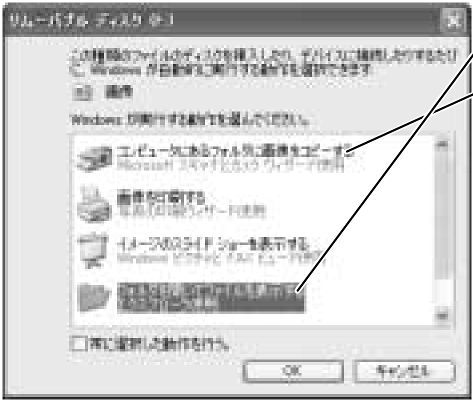
● Windows® 98/98 Second Edition使用時に、接続後[新しいハードウェアの追加ウィザード]の画面で止まった場合は、ドライバが正しくインストールされていない可能性があります。→ドライバをインストールしていない場合は152ページへ、すでにしている場合は155ページへ

パソコンに画像ファイルをコピー・保存する

画像ファイル(動画ファイルを含む)を、パソコンにコピーして保存します。

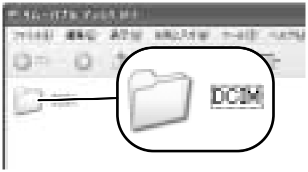
- カメラ(クレードル)とパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中(アクセスランプ点灯中)には、カメラのメインスイッチを切る、USBケーブルを取り外す、カードや電池を取り出すといった操作は行なわないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。
- カードのフォーマットは、原則としてカメラ側で行なってください(→P.106)。パソコンでカードのフォーマットを行なうと、カメラ側でカードを認識しないことがあります。
- パソコンでカード内の画像データのファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。カメラで再生できないだけでなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。
- ここでは標準的な画像の転送方法を説明しています。この他に、付属のKodak EasyShareをインストールしている場合、OSによっては、カメラをパソコンに接続するとEasyShareの転送ウィンドウが開く場合があります。

Windows® XPの場合



1. [フォルダを開いてファイルを表示する]を選び、[OK]をクリックします。

- [コンピュータにあるフォルダに画像をコピーする]でも可能です。その場合はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくは各パソコンメーカーにお問い合わせください。
- パソコンの設定によっては、この画面が現れないことがあります。その場合は、画面左下の[スタート]→[マイ コンピュータ]→[リムーバブルディスク]を開いてください。[リムーバブルディスク]が見つからない場合は、パソコンを再起動してください。



2. [DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

- リムーバブルディスクの後のアルファベット(左図の例ではF:)は、ご使用のパソコンによって異なります。
- [DCIM] 以外のフォルダ([MISC] 等)は削除しないでください。

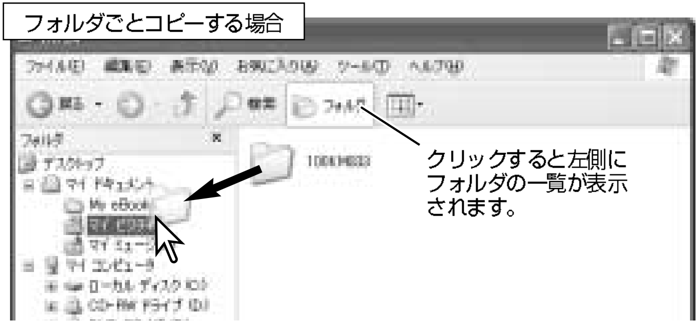


3. [100KM033]等のフォルダをダブルクリックして開きます。

- フォルダ名の初期設定は [100KM033] です。カメラの操作で、別の名前のフォルダも表示されることがあります。
- フォルダを開けると、[PICT0001] 等の画像ファイルが表示されます。

4.保存したいフォルダ、または、ファイルを、パソコンにコピーします。

- フォルダごとコピーする場合は、[100KM033] 等のフォルダを、まるごと [マイ ドキュメント] [マイ ピクチャ] 等にコピーします。



[100KM033] を [マイ ピクチャ] にコピーする例

ファイルごとにコピーする場合



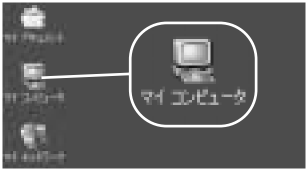
クリックすると左側にフォルダの一覧が表示されます。

[PICT0001.JPG] を[マイ ピクチャ] にコピーする例

● 画像の見え方は、パソコンの設定によって異なります。

● コピー先のフォルダに同じ名前のファイルが存在すると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめコピー先のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。

Windows®2000/Me/98/98SEの場合



1. デスクトップ上の「マイ コンピュータ」をダブルクリックして開きます。

● カメラ内のカードが、「リムーバブルディスク」として現れます。（ドライブ名（右上の例ではE）は、ご使用のパソコンによって異なります。）現れない場合は、パソコンを再起動してください。

※それでも「リムーバブルディスク」が現れない場合は → P.155



2.「リムーバブルディスク」をダブルクリックして開きます。

● 「DCIM」フォルダが現れます。



DCIM

3. [DCIM] フォルダをダブルクリックして開きます。

● その他のフォルダ（[MISC] 等）は削除しないでください。



100KM033

4. [100KM033] 等のフォルダをダブルクリックして開きます。

● フォルダ名の初期設定は［100KM033］です。カメラの設定を変更したりすると、名前が変わったり複数表示されたりすることがあります。→ P.133

● フォルダを開けると［PICT0001］等の画像ファイルが表示されます。お使いのパソコンの設定により、［PICT0001］［PICT0001.JPG］など、拡張子（この場合は ".JPG"）が付く場合と付かない場合があります。

5.保存したいフォルダまたはファイルを、パソコンにコピーします。



[100KM033]
[PICT0001.JPG] を
[マイ ドキュメント]
にコピーする例

● 同じ名前のファイルをパソコン上の同じフォルダにコピーすると、元の画像を上書きしてもいいか確認するメッセージが表示されます。上書きしない場合は、あらかじめパソコン上のファイル名を変更しておくか、別のフォルダにコピーしてください。
● ［マイ ドキュメント］以外に保存する場合は、あらかじめ保存先のフォルダを表示させておきます。

Macintoshの場合

カード内のフォルダを直接開ける場合



Macintoshでは、カードがデスクトップ上に、「NO_NAME」「名称未設定」などの名前で現れます。（それ以外の名前になることもあります。）
● 現れない場合は、Mac OSを再起動してください。

1. デスクトップ上のカードアイコンをダブルクリックして開きます。

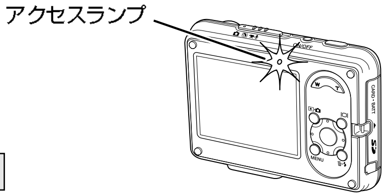
2. 前ページの3.～5.の手順に従って、カード内のフォルダまたはファイルをパソコンにコピーします。
● ［マイ ドキュメント］の代わりに、任意の保存先を選んでコピーしてください。

イメージキャプチャアプリケーションを利用する場合（Mac OS Xのみ）



Mac OS Xでは、カメラ（クレードル）とパソコンを接続すると、左図のイメージキャプチャ（Image Capture）アプリケーションが起動することがあります。パソコンに画像を保存する場合は、ダウンロード先を選んで、［一部をダウンロード...］または［すべてをダウンロード］をクリックします。その後はメッセージに従って操作を進めてください。詳しくは、OSのヘルプ画面等をご覧ください。

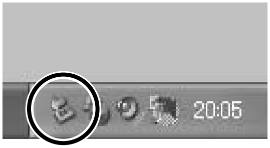
接続を解除する



必要な画像をパソコンにコピーした後は、すみやかに以下の要領でUSB接続を解除されることをおすすめします。
USB接続した状態でカメラ内のカードを交換する場合も、まず以下の操作を行なってください。

Windows® XP/Me/2000 Professionalの場合

お使いのWindows® OSによって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。



1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。

2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている［ハードウェアの安全な取り外し］または［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］のアイコンを左クリックします。



3. ［USB大容量記憶装置デバイスを安全に取り外します（または停止します)］または［USBディスクの停止］を左クリックします。



4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、☒または［OK］をクリックします。

5. メインスイッチを押してカメラの電源を切ります。

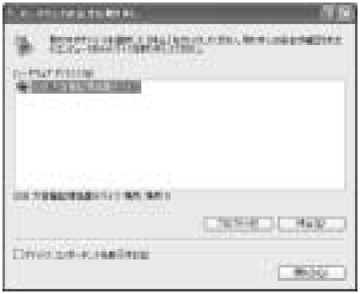
6. カメラをクレードルから取り外します。

7. カード交換時は、カードを交換します。

接続を解除する（続き）

● 複数のUSB機器を接続している場合は、前ページの**2.**で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックする方法が便利です。以下の手順に沿ってください。

1. ハードウェアの取り外し画面（右図）が現れたら、USBを選択して［停止］をクリックする。
2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して［OK］をクリックする。
3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］または☒をクリックする。
4. USBケーブルを取り外す。



Windows® 98 または 98 Second Editionの場合

1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。

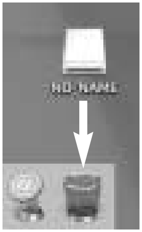
● Kodak EasyShareをインストールされている場合は、画面右下のタスクバーにあるEasyShareのアイコンを右クリックし、「Kodak EasyShareソフトウェアの終了」を選択して終了させてください。

2. メインスイッチを押してカメラの電源を切ります。

3. カメラをクレードルから取り外します。

4. カード交換時は、カードを交換します。

Macintoshの場合





1. カメラのアクセスランプが点灯していないことを確認します。

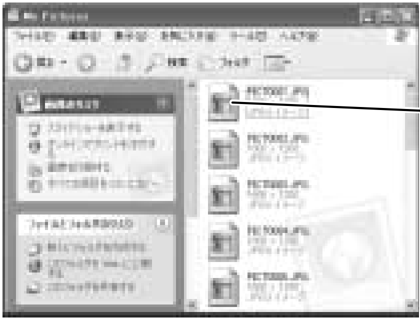
2. カードのアイコンをゴミ箱へ移します。

3. メインスイッチを押してカメラの電源を切ります。

4. カメラをクレードルから取り外します。

5. カード交換時は、カードを交換します。

パソコンで画像ファイルを開く



1. 画像を保存したフォルダ（My Pictures など）をダブルクリックして開きます。

2. 見たい画像をダブルクリックします。

● 各ファイルに関連付けされたソフトウェアが自動的に起動します。起動しない場合や意図しないソフトウェアが起動した場合は、先にソフトウェアを起動させ、その後［ファイル］→［開く］を選んでください。

必要なソフトウェア

JPEGファイル

このカメラで撮影された画像で、最後に「.JPG」が付きます。一般的な画像表示ソフトウェアで開くことができます。お持ちでない場合は、付属のデジタルカメラソフトウェアCD-ROM内の「Kodak EasyShare（コダック イージーシェア）ソフトウェア」または「DiMAGE Master Lite（ディマージュ マスター ライト）」をインストールしてお使いください。

MOVファイル

動画撮影の画像で、最後に「.MOV」が付きます。再生するにはQuickTime等の動画再生ソフトウェアが必要です。お使いのWindowsパソコンにインストールされていない場合は、付属のデジタルカメラソフトウェアCD-ROM内のQuickTimeをインストールしてお使いください。→ P.160

● Kodak EasyShareソフトウェアやDiMAGE Master Liteで動画を見る場合も、先にQuickTimeをインストールしておく必要があります。

● Macintoshの場合、通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

WAV（WAVE）ファイル

ボイスレコーディングや音声付き画像の音声部分で、最後に「.WAV」が付きます。OSに付属の音声再生ソフトウェア（Windows Media Player, QuickTime Player等）で再生できます（音声付き画像の音声部分の場合、画像と同時に再生することはできません）。

ドライバのインストール（Windows®98/98SEのみ）

Windows®98/98 Second Editionをお使いの場合、付属のデジタルカメラソフトウェアCD-ROMから、パソコンにドライバをあらかじめインストールしておく必要があります。



1. デジタルカメラソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

● 左の画面が現れます。

2. [Windows 98用USBマスストレージクラスドライバのインストール] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストールを開始します。



● このカメラ（DiMAGE X1）のWindows®98/98SE用のドライバをインストールした後に、それ以前のDiMAGEシリーズデジタルカメラ用のWindows®98/98SE用ドライバをインストールすると、DiMAGE X1のUSB接続ができなくなることがあります（逆の順序でインストールすると問題ありません）。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はデジタルカメラソフトウェアCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

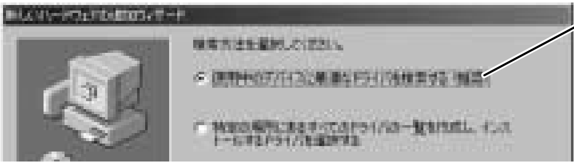
ドライバのインストールが完了すると、続いてカメラ（クレードル）とパソコンを接続します。→P.142～

接続時に追加ウィザードが現れた場合

お使いのパソコンの環境によっては、前ページの要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。左の画面が表示された場合は、次の手順に沿ってください。



1.［次へ>］をクリックします。



2.［使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）］を選択し、［次へ>］をクリックします。

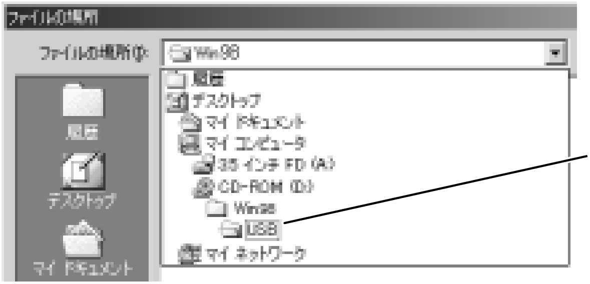


3. デジタルカメラソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

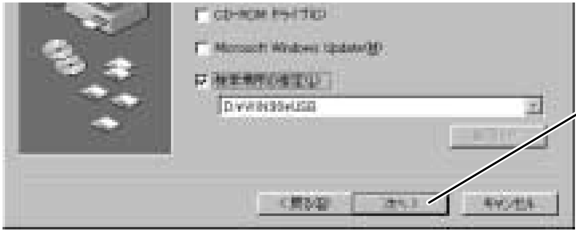
4.［検索場所の指定］を選択し、［参照］をクリックします。

（次ページへ続く →）

ドライバのインストール（Windows 98/98SEのみ）（続き）



5. 検索場所を、[CD-ROM] − [Win98] − [USB] の順に指定します。



6. [次へ>] をクリックします。



7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、[次へ>] をクリックします。

8. インストールが完了すると、[完了] をクリックします。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はデジタルカメラソフトウェアCD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

USB接続ができないときは

Windowsパソコンをお使いの場合で、カメラをパソコンに接続してもリムーバブルディスクが現れなかった場合は、以下の方法でUSBドライバをいったん削除(アンインストール)し、その後再度接続してください。

以下の弊社カメラ統合ポータルサイトも合わせてご覧ください。

→ http://ca.konicaminolta.jp/support/faq/ts/ts001/index.html

1.カメラにカードを入れ、カメラ(クレードル)とパソコンを接続します。→P.142

- パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。

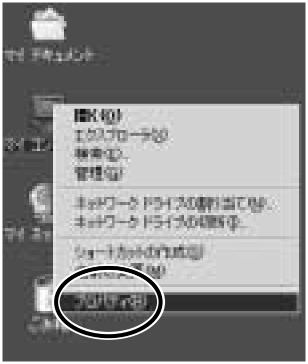
2.[マイコンピュータ]を右クリックし、[プロパティ]を選びます。

- Windows®XPの場合は、[スタート]から[マイコンピュータ]を選び、右クリックすると[プロパティ]が現れます。
- Windows®Me、2000、98、98SEの場合は、デスクトップ上の[マイコンピュータ]を右クリックすると[プロパティ]が現れます。

Windows®XP



Windows®Me、2000、98、98SE



(次ページへ続く →)

3.「システムのプロパティ」画面から、「デバイスマネージャ」を選びます。

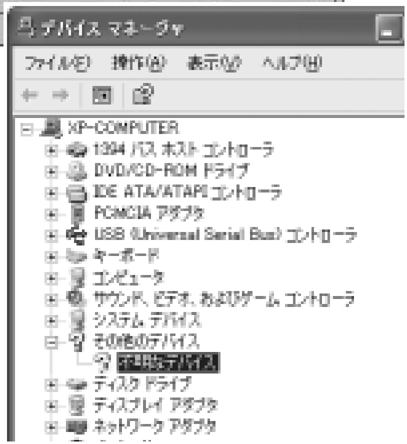
- Windows®XP、2000の場合は、「ハードウェア」タブをクリックし、中段の「デバイスマネージャ」をクリックします。
- Windows®Me、98、98SEの場合は、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。

Windows®XP、2000



Windows®Me、98、98SE





4.「USBコントローラ」「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」「その他のデバイス」のいずれかに以下のどれかが表示されるので、その項目を選びます。

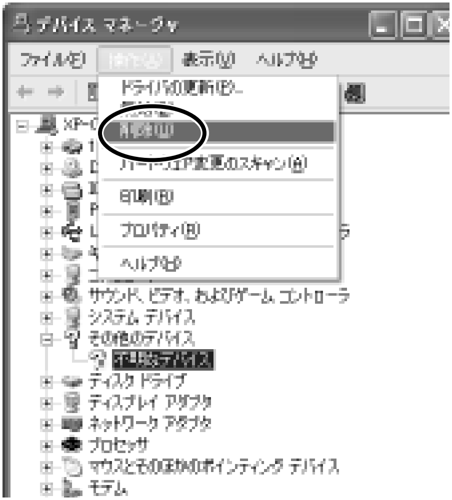
・[USB大容量記憶装置デバイス]
・弊社名（KONICA_MINOLTA）を含む項目
・カメラ名（DiMAGE）を含む項目
・[?]または[！]で表示される項目

- 項目の左側に「＋」が表示されているときは、まず「＋」をクリックしてください。
- 該当する項目が見つからない場合は、カメラが正しくパソコンに接続されているかどうかを確認してください。

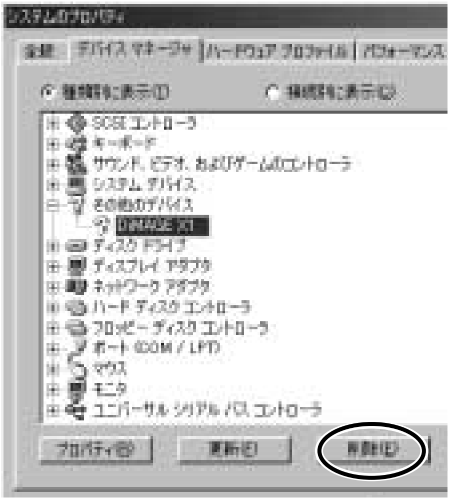
5. 4で選んだ項目を削除します。

- Windows®XP、2000の場合は、画面上部の「操作」から「削除」を選びます。
- Windows®Me、98、98SEの場合は、「削除」をクリックします。

Windows®XP、2000



Windows®Me、98、98SE



6. 削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。

7. カメラの電源を切り、パソコンを再起動します。

- Windows®XP、2000、Meの場合は、この後142ページの要領で、再度USB接続を行ないます。
- Windows®98/98SEの場合は、この後ドライバをインストールし（→ P.152）、その後再度USB接続を行ないます（→ P.142）。

Kodak EasyShare ソフトウェア

付属のデジタルカメラソフトウェア CD-ROMに収録されているKodak EasyShare(コダック・イージーシェア) ソフトウェアを使用すると、画像の管理、印刷、共有を簡単に行うことができます。

整理機能で画像の管理を簡単に
Kodak EasyShareソフトウェアを使用すると、画像が自動的に管理され、見たい画像をすばやく検索して閲覧することができます。また、自分のアルバムを作成して自分の好きなように画像を並べ替えることもできます。

高品質プリント
Kodak EasyShareソフトウェアを使用すると、デジタル画像を簡単に美しくプリントして楽しむことができます。自宅でも、オンラインでも、お近くの写真店でもプリントができます。

大切な思い出を共有しよう
Kodak EasyShareソフトウェアを使用すると、お好みの画像を簡単にすばやく友達や家族と共有することができます。

良く撮影出来た画像をよりすばらしく
良く撮れた画像を簡単操作の編集ツールで、よりすばらしい画像に修正できます。

EasyShare動作環境

対応OS： Windows 98、98SE、Me、2000 Professional (SP1以降)、XP (Home/Professional)
Mac OS X v10.2.3 - 10.2.8、Mac OS X v10.3 - 10.3.8
* Windows XP、2000の場合、インストールは管理者(Administrator)権限を持つ環境で 行ってください。

インストール方法

インストールの際には、カメラ(クレードル)とパソコンの接続を解除してください。接続したままインストールすると、エラーの原因となります。

1. コンピュータウイルス感染防止プログラムを含む、すべてのソフトウェアを終了させます。

2. デジタルカメラソフトウェア CD-ROM をパソコンのCD-ROMドライブにセットします。



3. インストール作業を開始します。

- Windowsの場合、[Kodak EasyShare Softwareのインストール] をクリックします。この画面が現れない場合は、[スタート] →[ファイル名を指定して実行] を選び、実行画面が現れたら、[参照] を押して、CD-ROMドライブ→[KodakEasyShare] → [Setup.exe] を選択、[開く] をクリックします。
- Macintoshの場合、CD-ROMドライブ→[Kodak EasyShare] →[Install Software] の順にダブルクリックします。

4. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

- Windowsの場合、セットアップの種類で [標準] を選ぶとすべてのソフトウェアがインストールされます。個別に選ぶ場合は [カスタム] を選んでください。
- EasyShareのインストール後、再起動せずに続けてQuickTimeのインストールを行うことをおすすめします。QuickTimeはEasyShareで動画を見るために必要です。→P.160

5. パソコンを再起動します。

- ウイルス感染防止プログラム等を元に戻してください。

起動方法

Windowsの場合

デスクトップ上の [Kodak EasyShare] をダブルクリックするか、[スタート] → [(すべての) プログラム] → [Kodak] →[Kodak EasyShare] から [Kodak EasyShareソフトウェア] を起動させます。

Macintoshの場合

アプリケーションフォルダ内の [Kodak EasyShare] をダブルクリックして起動させます。

操作方法



Kodak EasyShare メイン画面右上のヘルプボタンをクリックすると、操作方法がご覧になれます。

コダック社お問い合わせ先　http://www.kodak.com/go/easysharesupportsw_japanese

QuickTimeのインストール（Windows®のみ）

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。Windows®で、お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMからインストールしてください。

- Macintoshの場合、通常はQuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

QuickTime 6 動作環境

● コンピュータ	IBM PC/AT互換機
● CPU	Intel Pentiumプロセッサ
● 必要メモリ	128MB以上の実装メモリ
● OS	Windows®XP/Me/2000 Professional/98 Second Edition/98

インストール方法



1. デジタルカメラソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- 左の画面が現れます。

2. [QuickTime のインストール] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

- インストール途中に【インストール種類の選択】画面が現れますが、そこでは［基本的なインストール］を選択してください。

操作方法



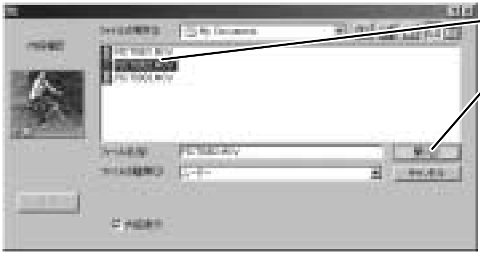
QuickTime
Player

1. QuickTimeを起動させます。

● QuickTime Playerのアイコンをダブルクリックするか、画面左下の［スタート］から［プログラム（P）］→［QuickTime］→［QuickTime Player］を選択します。

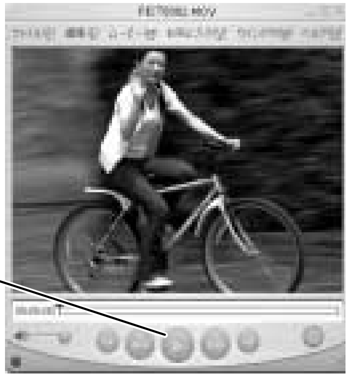


2. ［ファイル（F）］から［新規Playerでムービーを開く...（O）］を選択します。



3. 再生したい動画を選択し、［開く］をクリックします。

4. 動画ファイルを再生します。



操作方法について、詳しくはヘルプをご覧ください。

DiMAGE Master Lite

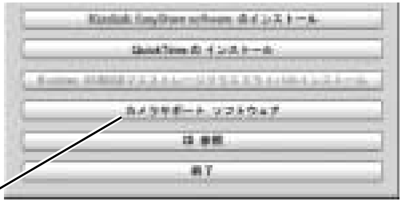
DiMAGE Master Lite（ディマージュ マスター ライト）は、付属のデジタルカメラソフトウェア CD-ROMに収録されている、コニカミノルタ製の画像閲覧・編集用ソフトウェアです。細かな画像の編集に加え、撮影と同時に記録される画像情報（Exif）を確認したり、カラーマッチングを行なったりすることもできます。

DiMAGE Master Lite 動作環境

コンピュータ	IBM PC/AT 互換機	Apple Macintoshシリーズ
CPU	Intel Pentium II 相当以上を搭載 Pentium III 相当以上を推奨	PowerPC G3以降を搭載 PowerPC G4以上を推奨
OS	Windows XP（Home/Professional）、 2000 Professional、Me、98SE、98	Mac OS X v10.1.3～10.1.5、10.2.1～ 10.2.8、10.3～10.3.9、10.4～10.4.1
必要メモリ	128MB以上の実装メモリ（256MB以上を推奨）	
ハードディスク 空容量	インストールドライブに100MB以上 ソフトウェア起動時、起動ドライブに200MB以上	
ディスプレイ	XGA（1024×768）以上 High Color（16ビットカラー）以上	1024×768ドット以上 32000万色以上
その他	動画を扱う場合はQuickTime6以上がインストールされていることが必要 インストール時にCD-ROMドライブが必要	

インストール方法

Windowsの場合





1. デジタルカメラソフトウェア CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

2. [カメラサポート ソフトウェア]をクリックします。

3. [DiMAGE Master Liteのインストール] をクリックします。

4. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

Macintoshの場合

1. デジタルカメラソフトウェア CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
2. [Utility] → [DiMAGE Master Lite] →[Japanese]を順にダブルクリックして開きます。
3. [Installer] をダブルクリックし、画面の指示に従ってインストール作業を行ないます。

起動方法

Windowsの場合

[スタート] → [(すべての)プログラム] → [DiMAGE Master Lite] から [DiMAGE Master Lite]を起動させます。

Macintoshの場合

インストールしたフォルダ内にある [DiMAGE Master Lite]フォルダを開き、[DiMAGE Master Lite]をダブルクリックして起動させます。

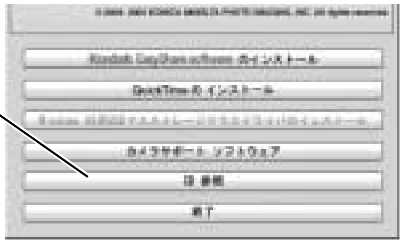
操作方法

操作方法については、デジタルカメラソフトウェア CD-ROM内の使用説明書PDFをご覧ください。

● 使用説明書PDFを開けるためには、Adobe ReaderまたはAcrobat Readerが必要です。お持ちのパソコンにインストールされていない場合は、デジタルカメラソフトウェア CD-ROMよりインストールしてください。
→ P.164

使用説明書PDFを開ける

1. デジタルカメラソフトウェア CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
Windowsの場合は、その後［CD参照］をクリックします。
2. [Manuals] → [DiMAGE Master Lite] → [Japanese] を順にダブルクリックして開きます。
3. [DMasterLite_J.pdf] をダブルクリックします。



Adobe Reader

お持ちのパソコンにAdobe ReaderまたはAcrobat Readerがインストールされていない場合、使用説明書PDFを開けるためには、付属のCD-ROMからAdobe Readerをインストールしてください。

Adobe Reader 6 動作環境

対応OS： Windows 98SE、NT、Me、2000、XP
Mac OS X 10.2.2 - 10.3

上記以外のOSをお使いの場合、AdobeのサイトからAdobe ReaderまたはAcrobat Readerをダウンロードすることが可能です。弊社ホームページ（http://ca.konicaminolta.jp/）から、［製品サポート／使用説明書PDF］→［Get Adobe Reader］へとお進みください。

Adobe Readerをインストールする

1. デジタルカメラソフトウェア CD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。
   Windowsの場合は、その後［CD参照］をクリックします。
2. ［AdobeReader］→［Japanese］を順にダブルクリックして開きます。
3. Windowsの場合は［AdbeRdr60_jpn_full.exe］、Macintoshの場合は［AdbeRdr60_jpn_full.dmg］をダブルクリックします。
4. 画面の指示に従ってインストールを行ないます。

付属のその他のソフトウェア

DiMAGE PCカメラ

デジタルカメラソフトウェア CD-ROMをWindowsパソコンに入れると、［DiMAGE PC Cameraドライバインストーラの起動］が選択できますが、これは他のディマージュカメラの機能であり、このカメラでお使いになることはできません。

その他

PictBridge対応プリンタで画像を印刷する手順や、その他一般的な注意事項、トラブル時の処置等を記載しています。

PictBridge

PictBridgeは、デジタルカメラとプリンタを直接接続して、デジタルカメラで撮影した画像をパソコンを介さずに印刷するための規格の愛称です。
PictBridgeのロゴが表示された製品同士であれば、お互いの製造メーカーや機種が異なっていても、カメラ側からの簡単な操作で手軽にデジタルフォトプリントを楽しめます。

PictBridge対応プリンタで画像を印刷する

カメラを付属のクレードルセットとUSBケーブルでPictBridge対応プリンタに接続し、カメラ内の画像を印刷する方法について説明しています。

カメラをPictBridgeモードにする



1. カメラにカードを入れ、メインスイッチを押してカメラの電源を入れます。

- モード切り替えレバーはどの位置でも構いません。

2. 138ページの要領で、セットアップモードメニュー→[4]→[USB接続]から[PictBridge]を選び、実行ボタンを押します。

カメラとプリンタを接続する

カメラとプリンタの接続は、付属のクレードルセットとUSBケーブルを使って行ないます。

1. プリンタの電源を入れます。

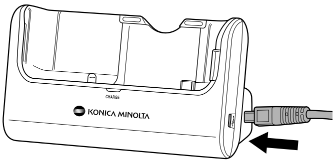
2. 用紙設定など、プリンタ側の設定を行ないます。

- 詳しい設定方法は、プリンタの取扱説明書をご覧ください。
- 日付写し込み（→P.78）付きの画像をプリントする場合は、二重写し込みを防ぐため、プリンタ側での日付写し込み設定は行なわないでください。
- 用紙サイズや印刷される画像のレイアウト、印刷の品質や画像といっしょに印刷される情報の種類は、ダイレクトプリントメニュー画面でカメラ側からも設定・変更できます。→P.172

3. 付属のクレードルの電源コードを、クレードルの電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。

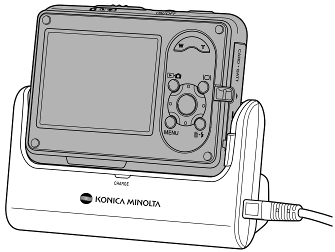
4. 付属のUSBケーブルの大きいほうのコネクタを、プリンタのUSBポートに差し込みます。

- プリンタ内蔵のUSBポートに直接つないでください。USBハブ経由で接続すると正常に動作しない場合があります。
- 奥まで確実に差し込んでください。



5.付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタを、クレードルのUSB端子に差し込みます。

● 奥まで確実に差し込んでください。USBケーブルのコネクタがUSB端子に入らないときは、コネクタと端子の形状が合っているか、また、コネクタ上の ⬅ マークがクレードルの背面側に向いているかを確認して再度差し込み直してください。無理に差し込むと故障の原因になります。



6.カメラのメインスイッチを押して電源を切り、カメラをクレードルに取り付けます。

● 液晶モニターを前に向けて、スタンドに立ててください。

※カメラにACアダプターセットを装着した状態でクレードルに取り付けないでください。故障の原因になります。



7.カメラのメインスイッチを押して電源を入れます。

● 正しく接続されると、「USB接続中」「PictBridge」などのメッセージが現れた後、プリントの初期画面になります。

プリント方法

以下の3通りのプリント設定方法が可能です。

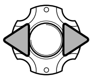
[1] 画像を見ながら直接プリントを行なう **→P.168**
画像を確認しながら枚数を決める場合に便利です。

[2] メニュー画面によりプリント設定を行なう **→P.169**
すべての画像を同一枚数プリントする場合に便利です。インデックスプリントも指定できます。
また用紙設定など各種プリント設定も、このメニュー画面で行ないます。

[3] DPOF (プリント) 指定を使用する **→P.173**
あらかじめカメラでプリントする画像を指定しておく場合に便利です。

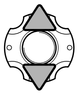
[1] 画像を見ながら直接プリントを行なう

カメラとプリンタを接続すると、以下の画面が現れます。この画面でそのままプリント設定やプリントを行なうことができます。画像を確認しながら、それぞれの枚数を決める場合に便利です。





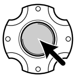
1. 十字キーの左右でプリントする画像を選びます。
- その画像を1枚だけプリントする場合は、2、3を飛ばして、直接4の実行ボタンを押してください。



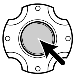


2. 十字キーの上下でプリントする枚数を選びます。
- 上側で最大20枚まで枚数が増えます。下側で枚数が減ります。

3. 必要なだけ1、2の操作を繰り返します。
- 他の画像に移動すると、それまでのプリント合計枚数がTotal欄に表示されます。
- 51コマ以上の画像を一度にプリントすることはできません。



4. 十字キー中央の実行ボタンを押します。
- 右のプリント設定確認画面が表示されます。※用紙サイズ等変更する場合は →P.169



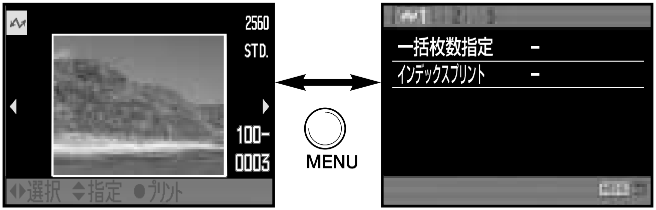
5. 確認後、再度十字キー中央の実行ボタンを押します。
- プリントが始まります。

6.「プリントが終了しました」のメッセージが現れたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

- 「プリンタを確認してください」のメッセージが現れた場合は、プリンタの問題（インク切れなど）によりプリントできません。十字キー中央の実行ボタンを押して、いったんプリントを中止してください。
- プリント中や、「プリンタを確認してください」表示中に実行ボタンを押すと、「プリントを中止しました」のメッセージが出て、プリントは途中で中止されます。USBケーブルを外すか、カメラの電源を切ってください。再度プリントする場合は、設定を確認後、前ページの手順に従ってプリントしてください。

[2] メニュー画面によりプリント設定を行なう

カメラとプリンタを接続後メニューボタンを押すと、以下の設定が可能です。操作方法は撮影モードメニューと同じです。→P.52



- ∿2はカメラ側・プリンタ側のどちらでも設定することができます。カメラ側にない項目については、プリンタ側で設定してください。
- プリンタによっては選択できない項目もあります。

※ [　　]で囲んだものは初期設定です。

∿1	
一括枚数指定 (→ P.170)	全コマ
	全コマ取り消し
インデックスプリント (→ P.171)	実行する

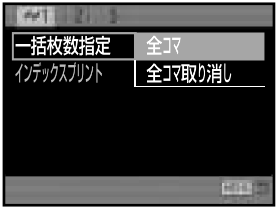
∿2	
用紙サイズ (→ P.172)	[プリンタの設定に従う]
	L
	はがき
	2L
	A4
	Card Size
	100mm x 150mm
	4" x 6"
	8" x 10"
	Letter

∿2	
レイアウト (→ P.172)	[プリンタの設定に従う]
	フチなし1コマ/1枚
	1コマ/1枚
	2コマ/1枚
	4コマ/1枚
印刷品質 (→ P.172)	[プリンタの設定に従う]
	FINE
情報印刷 (→ P.172)	[プリンタの設定に従う]
	なし
	日付
	ファイル名
	日付+ファイル名

∿3	
DPOFプリント (→ P.173)	実行する

一括枚数指定・全コマプリント

カード内のすべての画像を同一枚数プリントします。



- 動画等プリントできない画像は省きます。
- 51コマ以上の画像を一度にプリントすることはできません。カード内にプリント可能な画像が51コマ以上ある場合は、50コマ以内になるよう、画像を見ながら直接プリントしてください。→P.168

1. メニューボタンを押し、十字キーの左右と上下で［1］→［一括枚数指定］から［全コマ］を選んで実行ボタンを押します。



2. 十字キーの上下でプリントする枚数を選び、実行ボタンを押します。

- 上側で最大20枚まで枚数が増えます。下側で枚数が減ります。

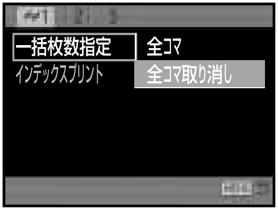
3. メニューボタンを押して、元の画面に戻ります。

4. P.168の4～6の要領で、実行ボタンを押してプリントします。

- 1～3ですべての画像に一括枚数指定した後、P.168の1～3の要領で、一部の画像のプリント枚数を変更することができます。ほとんどすべての画像を1枚ずつプリントするが一部は印刷しない、などの場合に便利です。

一括枚数指定・全コマ取り消し

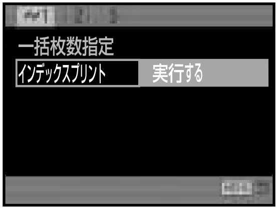
設定したプリント指定をすべて解除します。



1. メニューボタンを押し、十字キーの左右と上下で［1］→［一括枚数指定］から［全コマ取り消し］を選んで実行ボタンを押します。

2. 「全コマ取り消しますか？」のメッセージが出たら、十字キーで「はい」を選び、実行ボタンを押します。

インデックスプリント



カード内のすべての画像をまとめてプリントします。

- 1枚の用紙にプリントされる画像の数や印刷内容は、お使いのプリンタによって異なります。

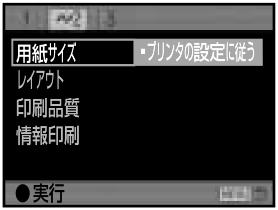
1. メニューボタンを押し、十字キーの左右と上下で［ 1］→［インデックスプリント］から［実行する］を選んで実行ボタンを押します。

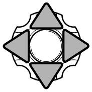
2. プリント確認画面が現れたら、確認後、P.168の5、6の要領で実行ボタンを押してプリントします。

用紙サイズ

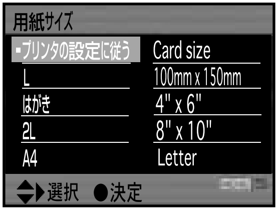
用紙サイズを設定します。

1. メニューボタンを押し、十字キーの左右と上下で［ 2］→［用紙サイズ］から、現在設定されている用紙サイズを選んで実行ボタンを押します。



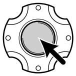


2. 十字キーで希望のサイズを選び、中央の実行ボタンで決定します。



- メニューボタンで元の画面に戻ります。
- それぞれの用紙サイズは以下の通りです。プリンタ側で対応していないサイズは選択できません。

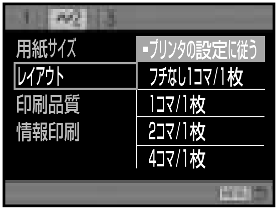
L：	89×127mm
はがき：	100×148mm
2L：	127×178mm
A4：	210×297mm
Card size：	54×85.6mm
100mm×150mm：	100×150mm
4"×6"：	101.6×152.4mm
8"×10"：	203.2×254mm
Letter：	216×279.4mm



レイアウト・印刷品質・情報印刷

上記の項目をそれぞれ設定することができます。

メニューボタンを押し、十字キーの左右と上下で［ 2］→［レイアウト］/［印刷品質］/［情報印刷］から希望の設定を選んで実行ボタンを押します。



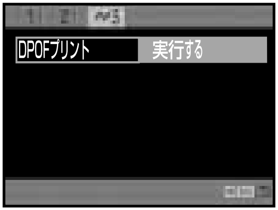
[3] DPOF（プリント）指定を使用する

P.114のDPOF指定で設定した枚数をプリントします。カメラをプリンタに接続する前に、あらかじめ枚数を決めてカメラ側で設定しておく場合に便利です。

● プリンタによってはご使用になれない場合もあります。

1. あらかじめカメラでDPOF指定（P.114）を行い、その後カメラとプリンタを接続します（P.166）。

2. メニューボタンを押し、十字キーの左右と上下で［ 3］→［DPOFプリント］から［実行する］を選んで実行ボタンを押します。



3. 右のプリント確認画面が現れたら、確認後、実行ボタンを押します。

● プリントが始まります。



4.「プリントが終了しました」のメッセージが現れたら、十字キー中央の実行ボタンを押します。

メッセージ表示一覧

メッセージ	原因	対策	ページ
カードが入っていません	カードを入れてください。(カードなしでの撮影については → P.175)		26
カードがロックされています	SDメモリーカードが書き込み禁止になっている	書き込む場合は、カードのライトプロテクトスイッチを「書き込み許可」の状態にしてください。	26
このカードは使えません	カードをフォーマット(初期化)してください。それでも同じメッセージが出る場合は、カードを交換してください。		106
日付/時刻を設定して下さい	長時間電池を抜いたままにしておいたので、日時の設定が失われた	日時を再設定してください。(お買い上げ時にもこのメッセージが現れます。)	28
画像がありません	画像が記録されていないカードを入れて再生モードにした	画像が入っているカードを入れるか、先に撮影を行なってください。	—
表示できない画像です	他のデジタルカメラで撮影した画像などは表示できない場合があります。		—
音声を上書きしますか?	すでにアフレコが録音されている画像に、新たにアフレコを録音しようとしている	アフレコは一回分しか録音できません。新しい音声を上書きする場合、古い音声は削除されます。	107
プロテクトされています	プロテクト(誤消去防止)をかけた画像を消去しようとしている	消去する場合は、先にプロテクトを解除してから消去してください。	105 108
カードに空きがありません	カードの容量がいっぱいになっている	画質を変えるか、画像サイズを変えるか、画像を消去するか、カードを交換してください。	30
コマ指定がありません	消去、プロテクト、DPOF(プリント)指定、メール画像作成で「コマを指定」を選んでコマを指定しなかった	どの画像を処理するかで「コマを指定」を選んだ場合は、十字キーの上下で対象となるコマを選んでください。	105 109 116 119

メッセージ	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
ノイズリダクション実行中	ノイズが発生しやすい状況のため、ノイズ軽減処理が行われた	処理が終わるまで待ってから次の撮影を行ってください。	49 58

カードなしでの撮影について

このカメラは、カードが入っていなくても静止画の撮影と再生ができます。

この場合、画像はカメラ内部のメモリーに一時的に保存されますが、このメモリは数コマ分の容量しかありませんので、撮影のたびに新しい画像に書き換えられます。したがって、再生で表示できるのは、一番最後に撮影した数コマ分の画像だけです。

また、メモリーに一時保存されているだけですので、カメラの電源を切るとこの画像は消去されます。

また、この画像はカードに保存できませんので、再生中にカードを差し込んだりしないでください。カード内のデータが破損する場合があります。

あれ？と思ったときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社お客様センターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
撮影ができない	SDメモリーカードが書き込み禁止になっている	撮影する場合は、ライトプロテクトスイッチを解除してください。	26
撮影・再生ができない	電池が消耗している	電池を充電してください。	20
	オートパワーオフが作動した	（初期設定では）約3分間以上何も操作をしないでいると、自動的にカメラの電源がOFFになります。	24
	カメラがパソコンに接続されている	パソコンに接続されている間は、撮影や再生はできません。	—
シャッターが切れない	電池容量が少なくなっている（赤色の が表示されている）	赤色の が表示されたときは、バラエティ連写や動画撮影はできません。	23
赤い0000が表示され、「カードに空きがありません」のメッセージが表れシャッターが切れない	カードがいっぱいである	画像サイズまたは画質を変更する、画像を消去する、カードを交換する、のいずれかを行なってください。	30
液晶モニターに情報表示が出ない	液晶モニターが「表示なし」になっている	液晶モニターボタンを押して「表示あり」にしてください。	43

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
液晶モニター右下に赤い●が点灯している	オートフォーカスの苦手な被写体（P.40）を撮ろうとしている	被写体と同じ距離にあるピントの合わせやすいものにピントを合わせて、フォーカスロック撮影を行なってください。	41
	被写体に近づき過ぎている	カメラより、広角側は約10cm以上、望遠側は約40cm以上離れたものにしかピントが合いません。	40
	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	—
液晶モニター右下に  が表示される	フラッシュ発光禁止のため、シャッター速度が遅くなっている	三脚を使って、カメラがぶれないようにして撮影してください。	—
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった、または、露出補正が－側に設定されている	フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。または、露出補正の値を0.0に戻してください。	42 71
画面の一部に黒っぽいものが写っている	レンズ部分に指や髪の毛がかかっていた	レンズに物がかからないようにして撮影してください。	31
画像がブレている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影した	三脚またはフラッシュの使用をおすすめします。	—
	手ぶれ補正機能が[なし]になっている。	手ぶれ補正が作動するように設定してください。	67

（次ページへ続く →）

症状	原因	対策	ページ
光源や光がにじんだり、きれいに再現されない	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	—
日時がリセットされる	カメラの電池が消耗したまま、またはカメラの電池を抜いたまま放置したため、日時の設定が失われた。	電池を交換して、日時を再設定してください。電池交換のたびにリセットされる場合は、弊社アフターサービス窓口またはお買い求めの販売店にて、バックアップ電池の交換をご依頼ください（有料）。	—
パソコンがカメラ（カード）を認識しない	USBドライバのインストールに失敗した	一度アンインストールを行なった後、再接続（または再インストール）を行なってください。	155
	USB接続時のカメラ動作が「PictBridge」になっている	セットアップモードメニューの［USB接続］で［カードリーダー］を選んでください。	138 142
PictBridge対応プリンタで印刷できない	USB接続時のカメラ動作が「カードリーダー」になっている	セットアップモードメニューの［USB接続］で［PictBridge］を選んでください。	138 166
電源を切った後に、アクセスランプがしばらく点滅した状態になる	電源を切った後に、アクセスランプがしばらく（30秒前後）点滅した状態になることがありますが、これは、CCD（撮像素子）の調整を行なうためで、故障ではありません。アクセスランプが消灯するまでは、カメラの電池を取り出さないでください。		29
カメラが正常に作動しない	カメラの電源を切って電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプターセット等使用時は、一度コードを抜いてください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または裏表紙記載の弊社お客様センターにご相談ください。		—

取り扱い上の注意

電池について

- 電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、完全に充電したばかりの電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。
- いったん容量切れになった電池は必ず完全に充電してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

使用温度について

- このカメラの使用温度範囲は0～40℃です。
- 直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
- カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは精密度の高い技術でつくられており、99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の白や黒、赤などの点が現れることがあります。これは故障や異常ではありませんのでご了承ください。なお、記録される映像には影響ありません。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

SDメモリーカード・マルチメディアカードについて

- 下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。
  1. お客様または第三者がカードの使い方を誤ったとき
  2. カードが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
  3. カードへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
  4. カードの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき
- カードをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
- カードには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
- 強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください
- 曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えないでください。
- 強い静電気や強い衝撃によってカードが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
- 端子部に手や金属で触れないでください。
- 熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

DPOF（プリント）指定について

- 他のデジタルカメラでDPOF（プリント）設定したカードをこのカメラに入れ、このカメラでDPOF（プリント）設定し直すと、他のカメラでの設定はキャンセルされます。

その他

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- レンズカバーには手を触れないでください。
- バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やカードの出し入れや、カメラの操作をしないでください。また湿度の高いところに長時間放置しないでください。

  海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置しないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
- 磁石やモーターなど強力な磁気が発生する装置の近くにカメラを置かないでください。また電波塔など強い電波が発生しているところでの使用や放置は避けてください。電磁波によりカメラが誤作動したり、データが破壊される可能性があります。
- テレビやラジオ等の側でカメラを使用すると、受信障害が発生することがあります。発生した場合はカメラを離してお使いください。
- お客様がデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

- カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

- 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
- 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
- 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
- 保管中も時々電源を入れて、カメラを作動させてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
- 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の修理の際には、再生部品を使用したり、再生部品を含むユニットと交換させていただく場合があります。交換した部品およびユニットは回収いたします。また、本製品の補修用性能部品は生産終了後5年間を目安に保有していますが、同等の製品に交換させていただく場合もあります。
- 本製品およびクレードルの修理に関しては、弊社の修理受付サービス「らくらくリペアサービス」をぜひご利用ください（→次ページ）。その他詳しくは、別紙「アフターサービスのご案内」をご覧ください。

らくらくリペアサービスについて

弊社では修理受付サービス「らくらくリペアサービス」を行なっております。お客様自らご送付の手続きに出向かれることなく、「(梱包後)お引き取り」→「修理」→「お届け」をワンパックにし、お客様のご自宅と弊社修理センターとを直結するサービスです。
面倒な手続きを弊社お任せでご利用いただける「らくらくリペアサービス」をぜひご利用ください。

サービス利用料金

全国一律900円(税込)でご利用いただけます。

- 保証適用外の場合は、別途修理料金がかかります。
- サービス利用料金はお申し込みの際に今一度お確かめください。

ご利用方法

1. インターネット・電話いずれかの方法で、下記「らくらくリペアサービス係」へお申し込みください。

2. お申し込み後1～2日後に弊社指定の宅配業者がお伺いいたします。その際梱包材を持参いたしますので、その場で修理依頼品を梱包の上、宅配業者にお渡しいただくか、もしくはお引き取り日を宅配業者にご指定ください。

- 別紙「アフターサービスのご案内」にある「らくらくリペアサービス修理依頼書」に必要事項をご記入の上、修理依頼品といっしょに梱包してください(インターネットで申し込まれた方は不要です)。
- 保証期間内の場合は、必ず保証書を添付してください。

3. デジタルカメラの場合、修理品はお預かり後5日程度でお届けいたします。

- お届けの際に、代金を宅配業者にお支払いください。
- 各種クレジットカードでのお支払いはできません。

【らくらくリペアサービス係】
フリーコール 0120-975-124
受付時間 9：00～17：00(土曜、日曜、祝日を除く)

- 通話料金は無料です。
- 携帯電話・PHSからもご利用になれます。

ホームページ http://ca.konicaminolta.jp/

アクセサリー（別売り）

マリンケース（防水・防塵）MC-DG1

水深40ｍの防水性を備えたマリンケースです。携帯性に優れているので、ダイビングを始めとするマリンスポーツはもちろん、陸上、アウトドアの一般のアウトドアスポーツでも気軽にお使いいただけます。

ACアダプターセット　AC-402

屋内などAC電源が使える場合は、ACアダプターセットを使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。ACアダプター AC-4とDCアダプター DA-200とのセット商品です。→ P.24

クレードル CA-1用　ACコード

クレードル CA-1に付属のACコードはAC100-120V仕様です。日本、アメリカ、カナダ、台湾ではそのままお使いいただけます。その他の国または地域で使われる場合は、その国や地域に応じたACコードを、別紙「アフターサービスのご案内」に記載の弊社フォトスクエア、コニカミノルタネットショップ（コニカミノルタカメラ統合ポータルサイト http://ca.konicaminolta.jp/よりアクセス可能）、お買い求めの販売店のいずれかにてお求めください。詳しくは、上記ホームページの「よくあるご質問」でもご覧いただけます。

地域	ACコード
日本向け（100～120V仕様） ※アメリカ、カナダ、台湾でもそのままお使いいただけます。	ACコード APC-170
ヨーロッパ（イギリスを除く）、韓国、シンガポール向け（220～240V仕様）	ACコード APC-150
イギリス、香港向け（220～240V仕様）	ACコード APC-160
中国向け（220～240V仕様）	ACコード APC-151
オーストラリア、ニュージーランド向け（220～240V仕様）＊	ACコード APC-230

＊オーストラリアでは一部250V地域がありますが、250V地域でもご使用いただけます。

- 海外では同一国内でも地域によって「電圧」「プラグ形状」が異なったり、滞在される施設でも異なる場合がありますので、事前にご確認ください。
- 上記ACコードのプラグがコンセントに挿せない場合があります。その場合は、渡航先で変換プラグをご購入いただくようお願いします。

その他

下記のようなケース、予備用の充電式リチウムイオン電池もご用意しております。

・カメラケース CS-DG104 （ブラック、ホワイト、オレンジ、ブルー）
・本革ケース CS-DG105
・本革ネックストラップ NS-DG400/NS-DG200
・メタルチェーンネックストラップ NS-DG100
・充電式リチウムイオン電池 NP-1

アクセサリーの詳細については、弊社DiMAGEシリーズのホームページ
http://konicaminolta.jp/dimage/ をご覧ください。

主な性能

カメラ本体

有効画素数	約800万画素
撮像素子	1/1.8型総画素数約830万画素インターラインCCD、原色フィルター付き
撮像感度	AUTO (ISO 50～160相当)、ISO50、100、200相当
レンズ構成	10群12枚
焦点距離	7.7～23.1㎜ (35㎜フィルム換算：37～111㎜相当)
開放絞り値	F3.5～F3.8
撮影距離	広角：0.1m～∞／望遠：0.4m～∞ (カメラ前面から) スーパーマクロ時：0.05m～∞ (カメラ前面から)
最大撮影倍率	0.12 (35㎜フィルム換算で0.56倍相当) スーパーマクロ時：0.21 (35㎜フィルム換算で1.02倍相当)
ズーム方式	電動インナーズーム
フォーカス方式	映像AF方式
フォーカスフレーム	ワイド (5点マルチ) /スポットフォーカスフレーム切り替え可能
ホワイトバランス	オート、昼光、曇天、白熱灯、蛍光灯
測光方式	300分割測光、スポット測光
シャッター	CCD電子シャッターと電子制御メカニカルシャッター併用 シャッター速度：1～1/1250秒
露出制御方式	プログラムAE
露出補正	±2EV (1/3EVステップ)
フラッシュ制御方式	プリ発光による発光量制御
フラッシュモード	自動発光/赤目軽減自動発光/強制発光/発光禁止/スローシンクロ
フラッシュ連動距離	広角：約0.3～2.2m、望遠：約0.4～2.1m (カメラ前面から) (撮像感度AUTO時)
充電時間	約6秒
記録媒体	SDメモリーカード、マルチメディアカード
記録画像ファイルフォーマット	JPEG、Motion JPEG (MOV)　DCF 2.0準拠 DPOF (Ver. 1.1) のプリント機能に対応 (日付プリントとインデックスプリントのあり/なし選択可能)、Exif 2.2
記録フォルダー形式	標準形式、日付形式

PIM (PRINT Image Matching)Ⅲ	対応
Exif Print	対応
PictBridge	対応
記録画素数	静止画：3264×2448、2560×1920、2048×1536、 1600×1200、640×480 動画：640×480、320×240
画質モード	エコノミー、スタンダード、ファイン
カラーモード	カラー、モノクロ、セピア
画質調整	シャープネス（3段階）、コントラスト（3段階）
ノイズリダクション	あり（自動）
手ぶれ補正	あり（動画撮影時は電子式手ぶれ補正）
Exif. Tag情報	撮影年月日時分、撮影条件（露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、ホワイトバランス、焦点距離、光源、デジタルズーム倍率、彩度、35mm換算焦点距離、コントラスト、シャープネス等）、色空間情報、Exifバージョン etc.
消去機能	あり（1コマ/アフレコのみ/全コマ/コマを指定） 独立1コマ消去ボタン
誤消去防止機能	あり（1コマ/全コマ/コマを指定）
フォーマット機能	あり
日付写し込み機能	年月日/月日時刻/なし（選択可能）
液晶モニター	2.5型低温ポリシリコンTFTカラー　モニター画素数：約11.8万画素　視野率：約100％
表示言語	日本語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語、スウェーデン語、ロシア語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語
表示内容	撮影時：ライブビュー、各種状態表示 再生時：再生画像（1コマ/インデックス6コマ/動画/音声）、各種状態表示 拡大再生可能：1.1倍～6.0倍
連続撮影	約0.5コマ/秒（撮影条件による）
UHS連続撮影	約10コマ/秒（最大15コマ、記録画素数 640×480）
セルフタイマー	約10秒

主な性能（続き）

動画	ファイル形式：Motion JPEG（MOV）　画素数：640×480、320×240　フレームレート：20フレーム/秒　録画時間：無制限（カードの容量・電池寿命に依る）　音声付き（モノラル）　ナイトムービー機能あり
音声	ボイスレコード（最長180分）、アフレコ（最長15秒） ファイル形式：WAVE（モノラル）
デジタルズーム	1.1倍～4.0倍、なし選択可能
画像の回転（手動）	あり
スライドショー	あり（効果選択も可能）
トリミング	あり
シーンセレクター	手動選択可能（ポートレート、スーパーマクロ、風景、夕景、夜景、夜景ポートレート、テキストから選択）
操作音	音1/音2/なし（選択可能）
AF音	音1/音2/なし（選択可能）
シャッター音	音1/音2/なし（選択可能）
音量調節	可能（4段階）
上下キーカスタマイズ機能	あり（ドライブモード、露出補正、ホワイトバランス、撮像感度、なし）
左右キーカスタマイズ機能	あり（ドライブモード、露出補正、ホワイトバランス、撮像感度、なし）
メール画像作成機能	あり（640×480）
使用電池	専用充電式リチウムイオン電池 NP-1
外部電源	DC 4.7V（ACアダプターセット使用時）
連続動作時間	連続再生：約140分（専用充電式リチウムイオン電池使用）
撮影可能コマ数	約150コマ（CIPA*準拠：本体同梱の電池・記録メディア使用、画像サイズ3264×2448、画質スタンダード、アフタービューなし、フラッシュ50%）　*CIPA：カメラ映像機器工業会
対応OS	Windows® XP/Me/2000 Professional/98 Second Edition/98 Mac OS 9～9.2.2、Mac OS X v.10.1.3～10.1.5 / v.10.2.1～10.2.8 / v.10.3～10.3.9 / v.10.4～10.4.1
AV出力	NTSC/PAL切り替え可能
使用温度範囲	0～40℃
大きさ	95（幅）×68（高さ）×19.5（奥行き）㎜（突起部を除く）
質量（重さ）	約135㌘（電池、記録メディア別）

充電式リチウムイオン電池 NP-1

電圧	3.7V
容量	820mAh
使用温度範囲	充電時：10～45℃
使用湿度範囲	充電時：45～85%（結露なきこと）
保管温度範囲	－20～50℃
保管湿度範囲	45～85%（結露なきこと）
大きさ	36.5（幅）×40.5（高さ）×6.5（奥行き）㎜
質量（重さ）	約18グラム

クレードル CA-1

電源入力端子	入力電圧：100～240V※ 入力周波数：50/60Hz 入力容量：12～17VA
入出力端子	カメラ接続端子 出力：カメラ動作時：4.9V（1.0A） 充電時：4.2V（0.75A） USB※※/AV出力端子
充電時間	電池単体時：約120分 カメラ装着時：約120分
使用温度範囲	0～45℃
使用湿度範囲	40～85%（結露なきこと）
保管温度範囲	－20～60℃
保管湿度範囲	40～90%（結露なきこと）
大きさ	109（幅）×62（高さ）×48（奥行き）㎜
質量（重さ）	約100グラム（ACコード、ケーブルを除く）

※ クレードルCA-1に付属のACコードを日本、アメリカ、カナダ、台湾以外の国や地域で使われる場合は、その国・地域に応じたACコードを弊社アフターサービス窓口、または、お買い求めの販売店にてお求めください。詳しくは、184ページ、または、弊社カメラ統合ポータルサイト http://ca.konicaminolta.jp/ の「よくあるご質問」をご覧ください。

※※ USB2.0対応機器と接続時はフルスピード[12Mbps]でのデータ転送となる。

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

索引

索引

数字・アルファベット

MEMO

MEMO

MEMO

KONICA MINOLTA

コニカミノルタ フォトイメージング株式会社

ホームページ

製品の互換性情報や最新版ドライバソフトウェアの提供、よくある質問（FAQ）とその回答などのサポート情報については、弊社カメラ統合ポータルサイトをご覧ください。
http://ca.konicaminolta.jp/

弊社DiMAGEシリーズデジタルカメラの商品情報については、以下のホームページをご覧ください。
http://konicaminolta.jp/dimage/

お客様センター

本製品に関するお問い合わせ、ご相談などをお受けします。

フリーコール 0120-162-414
※通話料金は無料です。携帯電話・PHSからもご利用になれます。

FAX 03-5689-9211

受付時間 10:00～18:00（日・祝日定休）

0 43325 53460 7

QuickTime

Printed in China
9223-2801-61 NI-B508

DiMAGE X1

使用説明書